

# ほうろく屋敷遺跡

—川西地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—

1991. 3

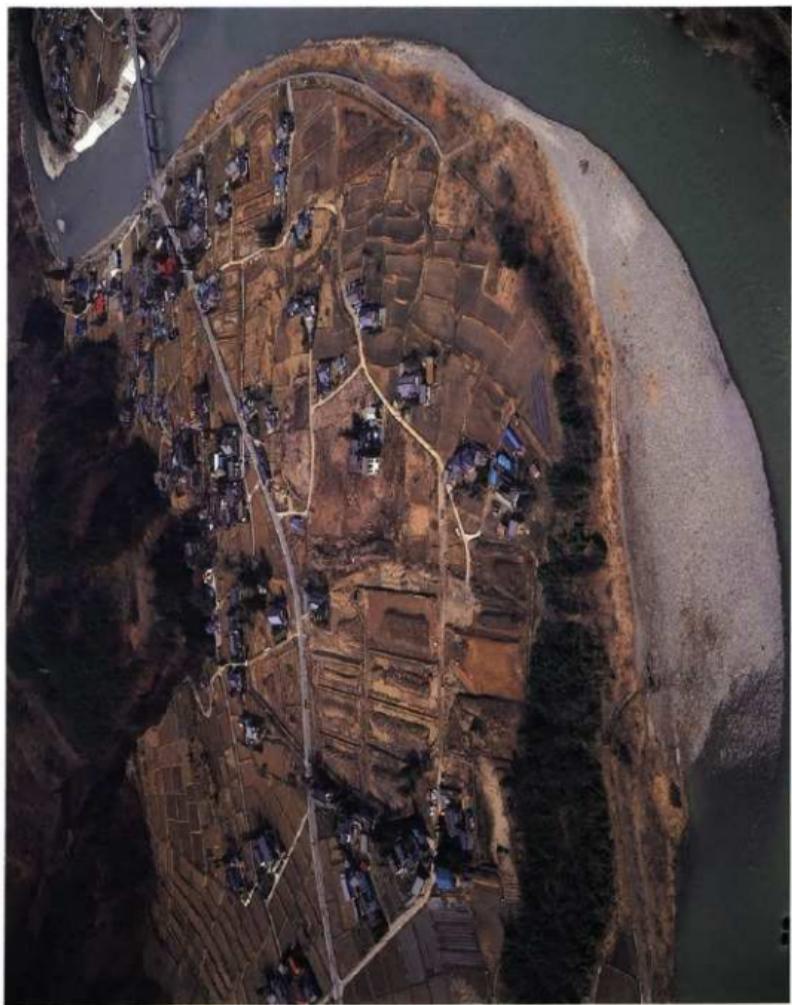
明科町教育委員会

# ほうろく屋敷遺跡

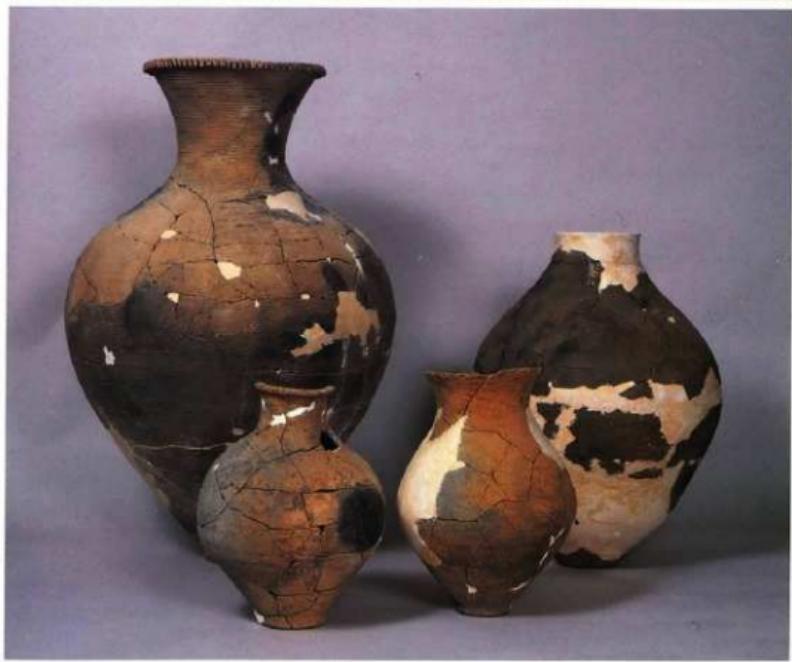
—川西地区県営は場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—

1991. 3

明科町教育委員会



遺跡全景（東方上空より）



弥生再葬墓C群3号出土土器



弥生再葬墓A群4号  
土器出土状況



弥生再葬墓C群1号  
土器出土状況



弥生再葬墓C群5号  
土器出土状況



J20号住出土土器

## 序

ほうろく屋敷遺跡は、明科町の最北端南陸郷小泉地区にあり、犀川左岸の河岸段丘上に縄文時代早期末から現在までの非常に長い期間人々の暮らしが営まれてきた、人にかかる歴史の歩みです。

今回明科町川西土地改良区のは場整備事業に伴い、昭和63年7月から平成元年3月までの約8ヶ月間、さらに平成元年8月から12月までの4ヶ月間の2回にわたって発掘調査がおこなわれました。

この、ほうろく屋敷遺跡は調査面積約13000m<sup>2</sup>を発掘し、縄文時代中、後期の配石造構や土壙、同時期の住居址66軒などが確認され、特筆すべきものは、弥生時代初期の配石を伴う再葬墓が16基、弥生時代後期の住居址1軒、平安時代の住居址20軒、中近世の建物址2棟など、遺構、遺物の豊富さ、種類の多さは大変に貴重なもので、歴史的な解明の資料遺産として今後に役立つものと信じております。

この発掘調査にあたり、ご理解ご協力下さいました調査員の先生方をはじめ、土地改良区役員の方々など関係各位に深甚の敬意と感謝を申し上げまして序のご挨拶といたします。

平成3年3月20日

明科町教育長 堀内 弘

## 例　言

- 1、本書は、川西地区県営は場整備事業に伴い、松本地方事務所と明科町教育委員会との委託契約にもとづいて実施した、明科町大字南陸郷小泉地区所在のほうろく屋敷遺跡発掘調査を報告書である。
- 2、調査は昭和63年7月～平成元年3月、同年8月～12月の2次にわたって行い、経費については、松本地方事務所からの委託金および国庫、県費補助金を受けた。
- 3、調査結果については、基本的事項はできる限り統一を図ったが、表現方法等について若干の差異がある点は了解されたい。また、遺物が極めて多量であり、時間的制約もあり、遺構では住居址中心となり土壙や配石遺構にはほとんどふれることができなかった。遺物については、一部を写真で紹介できただけである。お許しをいただきたい。
- 4、遺物整理および記録類の整理作業から報告書作成は平成元年度、2年度の2年次にわたって実施した。分担は次のとおりである。

遺構……整理、トレイス 大沢、池上、藤原、矢花、細尾(分)、内山鶴、細尾(主)、関崎  
遺物……洗浄、注記 内山鶴、和田、宮沢、唐沢、藤原、矢花、小林、黒須、細尾(分)、本林、  
太田、栗和田、吉井、宮島鶴、宮島鶴、中村  
土器復元 大沢、龍野、望月、内山鶴、和田、宮沢、唐沢、藤原、天花、小林、細  
尾(分)、本林、太田  
土器実測 大沢、龍野、島田（大町市教委）  
図版組み……大沢、龍野、関崎  
写真………大沢、北条（町役場広報係）が一部分を行ったほか、土器の多くは、ほおずき書  
籍部に委託した。
- 5、本書の執筆は、大沢が主として行い、第1章3節は事務局、第3章6節は龍野が行った。
- 6、本書の編集は、大沢、龍野、関崎が行った。
- 7、石器類の石質は大町高校森義直先生に鑑定をお願いし、あわせて計測、分類を行ったが、編  
集の都合により掲載できなかった。
- 8、弥生時代再葬墓出土土器の実測については、国立歴史民俗博物館・設楽博巳氏、長野県埋蔵  
文化財センター、中沢道彦氏、長野市埋蔵文化財センター・寺島孝典氏にお願いした。記して  
謝意を表したい。
- 9、古代～近世の出土遺物については、長野県埋蔵文化財センター原明芳氏の御教示を得た。記  
して謝意を表したい。
- 10、古代の出土土器の名称については、中央道長野線報告書4、総論篇の例にならった。

11、実測図中のスクリントーンは以下のことを表現している。

遺物



黒色処理



赤彩

遺構



焼土



炭化物、灰

12、第3章第4節中、土器類の実測図で、断面を黒く塗りつぶしたものは、須恵器と灰釉陶器であり、その他は土師器等である。

13、本調査の出土品、諸記録は、明科町教育委員会が一括保管している。

# 目 次

序

例 言

目 次

## 第1章 調査状況

第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 調査体制.....	3
第3節 調査日誌.....	5

## 第2章 遺跡の環境

第1節 自然環境.....	26
(1) 地 形.....	26
(2) 地 質.....	28

第2節 歴史的環境.....	31
----------------	----

## 第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要.....	34
----------------	----

第2節 縄文時代の遺構と遺物.....	40
(1) 住居址.....	40
(2) 墓 墓.....	108
(3) 配石遺構 .....	116

第3節 弦生時代の遺構と遺物 .....	120
----------------------	-----

(1) 住居址 .....	120
(2) 墓 墓 .....	124

第4節 古代の遺構と遺物 .....	160
--------------------	-----

(1) 住居址 .....	160
(2) 建物址 .....	192

第5節 中近世の遺構と遺物 .....	194
---------------------	-----

第6節 その他の遺物 .....	199
------------------	-----

第4章 まとめ .....	206
---------------	-----

# 第1章 調査状況

## 第1節 調査に至る経過

昭和61年から行なわれる県営は場整備事業川西地区の工事施工区域の中に、南陸郷小泉地区のほうろく屋敷遺跡、<sup>ちよげき</sup>露海波遺跡が含まれているとのことで、昭和60年10月7日、県教委文化課、松本地方事務所七地改良課、町は場整備室、町教委が現地協議を行い、当該遺跡に工事が及ぶ昭和62年以降に発掘調査を行うことと、今年度中に範囲の確認調査を行うこととし協議を終了した。

町教委では、昭和61年3月21日～24日まで範囲確認のための試掘及び表面採集を行った。その結果、從来遺跡地とされた犀川第4段丘にはほとんど遺物は見られず、下面の第5段丘に遺物の濃厚な散布が見られたが、試掘で遺構は検出されず、第5段丘上の約2万平方メートルが範囲と考えられた。

その後、地元土地改良区及び町は場整備室との協議で、小泉地区の工事施工は面工事最終年度の昭和63年とすることとなった。

工事施工に先立ち、昭和62年9月16日再度現地協議が行なわれ、昭和63年度に2000m<sup>2</sup>以上の発掘調査と一部整理、次年度に本整理と報告書刊行を行うこととなった。

昭和63年度は発掘調査と一部整理を予算13,000万円（農政部負担9,425千円、文化財保護負担3,575千円）で実施することになった。

調査は昭和63年7月13日から行なったが、約3,000m<sup>2</sup>の範囲で縄文中期～後期、弥生初頭の配石遺構が検出されたため、9月10日県教委文化課、町構造改善室、町教委で現地協議を行った。文化課からは、全国的にも貴重な遺構があるので全面保存が望しく、もし保存が不可能なら全面発掘が必要であるとの見解が出され、町からは工法的に現状保存は困難であり、全面発掘の方向で地元と検討したいとの返答があり、次年度に継続して全面発掘を行うこととなった。以後、9月18日に地元土地改良区の地権者との協議を経て、本年度は現況調査部分とあわせ5,000m<sup>2</sup>以上を調査し、翌年度は更に周辺部を4,000m<sup>2</sup>以上調査することとした。

以下事務手続きについて記すこととする。

昭和62年12月19日 補助事業計画提出。

昭和63年4月16日 国庫補助金内定通知。（4月7日付）

4月30日 国庫補助金申請書提出。

5月31日 県費補助金内定通知。

6月17日 県費補助金申請書提出。

- 7月11日 松本地方事務所長と昭和63年度発掘調査委託契約を締結。
- 7月31日 国庫補助金交付決定通知。
- 8月25日 県費補助金交付決定通知。
- 11月16日 地方事務所へ変更協議。
- 11月17日 地方事務所長と委託契約の変更契約を締結。
- 12月22日 昭和64年度補助事業計画提出。
- 平成元年 1月12日 国庫補助金変更承認申請。
- 2月28日 松本地方事務所長へ発掘調査完了報告提出。
- 3月15日 県費補助金変更承認申請。
- 3月20日 国庫及び県費補助金交付決定通知。
- 4月10日 国庫及び県費補助金実績報告提出。
- 4月10日 国庫及び県費補助金確定通知。
- 平成元年度**
- 平成元年 5月23日 国庫補助金内定通知。(4月3日付)
- 5月26日 国庫補助金申請書提出。
- 7月18日 国庫補助金交付決定通知。
- 7月13日 県費補助金内定通知。(4月3日付)
- 7月21日 県費補助金申請書提出。
- 8月1日 松本地方事務所長と平成元年度分発掘調査委託契約締結。
- 9月11日 県費補助金交付決定通知。
- 平成2年 1月4日 平成2年度補助事業計画提出。
- 3月28日 松本地方事務所長に発掘調査完了報告書提出。
- 4月10日 国庫及び県費補助金実績報告書提出。
- 4月10日 国庫及び県費補助金確定通知。
- 平成2年度**
- 平成2年 5月28日 国庫補助金内定通知。(4月4日付)
- 5月30日 国庫補助金申請書提出。
- 7月24日 国庫補助金交付決定通知。
- 8月4日 県費補助金内定通知。(4月4日付)
- 8月10日 県費補助金申請書提出。
- 8月31日 松本地方事務所長と平成2年度発掘調査委託契約締結。
- 10月12日 県費補助金交付決定通知。

## 第2節 調査体制

昭和63年度

調査団長 落合 今朝人（町教育長）

調査担当者 大沢 哲（町教委社会教育係主任）

調査員 山越 正義（長野県考古学会員）

三村 驥（〃）

降旗 俊行（〃）

山本 紀之（〃）

特別調査員 西沢 寿晃（信州大学医学部助手）

調査補助員 龍野 守（信州大学生）

池上 武好

発掘作業参加者 青木勝次、青木周栄、赤堀哲夫、石井涉、伊藤勝、牛越久栄、内山喜和子、大堀孝江、小日向安子、小林佐恵子、小松茂夫、塙原健市、塙原静雄、塙原正治、高野良孝、高橋豊子、高橋ひめ子、田中加恵子、坪田忠継、野口弁徳、幅三栄、波場道子、平林つね子、藤原誠子、降幡籍治、堀内国夫、堀内千代子、堀内祐子、牧野幸子、丸山美代治、宮沢菊太郎、宮川琢郎、望月弘満、柳沢さつき、矢花広子、吉井進、吉井文子、和田一男、宮島宗一、野口寿子、中村千代子、本木八代子、塙原敦子、幅百合子、幅けさ子、宮島哲子、竹内なつ子、内山明美、本林美枝子

事務局 学校教育係長 山崎正博、社会教育係長 宮沢拓二、社会教育係 大沢哲、西村永明、学校教育係 市川明美

平成元年度

調査団長 落合 今朝人（町教育長 9月26日逝去） 堀内 弘（町教育長 10月26日就任）

調査担当者 大沢 哲（町教委社会教育係主任）

調査員 三村 驥（長野県考古学会員）

山越 正義（〃）

山本 紀之（〃）

降幡 俊行（〃）

特別調査員 西沢 寿晃（信州大学医学部助手）

調査補助員 龍野 守（信州大学生）

池上 武好

塙原 久和（信濃史学会員）

発掘作業参加者 赤堀哲夫、牛越久栄、小日向安子、小林佐恵子、小松茂夫、塙原健市、塙原静雄、高野良孝、田中加恵子、高橋ひめ子、坪田忠雄、野口寿徳、平林つね子、藤原誠子、降幡籍治、堀内国夫、堀内千代子、堀内祐子、望月弘満、矢花広子、宮島宗一、野口寿子、輻けさ子、竹内なづ子、太田文子

整理作業参加者 宮島哲子、宮島勝子、内山喜和子、和田栄子、宮沢幸子、唐沢政子、太田文子、藤原誠子、矢花広子、小林のり子、黒須ふみ、細尾みよ子、本林美枝子、栗和田よし子、吉井文子

事務局 教育次長 塙原健仁、社会教育係長 宮沢拓二、社会教育係 大沢哲、矢花幸恵

#### 平成2年度

調査団長 堀内 弘（町教育長）

調査担当者 大沢 哲

調査員 山本 紀之（長野県考古学会員）

降旗 俊行（ 〃 ）

龍野 守（ 〃 ）

調査補助員 塙原 久和 池上 武好

整理作業参加者 内山喜和子、唐沢政子、小林のり子、藤原誠子、細尾みよ子、宮沢幸子、矢花広子、和田栄子、望月弘満、内山明美、細尾さゆみ、関崎光子

事務局 教育次長 塙原健仁、社会教育係長 小山満智枝、社会教育係 大沢 哲

### 第3節 調査日誌

昭和63年度

昭和63年1月13日（水） 晴 土層確認のためバックホーによりトレンチを入れる。東側のトレンチで落ち込み多数確認するが、ベースの黄色砂層までが非常に浅い。縄文後期の土器片が多い。西側のトレンチでは落ち込み数ヶ所、平石（敷石住居と思われる）2ヶ所、土器集中区、北側から玉砥石2ヶ出土、縄文後期、中期末の土器片が多い。打斧数点。どちらのトレンチも地層が複雑で遺構の検出には困難を極めそうである。

7月19日（火） 曇 本日より発掘のための表土削除開始。東側のトレンチ側から作業開始。ベースがはっきりとわからないが耕土を削除すると20cm～30cmで黄色砂層となるが実際はもっと上のよう感じだがつかめない。落ち込み7～8ヶ所、ピット5～6ヶ所あり、黒色土の落ち込みはおそらく平安期の住居址か。土器片多し（中期～後期）打斧、石匙、出土。

7月20日（水） 曇のち雨 昨日に引きつづき表土削除。土の変化が非常に激しく遺構面をつかめない。数ヶ所落ち込みらしきものあり。埋甕2ヶ（中期末）、土器集中区（中期中～末）あり。遺構の検出はできない。午後は雨で作業はかどらず。

7月21日（木） 晴 松枝宅北側の削平を先行して行う。炭混じりの黒土の落ち込み中より平安期の藏骨器出土。敷石住居らしいものがあり縄文後期の生活面を土器片の出土状

況から追う。その下から中期の土器出土。

7月22日（金） 曇 昨日の後期面を追い、石が出たところで削除をやめる。北側ほど疊がまじり耕作によるかく乱がひどい。遺構らしき敷石が2～3ヶ所ある。

7月23日（土） 曇 一昨日の続き。石が出る面で削除を止めながら行なう。耕土の最下部のグライ層あたりから、もう石が出る。敷石らしいものもある。

7月24日（日） 休日

7月25日（月） 曇 北西区の削除作業続行。敷石住居らしいものがある。仮設トイレが建つ。

7月26日（火） 曇 本日で北西区発掘予定地の表土削除ほぼ終了する。西側地区での遺構の検出はかなりの困難を伴うもようである。

7月27日（水） 晴れのち小雨 本日より発掘作業開始。事務局より挨拶および作業方法等の説明があったのち、テント設営、基本グリッド設定、基準点測量を行なう。東北区及び東区よりジョレンによる遺構検出作業を開始する。東北区において平安時代住居址4軒、土壙8ヶ、縄文時代炉址1ヶ、出土。その他不明の落ち込みが多いが耕作時のかく乱によりプランをつかめない。

7月28日（木） 雨のため作業中止。プレハブ小屋設営。机、イスの搬入。テント内の資材の点検を行う。

7月29日（金） 晴 一昨日に引き続き東北区及び東区の遺構検出作業。南側及び東側へ拡大。平安期住居址1軒、土壌3ヶ出土。

埋甕の周辺を精査するが遺構は不明。南区は不明の落ち込みが多い。トンレチ東の東側も検出作業。弥生土器、縄文土器、灰釉等出土。

7月30日（土） 休日

7月31日（日） 休日

8月1日（月） 晴 東側の遺構検出。H2号住プランはば確認。覆土よりスラッグ内耳等出土。H3号住プラン確認、内黒杯2点出土。J1号プラン不明、床面確認。J-5区で縄文期のものと思われる住居址2軒、J-4区で落ち込み1軒出土。H-1、2区、I-1、2区で土器集中区、敷石らしいものあり。精査及びプランの確認を要す。H-3区の落ち込みは時期が古いのではないかと思われる。

8月2日（火） 晴 J、K、L-6～2区まで精査する。土壌多数出土、時期は不明である。G、H、I-1、2区土器集中区では中期初頭～後期前半の遺物極めて多く出土する。G、H、I-3区で土壌集石を伴う配石墓と思われるものが出土したが時期は不明である。町報あかしな取材。

8月3日（水） 晴 本日は非常にむし暑かった。松枝宅南側の精査。G、H、I-1、2区の集石区から土器多く出土。F、G-3、4区にかけて配石墓3基、F-2区から埋甕出土。A-E-1、2区にかけて精査、遺構は確認できない。

8月4日（木） 晴 G、H、I-1～2区土器集中区精査、完形に近いものあり。F、G-3、4区において配石墓5～6基出土、

遺構検出。A-E-3～7区にかけ遺構検出。B-4、E-2区に敷石住居址らしきものあり。

8月5日（金） 晴 西側地区A～D4～5区正体不明の集石あり。H～J-1、2区石器類多数出土。

8月6日（土） 休日

8月7日（日） 休日

8月8日（月） 晴のち雷雨 遺構検出。A～E-1～6区においては全面に集石が見られる。C-4区で小石をしきつめた配石墓3基、E-3区でF-3区と続くと思われる敷石住居らしい集石、E-5区と東南隅、E-6区東南隅に配石墓、E-7区で炉址2ヶ所、F-7区で炉址、G-8区で平安末の火葬場のあとと思われる骨づば出土。午後2時30分頃より雷雨で作業中止、のちプレハブで土器洗い。

8月9日（火） 晴 G-7、8区で遺構検出終了。A-1区から新たに再検出。配石墓、7基確認。今日も暑かった。駐車場設置のためバックホーで表土をはぐ、及びテントの後片付けを行う。E-6区で土偶出土、両手足をかく。

8月10日（水） 曇時々雨 西側において配石の精査、配石墓28基確認。E-4区において土偶、E-4、6区で釣手土器出土。

8月11日（木） 曇時々晴 配石の精査。配石墓10数基確認。Fグリットの発掘区拡張土器集中区への掘り下げ。中期中葉の土器、石器多量に出土。

8月12日（金） 炎 プレハブ内の遺物の整理、点検。

8月13日（土）～16日（火） 盆休み。

8月17日（水） 曇のち雨 遺構検出作業再開。新たにF-4、5区の拡張を行う。配石墓らしい石組みが3~4基ある。C-4区で石鏡5点出土。午後4時頃から雷雨。午後4時20分より休憩、雨止む様子がないため作業中止。中日新聞記者來訪。

8月18日（木） 晴のち雨 遺構検出作業続行。配石墓Noをつける。No51~No136まで確認。F-4、5区の検出作業は、ほぼ遺構の輪郭をつかむ。3時30分より雷雨のため室内で土器洗い。信濃毎日新聞記者來訪。

8月19日（金） 曇時々雨 遺構検出作業続行。配石墓No148まで番号付ける。輪郭のわからないものが多く精査を要す。A、B、C-1、2区、B、C-2、3区、B、C-4、5区、E-4区、F-4、5区、G、H-1、2区遺構の検出。11時30分頃から雨、11時45分作業中断。2時30分、雷雨作業中断。3時より室内で土器洗い。町長來訪。

8月20日（土） 休日

8月21日（日） 休日

8月22日（月） 晴 遺構検出作業続行。B-2、3区集石、B-4、5区集石、B、C-1、2区集石、C、D-2区集石、D、E-5区集石、F-4、5区集石、G、H-1、2区土器集中区の遺構検出作業。配石墓No149、150を付ける。本日残暑厳しく暑かった。

8月23日（火） 晴のち雨 遺構検出作業続行。敷石1号住居遺構検出。2mメッシュ釘打ち。全体配置図作成。配石墓No152まで付ける。残暑きびしく暑かった。

8月24日（水） 曇時々雨 遺構検出作業続行。東海系弥生初頭条痕文土器確認する。

全体配置図作成。配石墓No219まで付ける。午後1時~2時まで雨の為作業中止、室内で土器洗い。

8月25日（木） 晴のち雷雨 遺構検出作業続行。A、B、C-2、3区、AB-4、5区、C-5、6区、GH-1、2区検出作業。概測図（配石墓）作成。遺物地点座標取り。午後3時30分頃より雷雨のため室内で土器洗い。

8月26日（金） 晴 遺構検出作業続行。A~D-2~7区まで全面とE~G-8~9区平安期住居1軒、火葬骨、藏骨器の検出作業、概測図（配石墓）の作成。午後2時30分より県埋蔵文化財センター平林氏來訪、北村遺跡の成果をもとに指導を受けた。

8月27日（土） 休日

8月28日（日） 休日

8月29日（月） 晴 A、B-4~6区、D、E-3~6区の配石墓、G、H-1、2区の土器集中区の遺構検出作業。A、B、C-1、2、3区、D、E-3~5区、A、B-5、6区の遺構略測図作成。本日も残暑厳しかった。

8月30日（火） 晴 A、B-4~6区、D、E-2~7区、G、H、I-1、2区の遺構検出作業。遺構略測を終了する。土器集中区の遺構実測を開始する。

8月31日（水） 晴 A、B-4、5、6区、D、E-2、3、5、6区、G、H、I-1、2区の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測作業。

9月1日（木） 晴 A、B-4~6区、D、E-3~6区、F、G-3、4区の遺構検出作業。G、H、I-1、2区土器集中区

遺構実測。配石墓の台帳作成。中央航業佐藤氏写真測量打合せのため来訪。9月26日~28日航空測量実施予定。

9月2日（金） 晴 A、B-4~6区、D、E-2~4区、F-4~6区、F、G-3区遺構検出作業。配石墓No.320まで付ける。

G、H-1区の土器集中区の遺構実測作業。  
県教育文化課（西原、児玉、百瀬氏）松本地  
方事務所土地改良課（馬場、太田、宮下氏）  
町構造改善室職員、松本市教委（神沢、関沢）  
町長来訪。10時30分~11時30分まであづみ野  
テレビ取材。

9月3日（土） 休日

9月4日（日） 休日

9月5日（月） 曇時々雨 A、B-4区、  
D-2~4区、F、G-2、3区、F-4~6  
区遺構検出作業。朝より雨模様のため午前中  
と4時から室内で土器洗い。本日より中央道  
北村遺跡発掘開始。北村公民館建築現場で骨  
2体発見の報告あり、午後3時より現地調査  
をする。江戸末（文化、文政期）の大日堂の  
堂守の墓と思われる。

9月6日（火） 雨のため作業中止、構造  
改善室にて遺物台帳のパソコン入力。

9月7日（水） 曇のち晴 B-3~6区、  
D-2、3区、F-5、6区、G-2、3区、  
E-2区の遺構検出作業。午後3時20~4時  
20分まで松本地方事務所土地改良課と委託料  
の増と面積増の協議をする。県教育文化課と  
県土地改良との資金面での協議をたのむ。

9月8日（木） 晴 B-4~6区、D-  
2、3区、F-5、6区、G-2、3区、E-  
2区（敷石住居と思われる）の遺構検出作業。  
配石墓台帳及び遺構図1/100縮尺図の作成。

9月9日（金） 晴 C-2、3区、B-  
2、3、5、6区、E-2区、F-4、7区、  
G-2、7区、H-2、3区の遺構検出作業。  
配石墓台帳及び遺構図1/100縮尺図の作成。バ  
ックホーによる範囲の確認。配石墓No.325まで  
付ける。

9月10日（土） 晴 本日現場作業は休み、  
実測図の整理。

9月11日（日） 休日

9月12日（月） 晴 B、C-3、4区、  
C、D-2、3区、B、C-5、6区、E-  
1、2、5区、F、G-2、3区の遺構検出  
作業。土器集中区及び配石墓の遺構実測と配  
石墓の遺構カードの作成。

9月13日（火） 晴 B、C-2~5区、  
C-1、4区、D-6区、E-4、5区、F-  
4区の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。  
配石墓の遺構カード作成。

9月14日（水） 晴 B、C、D-1~4  
区、D-5、6区、E-5、6区、F-2区  
の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。10  
時から土地改良区塩原副理事長と工事延長打  
ち合せ。午後町構造改善室職員と発掘予定打  
ち合せ。

9月15日（木） 晴 終日遺物の座標をバ  
ソコン入力のため構造改善室で作業。休日（敬  
老の日）のため現場作業は休み。

9月16日（金） 晴 B、C-2~4区、  
D-2区、C、D-5、6区、D-4区、E-  
4、5区の遺構検出作業。G、H-1区の土  
器集中区の遺構実測。議会文教委員会視察。

9月17日（土） 休日

9月18日（日） 休日

9月19日（月） 晴 A-1、2区、B-

1、2区、C-1、2区 D-1、2区の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。

9月20日（火）雨天のため作業中止。午前中遺物整理。午後遺物古帳のパソコン入力。

9月21日（水）晴 A～D-1、2区地山まで掘込み遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。

9月22日（木）晴 A～D-1～3区の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。

9月23日（金）休日（秋分の日）

9月24日（土）雨天のため現場作業休み。プレハブで遺物整理。

9月25日（日）休日

9月26日（月）曇 昨日までの雨のため午前中排水作業。A～D-1～3区遺構検出作業。土器集中区遺構実測。石器洗い及び注記など遺物整理。

9月27日（火）曇のち雨 A～D-2～4区の遺構検出作業。土器集中区遺構実測。石器洗い及び注記など遺物整理。本日午後3時頃より雨のため土器洗い実施。

9月28日（水）曇 A～D-2～4区の遺構検出作業。C-3区で集石出土。土器集

中区の遺構実測。

9月29日（木）曇のち晴 A～D-2～4区の遺構検出作業。土器集中区の遺構実測。

9月30日（金）曇のち雨 A～D-3、4区遺構検出。A-3区で落ち込みあり。土器集中区の遺構実測本日終了。午後雨のため作業中止。

10月1日（土）休日

10月2日（日）休日

10月3日（月）晴 A-3、4区、B-3、4区、C-3、4区、D-3、4区の遺構検出作業。

10月4日（火）晴 A～D-4、5区の遺構検出作業。6号墓東側から土壤検出。

10月5日（水）曇のち雨 A～D-4、5区遺構検出作業。午後3時頃より雨のため午後4時より作業中止、室内で遺物整理。

10月6日（木）雨のため作業中止。遺物座標パソコン入力のための準備。

10月7日（金）晴 A-4、5区、B-4、5区、C-5区、C-4、5区の遺構検出作業。B-5区配石墓No269、No270号附近から骨が出土する。



10月8日（土） 晴 現場作業は休日。遺物座標パソコン入力。

10月9日（日） 休日

10月10日（月） 休日（体育の日）

10月11日（火） 晴 A-5区、B-5区、C-5区、D-5区の遺構検出作業。

10月12日（水） 曇 A-5、6区、B-5、6区、C-5、6区、D-5、6区の遺構検出。

10月13日（木） 曙のち晴 A-6区、B-6区、C-6区、D-6区、E-1、2、4、5区の遺構検出作業。

10月14日（金） 晴 E-1、2、4、5区、F-1、2区遺構検出作業。

10月15日（土） 晴 現場作業は休日。遺物座標パソコン入力及び台帳整理。

10月16日（日） 休日

10月17日（月） 曙時々雨 E、F-1～7区の遺構検出作業。E-6区で土壤出土。雨のため午前で作業中止、午後石器洗い。樋口昇一氏19日の川手教育研究集会の遺物貸出の件で来訪。

10月18日（火） 曙 E、F-3～7区の遺構検出作業。出土石器類の水洗い。

10月19日（水） 晴 F-1～5区、E-4～6区、G-1～4区の遺構検出作業。

10月20日（木） 晴 F、G-1～3区の遺構検出作業。明日の空撮準備のため清掃。中央航業より技師2名対空標識設置のため来訪。

10月21日（金） 曙時々雨 空撮のため遺構消掃及び散水を全面に行った。午前11時よりヘリコプターによる空撮11時40分終了。作業員は3名を残し午前中のみ、午後は配石墓

のNoを付ける。

10月22日（土） 晴 A-E-1～3区の遺構検出作業。配石墓の再点検及びNo付け。

10月23日（日） 休日

10月24日（月） A、B-1～3区配石をはずし、地山まで削り土壤の検出。G、H、I-1、2、土器の洗い出し。A-Eの3、4区の配石墓の再点検とNo付け。A-1～6区まで道路沿いの壁清掃。発掘地区の南側拡張のため表土削除作業をバックホー2台で行う。

10月25日（火） 晴 A-3、4区、B-3、4区、C-1、2区、D-1、2区及びH、I-1、2の土器集中区配石をはずし土壤の検出。A-1～6区壁清掃。A-5、6区、B-4～6区、C-4～6区、D-4～6区、E-4～6区の配石墓の再点検とNo付け。昨日に引き続き拡張作業。

10月26日（水） 晴 A-D-1～3区配石をはずし土壤の検出。土器集中区を南へ拡張。昨日に引き続き拡張作業。

10月27日（木） 晴 B-D-2～6区配石をはずし土壤の検出。G、H、Iグリットを南へ拡張。午前中のみ昨日に引き続き拡張作業、午前10時より文化財調査委員会を開催、遺跡の概要について説明、午後12時40分に終了。

10月28日（金） 曙のち雨 B-2、3区、D-4、5区、G、H、I-1、0、01区遺構検出作業、午前中のみ昨日に引き続き拡張作業。午後雨天のため作業中止し見学会の準備。

10月29日（土） 曙のち雨 B-4区、C-4区、D-5、6区、G、I-1、0、01区

の遺構検出作業。午後見学会のための準備。

10月30日（日） 曇時々晴 本日現地見学会、午前10時～12時2回、午後1時～3時3回の説明を行なう。見学者約150名あり。

10月31日（月） 晴 ブレハブ移転のため作業中止、終日小屋片付け。

11月1日（火） 晴 ブレハブ移転のため終日周辺整備。B～E-6区、D～F-1、00、01区の遺構検出。D-1、00区で住居址の炉あり。E-0、01区で土器集中区あり。A-2、3区集石の遺構実測。

11月2日（水） 曇時々晴 D、E-1、00、01区、E-3、4区、D-6区遺構検出。A-1、2区遺構実測。ブレハブ移転のため周辺整備。午後4時40分県教委小林、児玉氏来訪。

11月3日（木） 晴 休日のため現場作業休み。

11月4日（金） 晴 昨日に引き続き遺構検出作業。C、D-1、00、01区住居址の床面らしいものあり。E、F-4～6区集石はずし。A-1区集石の遺構実測。

11月5日（土） 雨のち晴 休日のため現場作業休み。遺物整理。

11月6日（日） 晴 休日のため現場作業休み。遺物整理。

11月7日（月） 晴 遺構検出作業続行。B、D-1、00、01区で骨出土。E、F-3、4区で敷石住居1軒出土。E、F-6、7区で平安時代と思われる住居址及び黒色土師出土。

11月8日（火） 晴 B-1、00区、D-00区、E-6、7区、F-6、7区、G-1～3区、H-1、2区の遺構検出作業。E-

6、7区で平安住居1軒出土。G-1～3区、H-1、2区多数の落ち込みあり。

11月9日（水） 晴 F-7区、G-7区で注口土器出土。炉あるが住居になるのか不明。A、B、C-1、00、01区敷石住居あるらしいプラン不明。

11月10日（木） 曙 A-01、00区、B-00、01区、C-00、01区、G-1、00、7、8区、F-7、8区の遺構検出作業。

11月11日（金） 曙時々雨 A、B-1、00、01、F、G-1、00、01区、E、F、G-7区遺構検出作業。E-6、7区で出土の平安期住居H-7号とする。

11月12日（土） 晴 A-5、6区、B-5、6区、C-00、01、5、6区、E-1、00区、G-00、01区の遺構検出作業。

11月13日（日） 休日

11月14日（月） 曙時々雨 A-E-6、7区配石をはずし土壤の検出。C、E-1、00、01区遺構検出。F、G-3区の石棺墓1、2号掘り下げ及び土壤掘り下げ。

11月15日（火） 晴 D、E-5、6区で弥生再葬墓出土、周辺に弥生土器多く落ち込みあり。F、G-3、4区の1号墓、2号墓、3号墓掘り下げ。土壤掘り下げ。D、E-1、00、01号墓掘り下げ。石棺墓らしきもの1基出土。地山を探るため小トレンチを北西方向に入れると。1号墓、2号墓、3号墓、土壤の断面図及び平面図作成。

11月16日（水） 曙のち雨 C、D-5、6区で多数の落ち込みあり。D、E-1、00、01区掘り下げ。F、G-3、4区、B-1、00区遺構検出作業。

11月17日（木） 曙 A、B-1、00、01

区、C、D-00、01区遺構検出。A-D-3、4、5区配石はずしと土壤検出。F-2、3、4区配石基、土壤掘り下げ。土壤15中に土器敷あり。平面図を取る。

11月18日（金） 雨のため作業中止。

11月19日（土） 雨のち晴 B、C-5、6区、A-4区遺構検出。遺構精査。埋甕5号取りあげ。土壤15底部土器敷検出及び実測。土壤18セクション図をとり残りの半切の掘り下げ。土壤19半切掘り下げ、中の集石実測。配石墓3号全掘。掘り方が浅いので墓かどうか疑問である。土層確認のためFトレンチ再掘。

11月20日（日） 休日

11月21日（月） 晴 A-00、01、5、6区、B-5、6区、C-5、6、00、01区、D-4区の遺構検出作業。土壤の掘り下げ及び実測。平面図作成。

11月22日（火） 晴 B-00、01区、C、D-00、01区遺構検出。A、B-6区、F、G-2、3区土壤掘り下げ。F、G層確認のためセクション切り。

11月23日（水） 休日（勤労感謝の日）

11月24日（木） 雨のため作業中止。終日遺物整理。

11月25日（金） 曇時々雪 本日より4班に分けて作業。1班A、B-5~7区土壤、集石の掘り下げ。集石のセクション取り。2班F、G-2、3区土壤、ピットの掘り下げ。集石の実測。3班D、E-00、01区遺構検出作業。4班A-E-1、2区遺構検出のため精査。A、B-1区で住居址5~6軒あり。終日雪が舞いたいへん寒い1日だった。

11月26日（土） 曇時々晴時々小雪 1班

A、B、C-5~6区土壤掘り下げ。B-5区で内部に土器出土実測。2班F、G-2、3区土壤掘り下げセクション実測。3班D、E-00、01区遺構検出作業。4班A-E-1、2区遺構検出のため精査。朝から風が非常に強く寒い。作業がたいへんだった。

11月27日（日） 休日

11月28日（月） 晴のち曇 1班A、B、C-4~6区土壤掘り下げ及び土壤の写真撮影、セクション実測。2班F、G、H-2、3区土壤掘り下げ及び集石実測、セクション実測。3班D、E-00、01区遺構検出作業。4班B、C-1、00区住居址検出のため精査。

11月29日（火） 晴 1班A、B-5、6区土壤掘り下げ及びセクション実測。2班F、G-1、2区土壤掘り下げ。敷石住居周辺の実測、F-2区全体実測。土壤セクション実測及び全体実測。3班E、D-00、01区遺構検出作業。4班C、D-1、2精査。

11月30日（水） 晴 1班A、B-5、6区土壤掘り下げと実測。2班F、G-2、3区土壤掘り下げ実測。3班D、E-00、01区遺構検出作業。4班A-D-1、2区遺構検出及び実測。

12月1日（木） 晴 1班A、B-5、6区遺構検出、B-6区及びA-6区調査終了、写真撮影。2班F、G-2、3区土壤及び石棺墓の掘り下げ。3班D、E-00、01区遺構検出作業。4班A-D-1、2区遺構検出のため精査。B-2区で炉跡らしきものあり。

12月2日（金） 晴 1班B-5区の土壤配石の精査。A-5、6区、B-6区実測。2班F、G-2、3区土壤掘り下げ。3班E-00、01区遺構及び配石の検出。4班A、B-

- 1区ピット掘り下げ。  
12月3日（土） 晴 1班B-5区、A-5区土壤、配石精査及び実測。2班F、G-3、4区土壤、配石精査及び実測。3班E、D-00、01遺構、配石検出。A、B-1区ピット掘り下げ、遺構配置図作成。
- 12月4日（日） 休日
- 12月5日（月） 曇 1班B-5、C-5、6区土壤掘り下げ配石はずし。2班F、G-3、4区土壤、配石精査。3班D、E-00、01遺構配石検出。4班B-D-1、2区土壤ピット掘り下げ。
- 12月6日（火） 晴 1班B、C-5、6区土壤掘り下げ。B-5区写真撮影。2班F、G-3、4区土壤掘り下げ及び土壤写真撮影、実測。3班D、E-00、01区遺構、配石検出。4班A-C-1、2区ピット、土壤掘り下げ。埋甕出土セクション作成及び実測、写真撮影。
- 12月7日（水） 晴 1班C-5、6区土壤掘り下げ及び写真撮影。2班F、G-2、3区土壤掘り下げ及び写真撮影、土壤より土器取り上げ、下に更に土器あり。3班D、E-00、01区遺構、配石検出。4班A-C-1、2区ピット、土壤掘り下げ埋甕セクション作成。
- 12月8日（木） 晴 1班C-5、6区、D-6土壤掘り下げ。C-6区写真撮影。2班F、G-2、3区土壤掘り下げ及び写真撮影。3班、D、E-00、01区配石検出。4班A、B-1、2区土壤、ピット掘り下げ。J-2、3号住居写真撮影。
- 12月9日（金） 晴のち雨 1班C-5、6区土壤掘り下げ。2班F-2、3区、G-2、3区土壤掘り下げ及び写真撮影、実測
- 作成。3班D、E-00、01区配石検出。4班A、B-1、2、3区土壤、ピット掘り下げ及び実測図作成。
- 12月10日（土） 晴 1班D、E-5、6区掘り下げ。2班F、G-2区掘り下げ。3班C-E-00、01区清掃及び土器取り上げ。4班A-C-1、2区清掃及び写真撮影。D、E-1、2区掘り込みの検出のため精査。午後大町市教育委員会島田氏来訪実測を手伝ってもらう。
- 12月11日（日） 休日
- 12月12日（月） 晴 1班C、D-5、6区遺構掘り下げ。2班F、G-1、2区遺構掘り下げ。3班A-E-1、00、01土器上げ。4班C、D-2区ピット、土壤掘り下げ。
- 12月13日（火） 晴 1班A-E-5、6区土壤掘り下げ。2班G-1、2区土壤掘り下げ。3班Fトレント掘り下げ。4班C-E-1、2ピット、土壤掘り下げ。
- 12月14日（水） 晴 1班A-E-5、6区土壤掘り下げ。2班F、G-1、2区土壤掘り下げ。3班Fトレント掘り及びH8号住居の掘り下げ。4班B、C-1、2区ピット、土壤掘り下げ。
- 12月15日（木） 晴 1班E、F-5、6区土壤掘り下げ。2班F-2、3区土壤掘り下げ。3班E、F-6、7区H7、8号住居掘り下げ。4班C-E-1、2区ピット、土壤掘り下げ。
- 12月16日（金） 曇のち雪 1班E-4、5区土壤掘り下げ。2班F-2、3区土壤掘り下げ。3班E、F-6、7区H7、8号住居掘り下げ。4班A、B-3、4区ピット、土壤掘り下げ。4時頃雪のため終了。

- 12月17日（土） 休日
- 12月18日（日） 休日
- 12月19日（月） 晴 1班D、E-4、5  
区石棺墓及び土壤掘り下げ。2班F、G-2、  
3区土壤掘り下げ及び敷石3号住居写真撮影。  
3班E-6、7区平安住居掘り下げ。4班A、  
B-3、4区ピット、土壤掘り下げ。
- 12月20日（火） 晴 1班D、E-4、5  
区土壤掘り下げ。2班F-4、5区土壤精査  
及び埋甕写真撮影。3班E-6、7区H7、  
8号住居精査、写真撮影。4班C、D-3区  
土壤、ピット掘り下げ及び精査。
- 12月21日（水） 晴 1班C、D、E、F-  
4、5区土壤掘り下げ。C、D-4、5区で  
意味不明の列石あり。2班F-3～5区掘り  
下げ。F、G-1、2区の土壤掘り下げ。埋  
甕取り上げ、セクション作成。3班H7、8  
号住居完掘、写真撮影。F、G-7～9区精  
査。4班B、C-3、4区遺構掘り下げ。J  
5号住居炉掘り下げ。
- 12月22日（木） 晴 1班E、F-4、5  
区配石、土壤掘り下げ及び埋甕半切りセクシ  
ョン作成。2班F-3～7区配石掘り下げ。  
3班F、G-7～9区H6号住居掘り下げ。  
4班D、E、F-3、4区土壤、ピット、配  
石、集石掘り下げ。
- 12月23日（金） 雪のため作業中止。
- 12月24日（土） 晴 1班E、F-3、4  
区集石、配石掘り下げ。B、C-3、4区配  
石墓掘り下げ。2班F-3～7区配石墓掘り  
下げ。3班F、G-7、8区掘り下げ。H6  
号住居掘り下げ、石剣、土師器出土。4班D、  
E、F-2、3区土壤、ピット掘り下げ。
- 12月25日（日） 休日
- 12月26日（月） 晴 1班B、C-4区集  
石、配石掘り下げ。2班F-3～6区配石掘  
り下げ。3班E-2区敷石1号住居掘り下げ。  
4班F、G-7、8区J6号住居掘り下げ。  
土壤ピット掘り下げ。
- 12月27日（火） 晴 1班B、C-3、4  
区弥生前期墓掘り下げ。2班F-3～6区遺  
構掘り下げ。3班E、F、G-7、8区掘り  
下げH6号住居完掘。4班E、F-2、3区  
掘り下げ。
- 12月28日（水） 晴 年末休みのため現場  
作業休み。遺物整理。
- 12月29日（木）～1月4日（水） 年末年  
始休み。
- 1月5日（木） 晴 弥生再葬墓実測。土  
壤掘り下げ。平板実測図作成。
- 1月6日（金） 晴 弥生再葬墓実測。土  
壤掘り下げ。平板実測図作成。
- 1月7日（土） 晴 遺構実測。
- 1月8日（日） 休日
- 1月9日（月） 曇時々雨 航空撮影の為  
A～G-00、01区片付け。午後雨のため作業  
中止。
- 1月10日（火） 晴 航空撮影の為A～G-  
1、00、01区準備。
- 1月11日（水） 曇のち晴 本日航空撮影  
の予定であったが天候が悪いため中止。航空  
撮影準備のためA～G-00、01区ピット、土  
壤掘り下げ。A～E-2、3区清掃及び写真  
撮影。A-1区で住居址1軒出土。D、E-  
5区の弥生再葬墓精査。
- 1月12日（木） 雪のため作業中止。
- 1月13日（金） 曇 A-1区、B-3、  
4区、C-3、4区、F-4～6区土壤、ビ

ット掘り下げ。Z-7、8区遺構検出。J7、8号住居、掘り下げ。

1月14日（土） 曇時々晴 本日ヘリコプターによる航空測量のための写真撮影。本日より班編制による作業。1班A～C-4区列石付近掘り下げ。弥生再葬墓掘り下げ。2班F-3～5区、B、C-00、01区住居地土壤掘り下げ。3班Z-7、8区掘り下げ。4班A-3区の土壤及びF、E-00、01区の掘り下げ。

1月15日（日） 休日（成人の日）

1月16日（月） 振替休日

1月17日（火） 晴 1班B-4区、C-4区弥生再葬墓掘り下げ。2、4班B、C、D-00、01区土壤掘り下げ。3班Y、Z-7、8区掘り下げ。

1月18日（水） 晴 1班B、C-4区弥生再葬墓群、F-4区配石墓（2ヶ）精査。2班C、D-00、01区住居址検出。3班Y-7、8区集石検出。4班E、F-1、00、01区住居址検出。

1月19日（木） 雨のため作業員少ない。B、C-4区再葬墓群セクション作成、実測、撮影。

1月20日（金） 雪のため作業中止。

1月21日（土） 晴 B-3、4区遺構実測。

1月22日（日） 休日

1月23日（月） 雪のため作業中止。

1月24日（火） 雪のため作業中止。

1月25日（水） 晴 前日までの雪の為作業員少ない。X、Y、Z-5、6区遺構検出。X、Y-6区敷石住居検出。

1月26日（木） 晴のち雨 X、Y-4、

5、6区、Z-6、7区遺構検出、精査。

1月27日（金） 晴のち雪曇 A-5区、Z-4、5、6区、Y-4、5、6区、X-5、6区遺構検出、精査。

1月28日（土） 晴 Z、Y-6、7区遺構検出。全面に集石がみられる。Y-6区に敷石住居あり8角形の可能性あり。西側のプラン不明。A、Z、Y-3～5区遺構検出。炉らしきもの2基、土壤多数出土。東地区A-3区に発掘の集石の続きがA-3、4区にかけて出土、その北側にも敷石あり。

1月29日（日） 休日

1月30日（月） 晴 D、E、F-00、01区遺構検出。X、Y-6、7区遺構検出。敷石住居の西側プランの検出。A、Z、Y-3、4区遺構検出、Y-4区で住居址らしい落込み及び埋甕あり。

1月31日（火） 晴 1班D、E-1、00区遺構検出、2班H-1、2区遺構検出。3班X、Y-6、7区集石、敷石清掃。敷石住居写真撮影。4班A～X-1～3区バックホーによる表土削除。A～X-1～4区遺構検出。Z-3区で炉、埋甕出土。X-2区で前期末の深体出土。

2月1日（水） 雪のため作業中止。

2月2日（木） 晴 1班A～X-2～5区住居址検出。2班C～E-1、00、01区住居址遺構検出。3班X、Y、Z-6、7区敷石住居、集石清掃。4班H-1、2区遺構検出。

2月3日（金） 晴 1班A～Y-2～4区住居址検出。3軒敷石住居あり、道路の下になった部分が多い。炉が2軒あり全部で5軒あるように思われる。尚、1基は集石炉。

2班C～5区-00、01遺構検出。3班X、Y、Z-6、7区集石の清掃。敷石住居の柱穴検出。4班H-1、2区遺構検出。柱穴らしきものはあるが住居址かどうか確認できない。

2月4日（土） 晴 1班A～Z-2、3区住居址プラン検出。土器集中区あり。2班C～E-00、01住居址、柱穴検出。3班X、Y、Z-6、7区集石清掃。敷石住居の柱穴掘り及び写真撮影。4班G、H、I、J-1、2区遺構検出。

2月5日（日） 休日

2月6日（月） 晴 1班住居址のプラン確認。J15、16号住居写真撮影及び敷石住居6、7号住居址の精査。2班C～E-00、01遺構検出。J14号住居の柱穴確認。3班Z～X-4、5区土壤掘り下げ及びJ18～20号住居の精査。4班I-00、1区遺構検出。本日で一応発掘作業を終了し、明日から測量と残った発掘を作業員を減して行うこととする。

2月7日（火） 晴 D～G-1、00、01区遺構検出。G-1区で住居址出土J21号とする。A-2、3区敷石住居清掃。Y-4区

住居址検出。J20号住居で炉址検出。敷石住居5号実測。半日バックホーによる排土。

2月8日（水） 晴 C-00、01遺構検出。A-2、3区敷石住居清掃。Y-4区J20号精査及び検出。敷石5号住居実測。

2月9日（木） 曇時々雨 本日前夜の雨のためぬかるみがひどく作業中止。終日遺跡内の遺物の取り上げ。

2月10日（金） 曇時々雨 G-1、2区J21、22号住居プラン検出。C、D-1、2区J9号住居号精査。ほぼ完掘する。周辺部で住居址検出。A、Z-3、4区J17号、敷石6、7号住居清掃及び写真撮影。J20、23号住居プラン検出。敷石4号住居実測。

2月11日（土） 休日（建国記念日）

2月12日（日） 休日

2月13日（月） 晴 C、D-1～3区遺構検出。G-2、3区住居検出及びJ21、22号住居精査。Y-4区J20号住居精査。H-2区住居検出。敷石住居実測。

2月14日（火） 晴 C～E-1、2区清掃及び遺構検出。J9号住居写真撮影。G-



1、2区J21、22号住居清掃、写真撮影、実測。H-2区J24号住居精査、プラン引形。X-2区集石検出、清掃、写真撮影。Y-4区J20号住の上部集石清掃、写真撮影。土器の写真撮影を終了し取り上げ。

2月15日(水) 晴 H-2区J23号住清掃、写真撮影。I-3区遺構検出。G-1区J21、22号住実測。B-D-1、2区遺構検出及び精査。B-1区でJ10号住の下にJ25号住の炉が検出された。X、Y-3、4区遺構検出。J20号住の集石排除、遺物の取り上げ及び土壤の掘り下げ。

2月16日(木) 曇のち雨 I-2区で埋甕2ヶ出土写真撮影、実測の上掘り上げた。H-2区土壤掘り下げ、J23号住実測。C、D-1、00区のJ12~14住写真撮影。J10、25号住精査。C-2区のJ26号住掘り下げ。Y、Z-4区J20、24号住精査。J20号住は焼失住居と思われる。

2月17日(金) 雨のため現場作業中止、午前中図面の整理。

2月18日(土) 休日

2月19日(日) 休日

2月20日(月) 晴 J20、26号住、H5号住掘り下げ。A-X-2、3区土壤掘り下げ。航空測量の準備のため対空標識設定。

2月21日(火) 曙時々雨 本日ヘリコプターによる航空測量の予定であったが天候悪く明日に延期。午前中撮影予定地内の清掃、未掘の土壤等の掘り下げ及びJ15号住掘り下げ。J20号住完掘。航測のため対空標識設定。

2月22日(水) 雪のち晴 J19、20、23、27、28号住清掃写真撮影。J19号住南側落ち込み掘り下げ。Z-2区土壤掘り下げ。J15

号住写真撮影、埋甕の取り上げ。J11、26号住清掃、写真撮影。H5号住清掃、セクション作成、写真撮影。K-3区のロームマウンド掘り下げ、写真撮影。H4号住掘り下げ。本日航測予定であったが午前中雨のため25日に延期。

2月23日(木) 晴 Y-3区より前期堅穴住址らしいもの出土、掘り下げる。J2、3、10、25号清掃、写真撮影、石棺墓セクション作成。H3、4号住掘り下げ。H4号住セクション作成。

2月24日(金) 雪のため作業中止。

2月25日(土) 雪のため航測28日に延期。

2月26日(日) 休日

2月27日(月) 晴 Y-3区住堅穴住掘り下げ。H3号住掘り下げ、セクション作成完掘。H1号住掘り下げ、セクション作成。J1号住精査、その下に早期の遺構あり、E、F-4区平板実測。

2月28日(火) 晴 午前11時15分~30分までヘリコプターによる航空撮影。K-L-5、6区遺構検出。H1、2号住、J1、29号住掘り下げ。堅穴状遺構掘り下げ。

3月1日(水) 曙 J6、29号住掘り下げ精査。本日で測量のみ残し発掘作業終了。

3月2日(木) 晴 E-2区の敷石住居平板測量。

3月3日(金) 現場作業休み。

3月4日(土) 曙のち雨 弥生再葬墓3基精査。C-E-2、3区平板測量。強風のため作業がやりにくかった。午後3時30分より雨のため中止。

3月5日(日) 休日

3月6日(月) 晴 弥生再葬墓精査、掘

り下げて下部遺構の実測。土器の実測。C、D-2区平板測量。

3月7日（火） 曇のち雪 弥生再葬墓完掘、土器の取り上げ、写真撮影、セクション作成。6、7、8号墓掘り下げ。A、B-1、2区平板測量。

3月8日（水） 晴 B、C-4区弥生再葬墓の掘り下げ。A、B-1、2区平板測量。

3月9日（木） 晴 平板実測図へレベルを入れる。E-5区弥生再葬墓完掘、写真撮影。H1、3号住平板実測。

3月10日（金） 雪のため作業中止。

3月11日（土） 晴 A、B、C-1、2区平板実測。H2号住、J1、30号実測。J30号住掘り方再調査。

3月12日（日） 休日

3月13日（月） 曇のち雨 A-C-1、2区平板実測、レベル入れ。K、L-6区遺構検出。J29、33号住掘り下げ。

3月14日（火） 晴 J32、33号住精査。

3月15日（水） 晴 J30、32号住掘り下げ。

3月16日（木） 晴 J30、32号掘り下げ 清掃。

3月17日（金） 雪 K-6区集石土壤掘り下げ。

3月18日（土） 晴 J30、32号住写真撮影。L-6区竪穴状遺構写真撮影。

3月19日（日） 晴 J29号住清掃。L-6区竪穴状遺構掘り下げ。敷石5号住居の炉掘り下げ。

3月20日（月） 晴 H6、7号住、J1、29号住平板測量。

3月21日（火） 雪のため作業中止。

3月22日（水） 晴 J29号住清掃、写真撮影、実測。J34、35号住掘り下げ、E、D-1、00平板測量。公民館職員全員で片づけと土器はこび。

3月23日（木） 曇 J34、35号住平板測量、H-K-1、2区遺構平板測量。

3月24日（金） 晴 J36号住平板測量、写真撮影及び埋甕完掘。

3月25日（土） 休日

3月26日（日） 休日

3月27日（月） 晴 平板測量図再点検及び補正。

3月28日（火） 曇 平板測量図補正及びレベル入れ。

3月29日（水） 晴 遺物取り上げ。平板図の点検。

3月30日（木） 晴 遺物取り上げ。遺跡内巡回。

3月31日（金） 晴 J37号住平板測量及び写真撮影。遺物の取り上げ。本日で現場作業すべて終了。

## 平成元年度

8月7日（月） 晴 本日より第2次調査を始める。埋甕2基、小豎穴数基礎認。性格不明の配石、遺構の検出、中期中葉から後葉の土器多く出土。暑い日だった。

8月8日（火） 晴 昨日に引き続き遺構検出。

8月9日（水） 晴 A-10区にて埋甕1基出土。B-10、11区にて石の配列あり。

8月10日（木） 晴 A-8区で柄鏡形敷石住居と思われる集石検出。B-9区住居址の炉らしき石組み出土。D-10区敷石住居出土。

8月11日（金） 晴 昨日に引き続き遺構検出。現場内の清掃。

8月12日（土）～20日（日） 盆休み

8月21日（月） 晴 平安住居址1軒出土、C-11区で埋甕出土セクション作成。B-10区の集石実測。

8月22日（火） 晴 B-10区J46住写真撮影、実測。D-11区から出土の埋甕写真撮影。

8月23日（水） 晴 A-7、8区遺構検出。B、C、D-11区より小豎穴数確認。

8月24日（木） 曇 A-7、8区の集石磨き出しほぼ終了。B、C、D-11、12区小豎穴数基礎認。現場北側杭打ち。A-8区集石下より釣手土器出土。

8月25日（金） 晴 A-12、13区、B、C、D-11、12区遺構検出。敷石住居1軒、小豎穴数基、炉址1基出土。A-8区より出土の釣手土器の出土状況撮影。A-8区より土偶副部出土。

8月26日（土） 休日

8月27日（日） 休日

8月28日（月） 晴のち時々雨。A-D-12、13区遺構検出。A-8区の集石清掃、写真撮影。

8月29日（火） 晴 A-D-12、13遺構検出。C-13区で土偶出土。C-11区のH10号住掘り下げ開始。A-8区の集石平板実測。

8月30日（水） 曇のち雨。A-D-11-13区遺構検出。H10号住掘り下げ。A-8区集石群実測。

8月31日（木） 晴 A-E-12、13区遺構検出。A-12区で後期敷石住居と思われるもの出土。H10号住掘り下げ、床面まで約40cmあり。セクション作成終了。

9月1日（金） 晴時々曇 A-E-11-13遺構検出。C-13区より平安住居と思われるもの出土。B-13区より縄文中期前半の炉出土、H10号住完掘、一部写真撮影、柱穴不明。

9月2日（土） 休日

9月3日（日） 休日

9月4日（月） 曇時々晴 A-11区より敷石住居と思われるもの出土。C-13区の平安住居1軒出土、H11号住とする。D、E-12、13区小豎穴多数出土。A-8区の集石実測。塙尻市教育委員会島羽氏来訪、実測を手伝ってもらう。

9月5日（火） 曇のち雨 A-9~11区、D、E-12、13区、C-13区遺構検出。A-8区集石実測。雨の為3時30分に作業終了。

9月6日（水） 雨のため作業中止。

9月7日（木） 曇のち雨 C-E-9~10

区の遺構検出。A-12区より敷石住居検出。  
A-9区遺構検出及び掘り下げ。疊頃より雨  
のため午前中で作業中止。

9月8日（金） 晴 A-8、9区の土壤、  
ピット、J39号住、竪穴住の清掃及び掘り下  
げ。B～D-10、11遺構検出。A-12区より  
敷石住居と思われるもの出土。敷石9号清掃、  
写真撮影、実測。D-10区の配石墓清掃、写  
真撮影。E-10区J38号住掘り下げ。

9月9日（土） 休日

9月10日（日） 休日

9月11日（月） 晴 E～Dの土壤。ピッ  
ト掘り下げ。敷石9号住配石墓の実測及びセ  
クション作成。J38、40号住精査中38号住よ  
り小型の石窯炉出土。A-8、9区遺構掘り  
下げ、セクション作成。A-7、8区の集石  
セクション作成、掘り下げ。

9月12日（火） 晴 敷石9号の埋甕精査  
セクション作成。E-11区の配石墓掘り下げ  
セクション作成。下面平面図作成。A～D-  
10、11区土壤、ピット掘り下げ。A-7～9  
区遺構掘り下げ、集石はずし。

9月13日（水） 疊時々雨 A-7、8区  
集石はずし及び掘り下げ。A-9区の西側の  
落ち込みJ41号住とする、セクション作成、  
終了。B～D落ち込み掘り下げ。敷石9号住  
の埋甕実測し取り上げる。雨天のため午後は  
作業中止。

9月14日（木） 雨のため作業中止。

9月15日（金） 休日（敬老の日）

9月16日（土） 休日

9月17日（日） 休日

9月18日（月） 疊のち雨 A-7、8区  
遺構、平安住居掘り下げ。B-11区土壤、J

39号住セクション作成。

9月19日（火） 雨のため作業中止。

9月20日（水） 雨のため作業中止。

9月21日（木） 疊のち晴 A-7、8区  
の集石排除。A-9、10区J39～41号住掘り  
下げ。H11号住掘り下げ。D、E-12、13区  
ピット、土壤掘り下げ。

9月22日（金） 雨のため作業中止。

9月23日（土） 休日（秋分の日）

9月24日（日） 休日

9月25日（月） 晴 A-7、8区集石及  
び住居址掘り下げ。A-9、10区J38号住、  
ピット掘り下げ。H11号住セクション作成、  
精査。D、E-12、13区遺構掘り下げ。

9月26日（火） 晴 A-7～10区掘り下  
げ、平安住居の下に縄文の炉と思われるもの  
確認。C-12土壤掘り下げ。C-12の土壤セ  
クション作成。本日、調査団長落合今朝人教  
育長、午前9時に逝去。

9月27日（水） 晴時々疊 A-7、8区  
掘り下げ。A-8区より縄文住居、J44号住  
とする。J39、41号住精査。B-10区より出  
土の大型炉をJ43号とし又B-12区H11号住  
の西の炉をJ42号とし掘り下げた。D、E-  
10、11区土壤掘り下げ、A-11区の集石及び  
住居址と思われるもの掘り下げ。

9月28日（木） 雨のため作業中止。

9月29日（金） 晴時々疊 A-7区集石  
下掘り下げ、集石西に落ち込みと思われるも  
のあり。A-8～10区J39、41、44号住掘り  
下げ。A-12集石はずし敷石検出。H11号住  
及びJ42号住柱穴検出。本日正午より教育長  
葬儀。

9月30日（土） 休日

- 10月1日（日） 休日
- 10月2日（月） 曇のち晴 A-7、9、  
10集石下、ピット掘り下げ。A-8区J44号  
掘り下げ及び土器の写真撮影。A-12、13区  
敷石住居掘り下げ。
- 10月3日（火） 曇のち雨 A-7区の集  
石下遺構検出。A-8区J44号住、ピット掘  
り下げ。敷石9号住下の掘り下げ中炉ありJ  
47号住とする。J42号住柱穴検出。昼頃より  
小雨2時で作業中止。
- 10月4日（水） 曙のち晴 A-7区集石  
下掘り下げ中期前葉猪沢様式土器出土。A-  
8区J44号住掘り下げ深体出土。A-9区土  
壌掘り下げ。J42号住柱穴確認。D-10区の  
J47号住の範囲の確認。
- 10月5日（木） 晴 A-7～9区掘り下  
げ。J44号住掘り下げプラン全掘。J42号住  
の周辺遺構検出。ピット完掘。セクション作  
成。D-11、12区配石墓検出。
- 10月6日（金） 曙 A-7、8区掘り下  
げ、J44号住完掘。J39、40号住実測及び写  
真撮影。A-9区土壤掘り下げ。C、D-12  
区遺構検出。
- 10月7日（土） 雨のち曇 A-8区地山  
まで掘り下げピット2ヶ出土。J39、41号住  
精査。C-12区集石付近遺構検出。朝より雨  
模様のため作業貞少なく又午前中雨のため2  
回ほど中断する。
- 10月8日（日） 休日
- 10月9日（月） 雨のため作業中止。
- 10月10日（火） 休日（体育の日）
- 10月11日（水） 雨のため作業中止。
- 10月12日（木） 曙 A-7、8区、J39  
号住掘り下げ。A、B-9、10区ピット掘り
- 下げJ47号住精査。D、E-11、12区遺構検  
出。
- 10月13日（金） 晴 A-7～10区、D、  
E-11、12区遺構掘り下げ。C地区遺構検出、  
ピット少數確認。
- 10月14日（土） 晴 A-7、8区遺構検  
出、ピット円形で径約6～7mの範囲で周を  
えがく。J44号住完掘、写真撮影、炉は半掘、  
J39号住完掘、写真撮影。J41号住精査、J  
45号住写真撮影。D-11区集石清掃、写真撮  
影、ピット掘り下げ。E-10区土壤掘り下げ。
- 10月15日（日） 休日
- 10月16日（月） 曙 A-7区掘り下げ柱  
穴列精査。J39、44号住の炉掘り下げ。A、  
B-9、10区ピット、落ち込み掘り下げ。C、  
D-12区遺構精査、土壤に土器敷あり。E-  
10区配石墓No.2完掘、土壤掘り下げ、合口埋  
甕出土。
- 10月17日（火） 晴 A-7区地山まで掘  
り下げ。J41号住完掘。A～C-11、12精査、  
G、H-9、10区遺構検出。終日北風強く寒  
く作業が困難だった。
- 10月18日（水） 晴 A-7区地上まで掘  
り下げ。B-12、13区及びC-10区掘り下げ、  
H、I-10、9区遺構検出。
- 10月19日（木） 曙のち雨 A-7区地上  
まで掘り下げ。A-11区配石墓の実測、半掘  
B-12区精査。G～J-9、10区遺構検出。  
午後雨のため作業中止。
- 10月20日（金） 晴 A-7区地山まで掘  
り下げ。A-10区に弥生再葬墓と思われるも  
のの出土、掘り下げ実測。A-11区配石墓掘り  
下げ実測。J47号住精査。G～I-9、10区  
遺構検出。

- 10月21日（土） 休日
- 10月22日（日） 休日
- 10月23日（月） 晴 A-7区発掘、遺構なし。A-10区の弥生再葬墓より土器出土、セクション作成、完掘。J48、49号住より埋甕出土、セクション作成、実測。J47号住精査。I、J-9~12区遺構検出。
- 10月24日（火） 晴 J39、41、44号住の炉セクション作成、実測。A-10区弥生時代再葬墓実測。A-12区配石墓のセクション作成。D、E-10、11区及びG、H遺構掘り下げ。J-9、10区、H~J-11、12区遺構検出。
- 10月25日（水） 晴 A-10区弥生再葬墓実測。A-12区配石墓実測、新しい一輪差しの首らしきものあり、現代の石を投げ入れたものと判断し作業中止。G~H-9、10区ビット、土壤半掘。I、J-9、10区及びI-12、13区遺構検出。
- 10月26日（木） 晴 J44号住の炉実測、G~I-9、10区遺構掘り下げセクション作成。J、K-9、10区及びH~J-12、13区遺構検出。
- 10月27日（金） 晴 J44号住の炉実測。A-10区弥生再葬墓実測。G~I-9、10区遺構掘り下げ。I、J-11区及びH、I-12、13区遺構検出。
- 10月28日（土） 晴時々曇 A-10区弥生再葬墓精査、実測。G~J-9、10区遺構掘り下げ。J-9区の土壤より長さ110cmの大石棒出土。H~J-12、13区遺構検出。
- 10月29日（日） 休日
- 10月30日（月） 晴 A-10区弥生再葬墓実測。C-12区で炉発見J51号住とする。I
- ~J遺構検出、G~J-9、10区及びH~J-12、13区遺構掘り下げ。J-10区の土壤の石棒は頭部に彫刻のあるもので珍品。
- 10月31日（火） 曇のち雨 J51号住精査。G~J-9、10区遺構精査。I~J-10、11遺構検出。I-13区で集石炉出土住居址と思われる。午前11時頃より雨模様の天気となるので正午で作業中止。
- 11月1日（水） 曇時々雨 J51号住精査、炉の写真撮影。G~J-9、10区及びI~J-10、11区遺構精査、掘り下げ。I-13の住居址は不明。
- 11月2日（木） 文化祭展示準備のため作業休み。
- 11月3日（金）~11月5日（日） 文化祭。
- 11月6日（月） 晴 J、K-11~13区遺構検出及び掘り下げ。K-13区で炉らしき石組み検出J52号住とする。付近に土器1個体分あり。発掘地区東拡張のため半日バックホーによる表土削除。
- 11月7日（火） 曇 J、K-11、12遺構掘り下げ。昨日に引き続き終日東側表土削除、遺構検出、土偶脚部出土。
- 11月8日（水） 晴のち曇 J、K-11~13区遺構掘り下げ。表土削除作業続行。M~N-10~13区遺構検出。
- 11月9日（木） 雨のため作業中止。
- 11月10日（金） 曇のち晴 J、K-11、12区遺構掘り下げ。M~O-11、12区遺構掘り下げ、遺構検出。M-12区土壤より人骨出土。保存状態はあまりよくないが頭骨の一部、歯、上腕骨、足の骨が残っている。左側を下に側伏屈葬と思われる。
- 11月11日（土） 晴 J、K-11区土壤掘

り下げ。M、N 土壌、ピット掘り下げ。N～P-11、12区遺構検出。O-11区で敷石住居らしい石組み出土。Q～S-10～13区遺構検出。R S-11区より平安住居址出土、H12号とする。Q-11区より石甌炉出土、J53号とする。

11月12日（日） 休日

11月13日（月） 曇のち雨 K-11区土壤掘り下げ、M～O 遺構検出、掘り下げ。H12号住掘り下げ。J53号住検出。土壤で平安期住居出土、H13号住とする。午後雨天のため作業中止。

11月14日（火） 曙 I-9区土壤掘り下げ、M～O-11～12区遺構検出及び掘り下げ。N-11区で敷石住居らしい敷石あり。R-10区でロームマウンド検出、掘り下げる。H12、13号住掘り下げ。H12号セクション作成終了。T～V-11、12区遺構検出。U-12区に床面ありH14号住とする。V-11、12区に落ち込みありH15号住とする。P～R-7、8区遺構検出。建物址らしい柱列が4間×6間と5間×3間の2軒分検出。P-8区で住居址出土、H16号とする。Q-8区で住居址出土H17号とする。

11月15日（水） 晴のち曇 N～O-11、12区遺構検出。ロームマウンドの掘り下げ。H12号精査。H13号住掘り下げ、H13号住の横の落ち込みは弥生後期の住居址と判明、Y1号とする。埋甌炉あり、H14号住精査、鉄製品の小片数点出土。P、Q-6、7区、Q、R-8区遺構検出、R-8区で粘土で閉った土壤と思われるもの3基検出、中より江戸期のものらしい陶片出土。

11月16日（木） 曙 N、O-11、12区遺構検出、ストーンサークル状の配石2ヶ検出。

H12号住精査カマド半掘、セクション作成。H13号住完掘、セクション作成、カマドセクション作成。H15号住掘り下げ鉄製品多数出土、鐵冶屋の址と思われる。S、R-13区遺構掘り下げ。P、Q-6、7区遺構検出。

11月17日（金） 曙 N～P-11、12区遺構検出。H12号住実測。H13号住及びY1号住精査。H15号住掘り下げ、セクション終了。P、Q、R-7、8区検出の建物址柱穴掘り下げ。H16号住掘り下げ。

11月18日（土） 晴のち曇 N～P-11、12区遺構検出。P-11、12区より敷石住居と思われるもの検出。H12号住実測終了。H13号住精査実測。H15号住掘り下げ鐵冶屋のあと。建物址No1、2柱穴掘り下げ、H16号住掘り下げ。

11月19日（日） 休日

11月20日（月） 晴 N、O-11、12区集石検出。S-12区土壤1ヶ検出セクション作成、H15号住精査。H16、17号住掘り下げ。建物址No1、2柱穴掘り下げセクション作成。今秋一番の冷え込みで現場に霜柱が立つ。

11月21日（火） 晴 N～P-11、12配石検出。Q-12配石を伴う土壤掘り下げ実測。建物址柱穴掘り下げセクション作成。H17、18、19号掘り下げ。H18号住の上部に粘土で貼床をしH19号を作っているが耕作による搅乱でプランは不明確である。あるいは中世建物址No2に付属するものと考えられる。

11月22日（水） 晴 N～P-11、12区配石検出。R-12区配石土壌掘り下げ。中世建物址No1、2柱穴完掘、写真撮影。本日人骨について信大西沢先生の鑑定、性別、時代の判定は困難、大人の骨であることは確かとの

こと。信毎重久記者、中日音道記者、朝日前部記者取材。

11月23日（木） 休日（勤労感謝の日）

11月24日（金） 晴 第1地区遺物取り上げ、R-13区住居址検出。H20号及びH21号とする。R-12区配石土壤精査。R-10区網文溝状遺構掘り下げ。中世建物址実測。読売、市民タイムス記者取材。

11月25日（土） 晴 H20、21号住精査。H12号住写真撮影。H12号住南溝状遺構掘り下げ。見学会準備で土器取り上げ。本日午後1時より見学会、町内外より約100名の参加があった。NBS、あづみのTV取材。

11月26日（日） 休日

11月27日（月） 晴 本日より仕上げ作業A-9区竪穴状遺構検出。埋甕取り上げ、M、N-11、12区掘り下げ。R-12区土壤、精査。H13、14、15号住及びY1号住実測。

11月28日（火） 曇のち雨 Q-11区埋甕セクション作成。H12-18号住写真撮影、遺物取り上げ。N、O-11、12区集石実測。本日午後より雨のため午後2時で作業中止。

11月29日（水） 晴のち曇 N、O-11、12区集石実測。Q-12区集石土壤実測、掘り下げ、炉らしく焼土、焼骨多く土器も伏した状態で墓壙の可能性もある。Q-11区埋甕、炉のセクション作成、写真撮影。B-9区J46号住埋甕セクション作成。B-12区埋甕2ヶ、セクション作成。

11月30日（木） 晴 第1地区清掃。J46号住埋甕セクション作成後取り上げ。B-12区埋甕セクション作成、実測、取り上げ。第2地区清掃。N、O-11、12区集石実測。1001、1002号配石墓実測掘り下げ。第4地区

清掃、近世土壤完掘。Q-12区配石土壤掘り下げ実測。J53、54号住の炉実測、写真撮影。

12月1日（金） 晴 全地区清掃白線入れ。J44、50号住炉実測。J、K-12区の土壤土器実測。N、O-11区集石実測。

12月2日（土） 晴 航空撮影準備のため清掃、O-11区集石実測。人骨取り上げ準備。11時15分～45分まで航空撮影。記念撮影。

12月3日（日） 休日

12月4日（月） 晴 N-11区集石実測。遺物取り上げ、写真撮影、遺構台帳整備。

12月5日（火） 晴 人骨を発泡ウレタンで取り上げ埋文センター平林調査研究員より指導受ける。小屋片付け。写真撮影。

12月6日（水） 曇 中世建物址実測、片付け。

12月7日（木） 晴 中世建物址、H16号住実測、補備、写真撮影。H20、21号住写真撮影、片付け。本日で現場作業すべて終了。

## 整理作業

整理作業のうち洗浄作業及び注記作業は一部を現場作業と並行して行い、本格的には第1次調査分を平成元年4月から平成2年3月にかけて明科町歴史民俗資料館で行った。第2次調査分については洗浄作業を現場で、注記作業を歴史民俗資料館で行った。土器の復元作業については平成2年4月から平成3年3月まで継続したが、全てを終えることはできなかった。遺物の実測については資料の整理と並行して行ったが、一部分しかできなかった。平成3年1月から3月まで遺物の写真撮影、原稿執筆を行った。



## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 自然環境

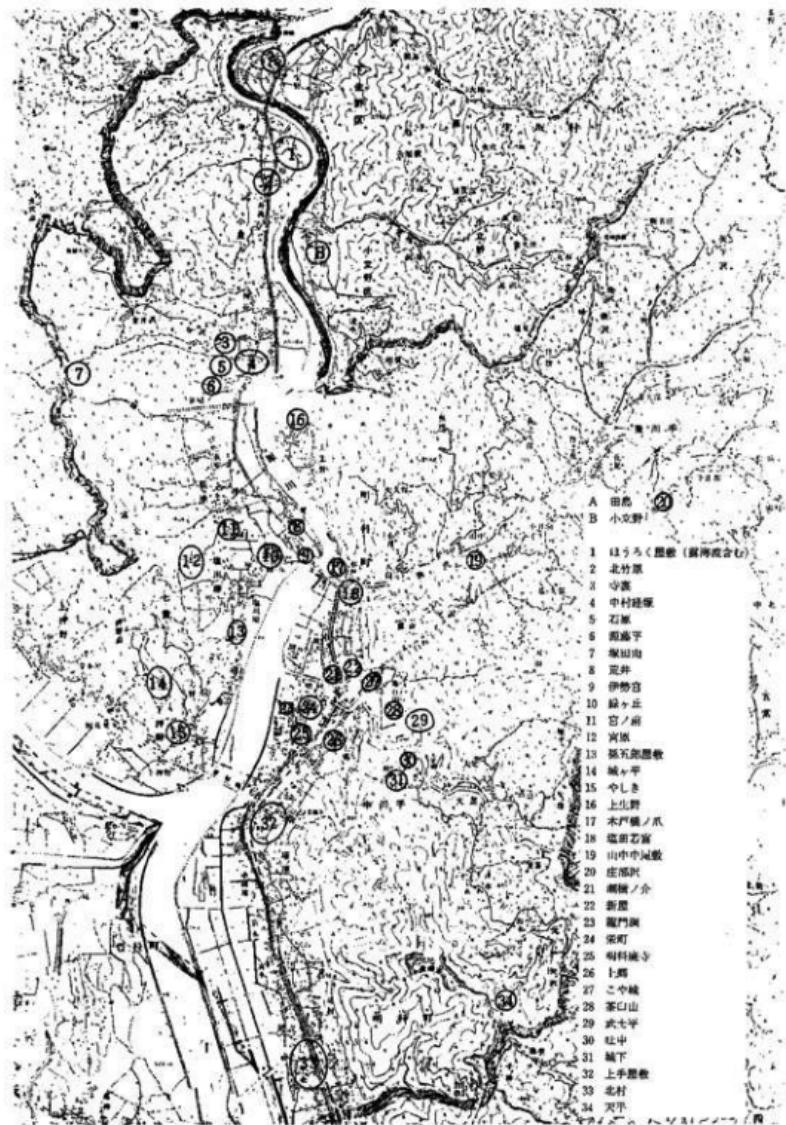
#### (1) 地形

明科町は長野県のはば中央にあり、松本盆地の北東の端に位置し、南北約10km、東西約8km、総面積42km<sup>2</sup>である。松本平の水を集める犀川が町の中央を流れ、流域の平坦他の地は山地と川が総面積の7割を占めている。

犀川は安曇節に「槍で別れた梓と高瀬、巡り合うのが押野岬」とうたわれるように、北アルプス槍ヶ岳に源を発し、上高地を通り島々谷から松本平を北東に流れる梓川は、松本市島内平瀬地籍で木曾駒北方の茶臼山を源流に松本平南部の水を集め奈良井川と合流し犀川となり、更に北へ流れ、明科町七貴の犀川橋（押野橋）南方でおなじく槍ヶ岳を源とし大町市を通り松本盆地北部の水を集め高瀬川、安曇野を流れる穗高川、万水川などと合流する。この地は『三川合流の地』と呼ばれ、松本盆地の水がすべて集まる場所であるとともに、県下でも有数の湧水地帯となっており湧水を利用したワサビ栽培やニジマスの養殖が盛んに行なわれている。またこの付近は古くは鮭の産地として知られ、江戸時代の記録にはしばしば鮭のことが記されている。また、昭和8年の長野県の統計では県下の鮭の水揚げ66t余の約半分を東筑摩郡と南安曇郡が占めておりそのほとんどが合流地点付近であったと言われ、下流にダムができる昭和15年頃まで漁があったということで、現在でも古老からは当時の鮭漁の話を聞くことができる。縄文時代には重要な食料源とされたであろうことは十分想像できる。

犀川はさらに明科町の中央、犀川丘陵地帯を曲流しながら北へ流れ、善光寺平へ出て千曲川へ注いでいる。犀川に沿う豊科町田沢から明科町を経て生坂村山清路にかけては両岸に2~3段の河岸段丘が発達しており、集落や水田、桑田として人々の生活に古くから利用され、明科町の多くの集落はこの段丘に立地している。

ほうろく屋敷遺跡は、明科町の北端、南陸郷小泉にあり、犀川西岸の段丘上に位置している。この段丘は緩やかに北東に傾斜する標高515~510m、犀川との比高10~15m、幅150~200m、長さ300mの犀川最下段の段丘で、段差1~2mの4段の小段丘からなり、遺跡はこの段丘のはば全域に広がっている。この段丘と比高約5mほどで上部の段丘となる。この段丘は西方の中山山地から流下する宮ノ沢、六地蔵沢の流出による扇状地状の地形となっている。現在の小泉北部の集落はほとんどがこの2面の段丘上に営まれている。また、同じ犀川左岸の縁ヶ丘、荒井、中村縁ヶ丘、東岸の、生坂村下生野田島、小立野、明科町上生野、塙田若宮などの遺跡も同時期の段丘上に営まれた遺跡である。



第1図 遺跡位置図  
(1 : 50,000)

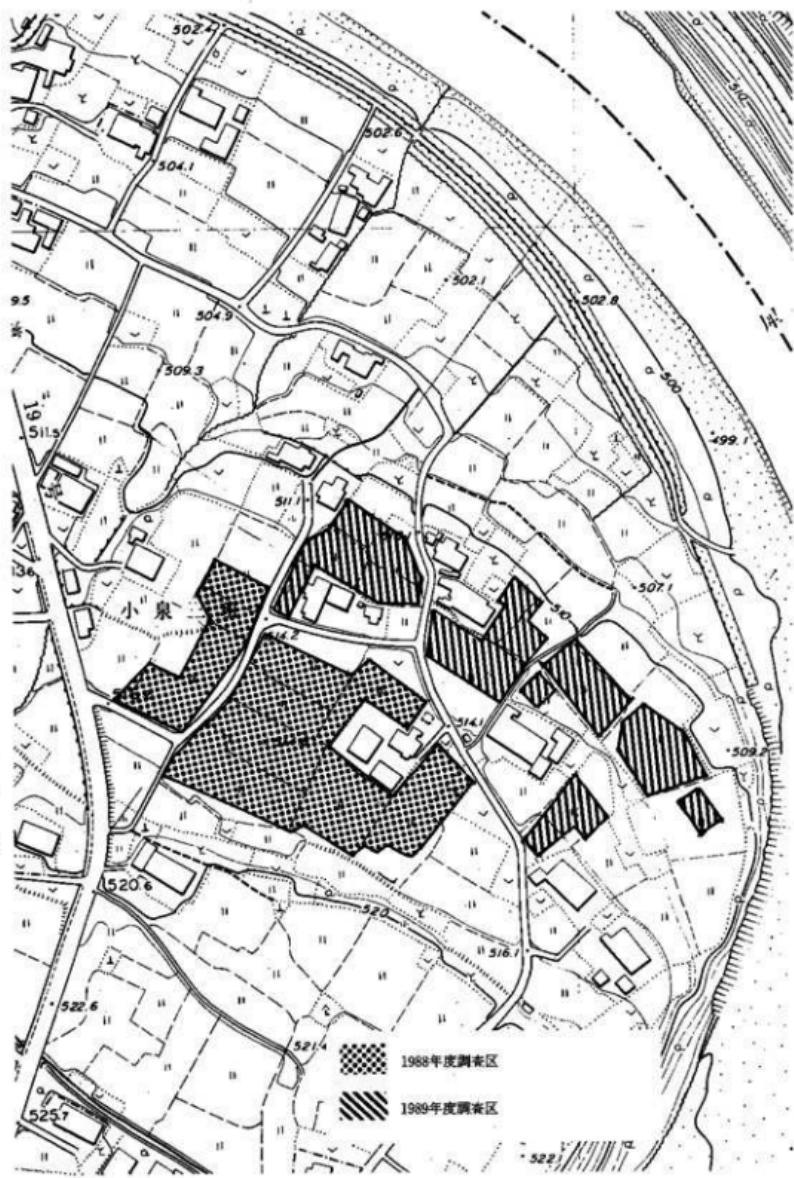
## (2) 地質

ほうろく鬼敷遺跡の位置する犀川西岸の山地は、中山山地と呼ばれ、フォッサマグナの第三紀褶曲山地の西縁部に当たる。中央を中山断層が南北に走り、断層の東側は地層の著しく乱れた犀川擾乱帯と呼ばれる地域となっている。断層の西側は鮮新世から更新世初期にわたる300万年～100万年前の第三紀末の最も新しい地層が主体であり、断層の東は、中新世中期の1000万年～2000万年前の別所累層、青木累層の地層となっている。遺跡付近から西へ順に別所累層の黒色泥岩層、青木累層の笠原砂岩層、金井沢砂質泥岩層、豊盛砂岩層となっており、笠原砂岩層は粗粒の塊状または板状の砂岩が主で、その中によく水磨された指頭大ほどの礫岩を挟む。金井沢砂質泥岩層は、暗灰色または灰色の砂質泥岩を主とし、全般に軟弱で風化しやすく地すべりの発生しやすい岩質で、このあたりの伴沢、都合沢、木沢などにその痕跡がみられ、この地域は地すべり地域に指定されている。豊盛砂岩層は、硬い粗粒の塊状又は板状の砂岩が主で、砂岩は指頭大ほどのよく水磨されたチャートを含む礫岩に移るところもあり、遺跡付近の木沢などでこのチャートを容易に拾うことができ、出土遺物にもこれを更に磨いた玉が非常に多くみられた。また、豊富な板状砂岩は敷石住居の敷石や炉石、石皿、砥石などに利用され、特に石皿、玉砥石は多量に出土している。

遺跡付近の犀川は下削作用がさかんでその早さは「100年に1メートル下がる」と言われており、遺跡のある段丘は、その比高、遺物の状況からすると縄文早期末頃には形成されていたものと考えられる。遺跡の土層は、場所によって激しく変わり調査は大変に難しかったが、模式的にあらわすと、20～30cmの耕土層があり、その下層が30～50cmの黒色砂質土もしくは黒色砂礫層で、配石はこの層上面から検出される。その下層は黒灰色の砂礫もしくは砂層（段丘の南半分は黄褐色粘質土で北段丘崖方向に行くにつれて砂質土となる）で、縄文中期の遺構はこの面から検出される。さらに灰色～黒灰色砂質土の20～50cmの堆積があり、この中からは縄文前期初頭から中葉までの遺物が出土しているが、時間の制約もあり一部分の調査しかできなかった。この下層は、黄褐色の砂礫土となり、遺物の出土はみられない。以上が地層の概観であるが、比較的新しい河岸段丘であり、縄文から中近世に到る生活面は層位的にははっきりと把握できなかった。

### ○参考図書

関 全秀『明科町史上巻自然』1984 明科町史刊行会



第2図 調査地区図 (1:2500)

明科町遺跡地名表

番号	県史	遺跡名	立地	先土器時代 新石器時代 中期	縄文時代		弥生時代		古墳時代 土器 須恵器	奈良平安時代 土器 須恵器	中世 天正後	備考	
					早	前	中	後					
1	32 (9290)	ほうろく星敷	犀川左岸段丘①		○	○	○	○	○	○	○	○	麻海坂遺跡を含む 31(9288)
2	33 (7473)	北竹原	犀川左岸段丘②			?				○	○		
3		寺裏	犀川左岸段丘②			?							
4	34 (9287)	中村経塚	犀川左岸段丘②			○					○		
5		石原	犀川左岸段丘②			○							
6		源藤平	犀川左岸段丘②			?							
7		坂田山	中山山地山腹			?							
8	24 (7516)	荒井	犀川左岸段丘①				○						
9	25 (7519)	伊勢宮	犀川左岸段丘①			○	○						
10		緑ヶ丘	犀川左岸段丘②		○	○	○	○	○	○	○		
11	23 (7517)	宮ノ前	犀川左岸段丘②			○	○				○	○	
12	22 (7516)	宮原	中山山地山腹			○	○				○	○	
13		藻五郎星敷	犀川左岸段丘②			○	○						
14	29 (9284)	城ヶ平	中山山地山腹			○							
15	28 (7513)	やしき	犀川左岸段丘②			?							
16		上牛野	犀川右岸段丘①								○		
17		木戸橋ノ爪	自然堤防								○	○	
18	1 (4561)	塙山若宮	犀川右岸段丘①		○	○	○				○	○	
19		山中中延敷	湖沢山地山腹			○							
20	5 (9281)	庄郷沢	湘沢山地山腹			○							
21		瀬橋ノ爪	犀川右岸段丘①								○		
22		新屋	犀川右岸段丘①								○		
23		龍門渓	犀川右岸段丘①					○	○		○		
24	11 (4553)	宋町	犀川右岸段丘①						○	○	○		
25	7 (7456)	明利麻守跡(石室)	犀川右岸段丘①							○	○	○	
26	9 (4552)(9274)	上郷	犀川右岸段丘②			○					○	○	
27	8 (4551)	こや城	金田川左岸台地		○	○	○		○	○	○		
28	4 (9280)	地行田茶臼山	雷山山麓			?						○	山城
29		武上平	金田川左岸台地								○	○	
30	17	吐中長峰山山腹		○									
31	15 (9232)	城下	長峰山山腹			○							
32	16 (4555)(4556)	上手尾敷	犀川右岸段丘②		○	○			○	○	○	○	
33	19	北村	犀川右岸段丘②			○	○		○		○	○	
34	18	天平	長峰山山腹			?					○	○	
A	牛坂7	田島	犀川右岸段丘①			○						○	
B	牛坂10	小立野	犀川右岸段丘①			?							

## 第2節 歴史的環境

第1節でも述べたように、犀川やその支流の会田川などはよく河岸段丘を発達させており、その段丘上は、連続した遺跡の宝庫となっている。ことに長野道建設に伴い発掘調査の行なわれた北村遺跡は、3~7mの厚い堆積層の下から縄文中期~後期にかけて多くの配石墓、住居址が発見され、今まで遺跡の空白地帯であった上手屋敷遺跡南の塔ノ原、光地区や七ヶ上押野などの後方の山からの厚い堆積層に被われた段丘上に遺跡の存在の可能性を明らかにしたことでの意義は大きい。以下町内の遺跡を時代別に概観してみたい。

先土器時代の遺跡は未だ発見されていないが、中川手吐中遺跡(30)ではオオツノシカの化石が発見されている。オオツノシカは先土器時代の狩猟の重要な対象であり、獲物を追った当時の人々の足跡の可能性を示している。

縄文時代にはいり、草創期の遺物は発見されていないが、縄文文化の確立される早期の遺物の出土する遺跡として、押型文の土器が出土したこや城遺跡(27)、オオツノシカの化石の付近から早期末の土器片が出土したという吐中遺跡(30)、明南小学校の改築に伴う平成元年度の発掘調査で早期末~前期初頭の住居址が10軒検出された上手屋敷遺跡(32)、今回の発掘調査で絡条体圧痕文の土器が検出されたほうろく屋敷遺跡(1)がある。

前期になると遺跡の数は増加し、前記の上手屋敷遺跡(32)、給食センター建設時に前期末の土器が出土した塙田若宮遺跡(18)、昭和44年住宅団地建設に伴う発掘調査で前期末の土器が出土した緑ヶ丘遺跡(10)、今回の調査で諸磯B期の遺構が出土したほうろく屋敷遺跡(1)などがある。

中期になるとさらに遺跡数は増加し、犀川沿いに規模の大きな遺跡がみられる。南から、住居や人骨を伴う墓壙が検出された北村遺跡(33)、学校建築時に中期土器が出土している上手屋敷遺跡(32)、加曾利E式土器の出土している上郷遺跡(26)、昭和52年国鉄篠ノ井線複線化に伴い発掘調査され4軒の敷石住居址が検出されたこや城遺跡(27)、昭和48年住宅団地建設時に中期初頭の土器や土壙らしい遺構の発見された吐中城下遺跡(31)、昭和44年給食センター建設時に中学生が敷石住居らしい配石や土器、歯骨などを発見している塙田若宮遺跡(18)、土器片や打製石斧が出土している山中中屋敷遺跡(19)、犀川左岸では、加曾利E式土器の出土した下押野城ヶ平遺跡(14)、土器の他土偶や打製石斧の出土している塙田原孫五郎屋敷遺跡(13)、緑ヶ丘遺跡(10)でもこの時期の遺物が出土している。荻原地区では、宮原遺跡(12)と、荻原神社付近の宮ノ前遺跡(11)、松電営業所付近の伊勢宮遺跡(9)から中期の土器や石器、土偶などが出土している。南陸郷では、開田工事の際に多くの遺物が出土した中村経塚遺跡(4)や石原遺跡(5)、ほうろく屋敷遺跡(1)がある。

後期になると遺跡数は減少し、遺物の出土や、遺構の検出された遺跡はわずか8遺跡である。住居址や墓壙の検出された北村遺跡(33)、後期初頭の土器が出土したこや城遺跡(27)、称名寺式や堀ノ内式土器の出土している塙田若宮遺跡(18)、後期土器の出土が伝えられる孫五郎屋敷遺跡

(13)や宮原遺跡(12)、宮前遺跡(11)、今回調査のほうろく屋敷遺跡(1)である。

晩年にはいるとわずか2遺跡に晩期末の遺物がみられるのみである。発掘時に晩期末から弥生初期の土器がみられた緑ヶ丘遺跡(10)、その直ぐ下の段丘上で、農作業中に水式土器や単独出土した、荒井遺跡(8)だけである。緑ヶ丘遺跡の遺物はいずれも小破片で、変形工字文や沈線を施す。荒井遺跡出土の小型の鉢型土器は、高12.5cm、口経20cmで、文様は沈線による変形工字文で、工字状となる部分に小突起を配し、胴部に2条・口唇部に1条の沈線をめぐらしている。

その他の縄文遺跡として、石鎚などが出土した矢ノ沢天平遺跡(34)、打製石斧や縄文土器が出土している施行茶臼山遺跡(28)、打製石斧の出土している瀬沢庄部沢遺跡(20)、縄文土器が出土している下押野やしき遺跡(15)、縄文土器や打製石斧が出土している中村源藤平遺跡(6)、塚田山遺跡(7)、守義遺跡(3)、小泉北竹原遺跡(2)などがあり、いずれも遺跡の規模は小さく山間地の立地であることや出土遺物などから、遺跡数の最も多い縄文中期頃の狩猟や採集の際のキャンプサイト的なものと考えられる。

ほうろく屋敷遺跡の対岸の生坂村の遺跡では、縄文中期の土器や石鎚が出土している下生野田島遺跡(A)、縄文土器や打製石斧が出土している小立野遺跡(B)などの遺跡がある。

弥生時代の遺跡は北村遺跡(33)、龍門渕遺跡(23)、こや城遺跡(27)、緑ヶ丘遺跡(10)、ほうろく屋敷遺跡(1)の5遺跡で、北村遺跡、緑ヶ丘遺跡、ほうろく屋敷遺跡を除けば断片的な資料が得られているにすぎない。緑ヶ丘遺跡では焼土を伴う集石遺構が検出され、集石中からは多量の石器や土器片、焼けた獸骨がみつかっている。北村遺跡では後期の住居址が検出されている。

緑ヶ丘遺跡と、ほうろく屋敷遺跡から出土した弥生前期から中期にかけての遺物は弥生時代黎明期の人や物の交流を知るうえで非常に興味が深い。

明科町で知られる古墳は古墳時代後期のもので、分布は明科5、潮2、「下押野1」と今の明科の中心部からその周辺に限られ、集落遺跡もほぼこの範囲に限定される。ほうろく屋敷遺跡のある南陸郷にはこの時代の痕跡はみられない。

古代にはいると古墳時代の集落のあった明科には7世紀後半には寺院が造られた。明科廃寺(25)出土の軒丸瓦は瓦当の文様から、信濃最古の瓦といわれている。奈良時代から平安時代の集落遺跡の主なものとしては、北村遺跡(33)、上手屋敷遺跡(32)、栄町遺跡(24)、上郷遺跡(26)、塩田若宮遺跡(18)、上生野遺跡(16)、木戸橋ノ爪遺跡(17)、宮原遺跡(12)、宮前遺跡(11)、中村経塚遺跡(4)、ほうろく屋敷遺跡(1)がある。

奈良時代の天平宝字8年(764)の年号のある正倉院の宝物として「信濃国安曇郡前科郷戸主安曇部真羊 満布一端」の墨書き文のある麻の布袴があり、前科郷(今の明科町のほぼ全域と池田町の南部)の存在が文献で明らかにされる。前科郷は平安時代の末には分解され、七貴地区荻原、南陸郷地区中村、金井沢、小泉及び池田町の南部は大穴庄となり、承暦元年(1160)の高野山文書には「殿下領大穴庄」とあり庄園化される。大穴庄はその後所有者を変えながら鎌倉時代後期まで続く。

ほうろく屋敷遺跡の名称については、現在は小字が廃止されているがそれまでの土地台帳にはほうろく屋敷の地名はなく、遺跡の範囲はほとんどが露海道となっている。江戸時代慶安3年(1650)の小泉村検地帳に「ほうろくはた」と見え、江戸時代の初期には「ほうろくはた」と呼ばれていた。その後の検地帳は失われてなく、いつ地名が変化したかはわからない。現在の土地台帳の基礎となる絵図のできた明治時代初には「ほうろく」の地名はなくなっている。ただ、遺跡の登録時に地元では「ほうろく屋敷」という呼び方は存在していたようである。こうしたことからすると、「ほうろく」の地名は「土器のたくさん出る畑」がその起りと考えられよう。

これを証明するかのように、本遺跡からは、多くの遺物が採集されており、大型の精巧な石棒や、三角堵形土製品などの呪術的な遺物もある。

○参考図書

三好 博喜 他『明科町史上巻』1984 明科町史刊行会

『東筑摩郡・松本市・塙尻市誌別籍地名』1976 地図資料編纂会



ほうろく屋敷遺跡全景

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

今回の調査対象であるほうろく屋敷遺跡は犀川左岸の河岸段丘上にあり、北東方向に犀川へ向かってゆるやかに傾斜している。遺跡は比高2~3mの小段丘によって2段の面を形成しており従前は、上段をほうろく屋敷遺跡、下段東方を露海道遺跡と2遺跡に分けていたが、今回の調査で同一の遺跡であることが判明したため、遺跡の主体を占めるほうろく屋敷遺跡に名称を統一することとした。

調査は昭和63年度に第1次調査として上段を中心に約8,000m<sup>2</sup>を、平成元年度に第2次調査として下段を中心に約5,000m<sup>2</sup>をそれぞれ発掘し、約20,000m<sup>2</sup>と推定される遺跡の3分の2近くを調査することができた。

結果、遺構として、第1次調査区の半分以上の5,000m<sup>2</sup>から縄文中期~後期、弥生中期初頭の配石や集石が一面に検出され、集石や配石の中や周囲から縄文前期1軒、中期62軒、後期5軒の堅穴住居址や、多くの土壙が検出された。配石や集石の最も上面には、比較的破壊されていない配石遺構がみられ、この配石の下部からは、弥生時代中期初頭の土器が検出され、他に類例のない配石を伴う土器棺再葬墓であることが判明した。再葬墓は4群16基を数え、この他配石墓、礫床墓と思われる遺構もみられた。弥生時代後期では堅穴住居址1軒、平安時代では堅穴住居址20軒、掘立建物址1棟、中近世では掘立建物址2棟、同期の土壙などが検出された。

遺物では、3ヶ所の土器捨て場的な様相を示す土器集中区を中心に、縄文早期末~後期の土器片がテンバコ500箱以上も出土しており、復元可能な土器は500個体近くに達した。土製品として、土偶67点、ミニチュア土器21点、土製スプーン4点、土笛4点、中空動物形土製品、板状土製品、スタンプ形土製品各1、有孔球状土製品2、三角墳形土製品1など特殊な祭祀をうかがわせる遺物が多数出土している。

石器は、打製石斧約3000点、凹石約2000点、石鎌約1100点、スクレイバー約600点、磨製石斧180点、石匙103点、横刃型石器350点、長さ110cm、幅14cm、重さ約30kgの大石棒を筆頭に大小35点の石棒、石皿114点、砥石43点、蜂ノ巣石7点、石錐149点など多種多様な1遺跡としては極めて多量の石器類が出土しており、さながら石器の品評会の様であった。

#### 調査区の設定

遺跡の推定域の全てがほ場整備区域となったため、特に表採で遺物の漫密な散布を示し、試掘調査の折、住居址らしい遺構のあった上段を中心に調査を行うこととし、この段丘上に幅1~2mのトレンチを重機により入れ、地層の確認を行った。その結果、夥しい量の礫と遺物の出土がみられたため、礫のある層まで表土を削平することとし、約5000m<sup>2</sup>にわたって重機による除去を

行った。調査はグリット法によることとし、調査区に沿って任意の方向に10m間隔で西から東へA～M、南から北へ1～7の杭を設けた。杭のうち調査区全域をカバーするよう3本を基準杭とし、標高を付近の三角点から、国家座標を国土調査基準点からそれぞれ移設した。その後の第1次調査での調査区の拡張及び翌年の第2次調査においても、第1次調査のグリットを延長した。

測量はグリット杭に基づいて簡易遺形実測を原則に、航空写真測量、平板測量を併用した。また遺物の取り上げは番号を付した上で、光波測距儀を使用し基準杭より角度、距離を計測し、出土位置を座標で表わすこととし、パソコンによる3次元処理を試みたが、あまりにも多量の遺物が出土したため、全ての整理が完了していない。

#### 遺物の整理

出土した遺物はあまりにも龐大な量であった。第1次調査で出土した遺物のうち、遺物番号を付した石器類については洗浄、注記を現場で大部分行つた。土器については、平成元年4月より開始、平成2年1月まで10ヶ月間かけて行つたが、注記作業は極く一部分しかできなかつた。第2次調査の遺物については、現場で発掘作業と並行して洗浄のみを行い、注記は遺物番号を付したもののみ行つた。

土器の接合については、遺物番号を付したものから順次行い、その他の土器については一応ひととおり接合をはかたが、十分ではない。接合復元ができたものは、実測のため写真撮影を行つたが、日程等の関係でごく一部分しかできなかつた。

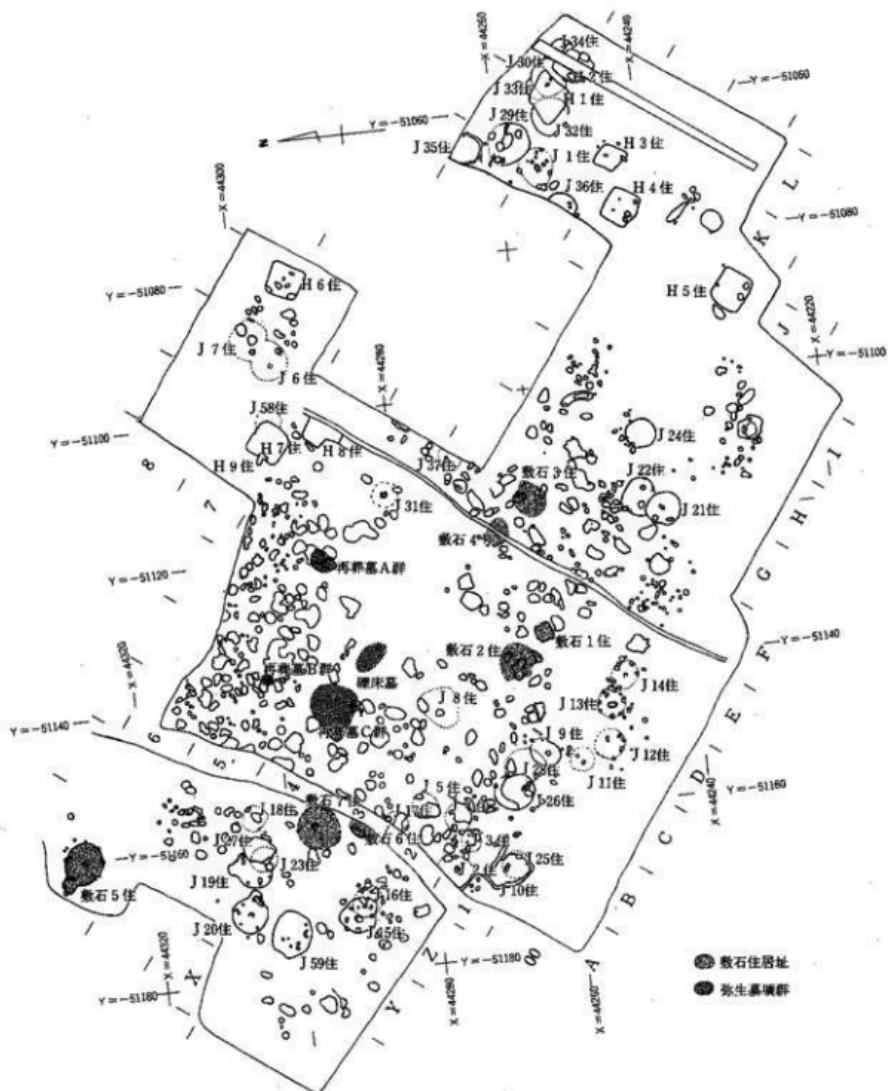
石器類については、各種類ごとに形態別の分類を行い、一覧表を作成したが、実測には全く着手できなかつた。

いずれにしても遺物の量が極めて龐大なため、接合復元作業を平成3年3月まで継続したほどであり、整理、分類には至っていないのが現状である。このため、遺構についても、住居址についてはほぼ整理がついたが、土塹については、全く整理できず、本報告ではほとんどふれていない。本報告に掲載できなかつた遺物、遺構についてはさらに整理をすすめ、後日稿を改めて報告したい。

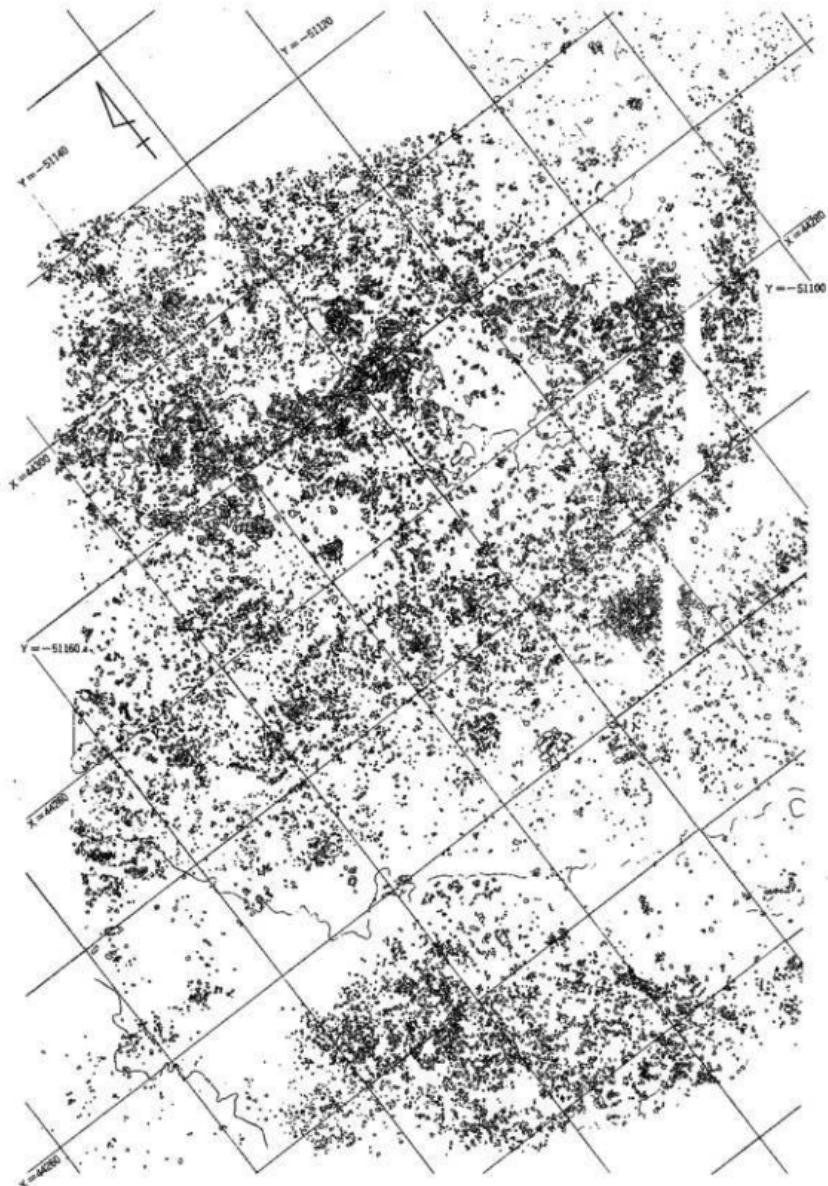
なお、多くの実測図の中には紛失したものもあり、全体図にも一部分が欠落しており、遺構の全体像の把握に欠ける。



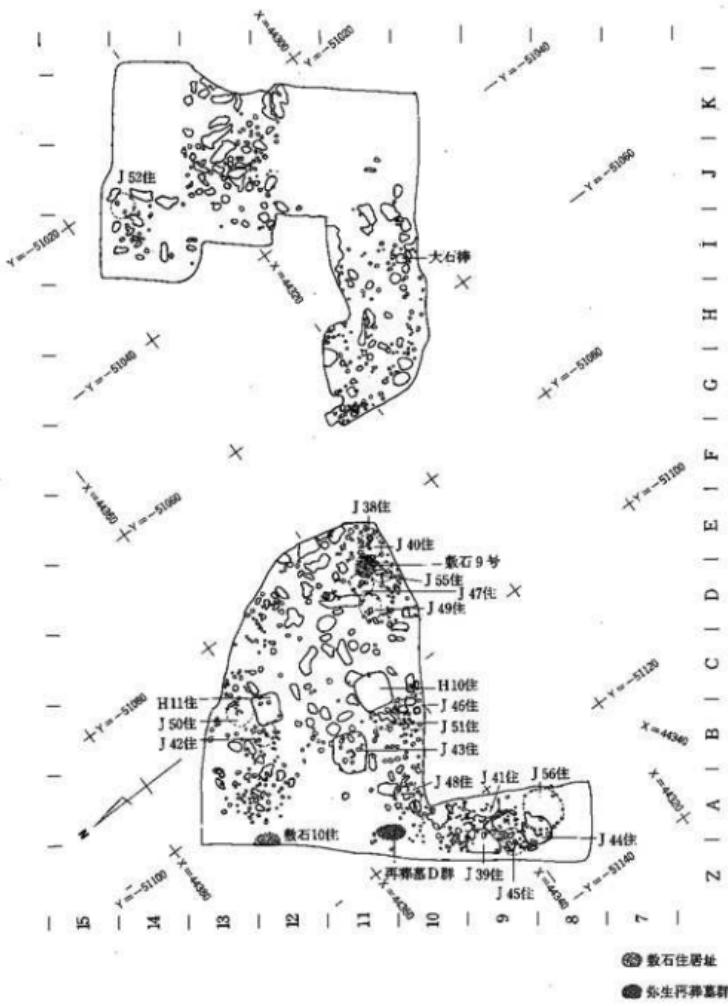
整理作業



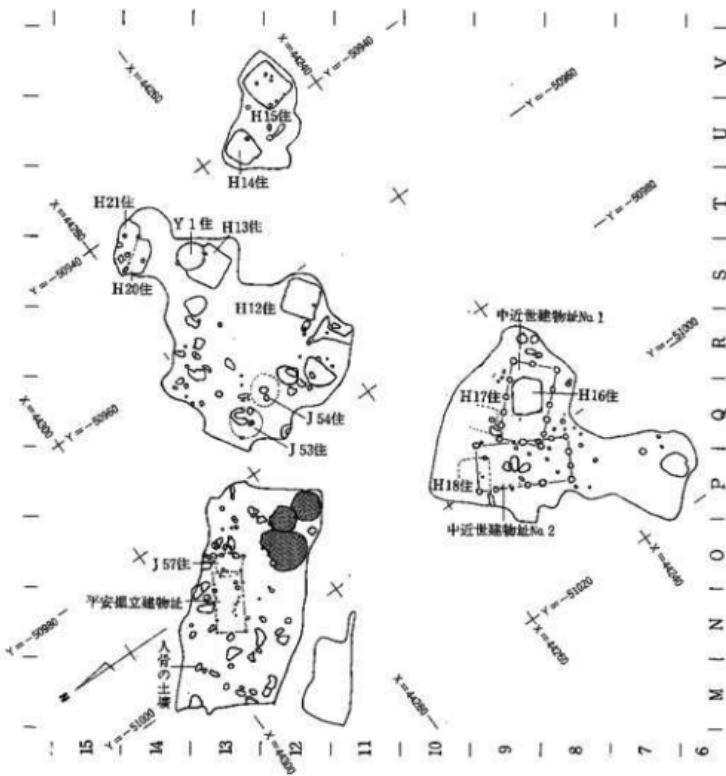
第3図 全体図（1次調査区）（1:800）



第4図 集石及び配石 (1 : 400)



第5図 全体図(第2次調査区No.1)(1:800)



● 紫石

第6図 全体図（第2次調査区No.2）（1:800）

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

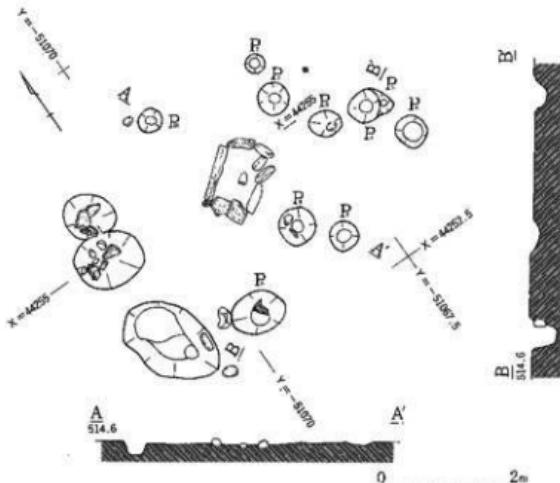
今回の調査で検出された遺構は竪穴住居址59軒、敷石住居址9軒、土壙、配石、土器集中区である。時期別には繩文時代前期1、中期62、後期5の住居址を確認した。土壙については未整理のため切り合ひ関係も含め数は確定していない。配石については、弥生時代中期初頭の配石以外では、石棺墓状の配石だけが明確にプランをえられたが、遺物の出土ではなく、繩文時代のものであるかは不明である。

以下、住居址、土壙、配石について述べることとする。

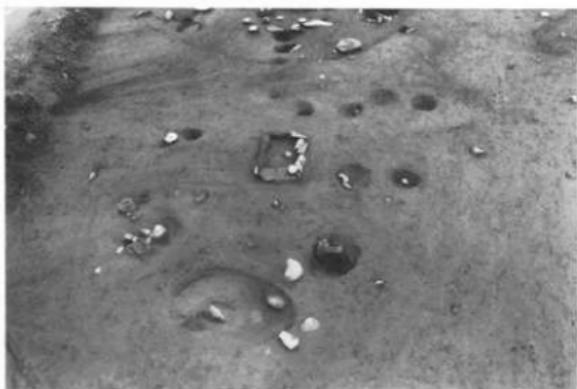
### (I) 住居址

#### J 1号住（第7図）

検出 J、K-5、6グリットにある。表土削平中に石圓炉を検出、J 1号住とした。北側をJ 29号住に切られる。規模・形状 表土削平時に床面近くまでほとんど削られているため規模、プランともに不明、主軸は炉の状況からN56° Eとなろう。埋土 わずかに観察されたのは茶褐色土1層である。床面・壁 炉の周辺東側にわずかに硬化面が見られた。壁は不明。炉 120×70 cmの大形の方形石圓炉であるが、焼土はみられない。柱穴 炉周辺にピットが見られるが、不明。その他の施設なし。遺物 炉内より曾利II式の深鉢片が1片出土している。時期 中期後半曾利II式期



第7図 J 1号住居址



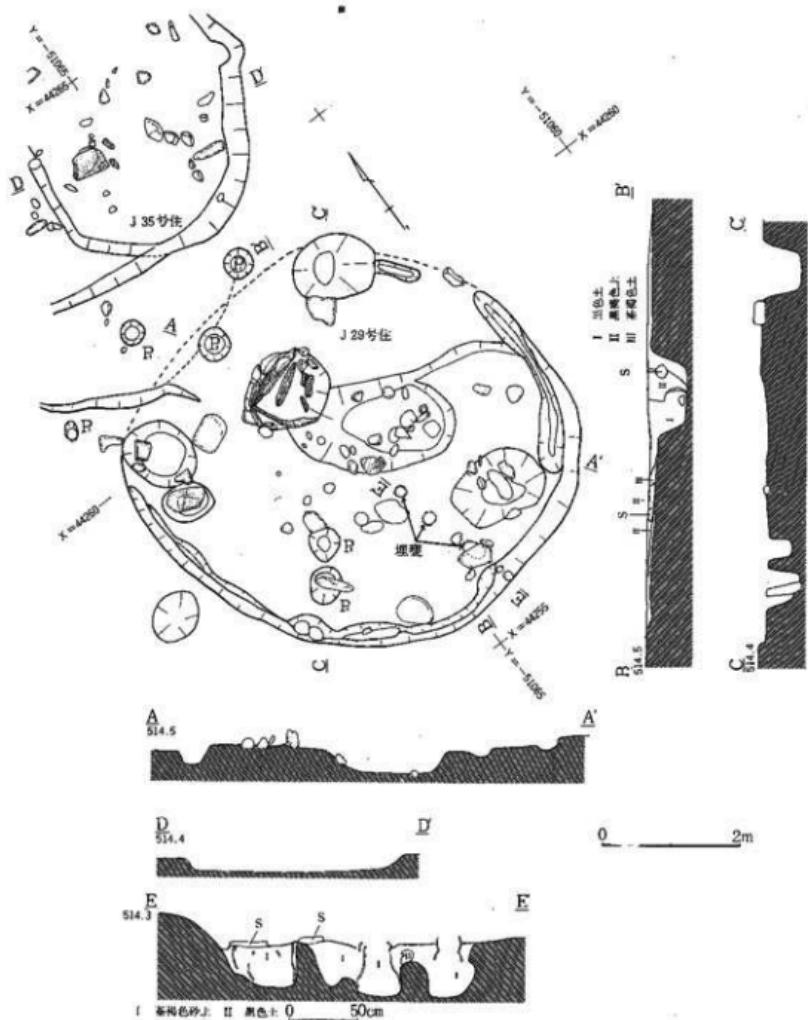
J 1号住居址

J 29号住（第8図）

検出 J、K-6グリットにあり、J 1号住を切り、J 35号住の上にかかる。規模・形状 直径6.2~6.4mのほぼ円形プランで、主軸方向はN15°Wと推定される。埋土 3層に分層されるが自然堆積を示している。床面・壁 床面は地山の黄褐色砂質土層へ堀り込み築かれているが、軟弱である。壁は1~12cmとほとんど削平のため削られ残っていないが、比較的急角度で立ち上がる。周溝は部分的に途切れながらほぼ全周する。炉 中央やや奥壁寄りに築かれている。120cm四方の方形石開炉だが破壊が著しい。柱穴 P<sub>2</sub>、P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>がある。遺物 石錠1のはか埋甕が3基が壁から炉に向って一直線に並ぶ。壁寄りの埋甕には平らな砂岩の蓋がある。時期 曽利田式期



J 29号住居址



第8圖 J 29、35號住居址



J 29号住埋甕出土状況



J 29号埋甕

J 29号埋甕

J 29号埋甕

#### J 35号住（第8図）

検出 J-6グリットにある。J 29号住と接する。規模・形状 3.5m × 3 mの隅丸方形と推定される。主軸方向は不明。埋土 茶褐色砂質土の単層 床面・壁 床面は地山を掘って築かれるが軟弱で硬化面はみられない。壁は11~17cmの高さをもちゆるやかに立ち上る。炉 検出されないが、中央のわずかな凹みが炉の可能性もある。柱穴 検出されない。遺物 覆土中に多くの土器片が見られた。打製石斧3、横刃形石器2、石鎌2が出土している。時期 中期初頭

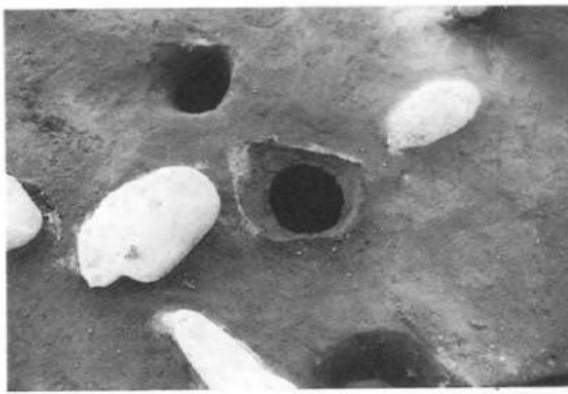
J35号住居址



J32号住居址



J32住居址埋甕出土状况



#### J 32号住（第9図）

検出 K-5、6 グリットにある。H 1号の下面にあり、J 33号住を切る。規模・形状 直径 5m のややつぶれた円形。主軸は N 100° W 埋土 茶褐色砂質土の単層 床面・壁 床面は地山を堀り下げ築かれている。硬化面が全体にみられる。壁は 11-22cm と比較的浅いが立ち上がりは急角度。周溝が全体にまわる。炉 中央やや奥壁よりに築かれる。70cm 四方の方形石圓炉、板状砂岩を使用していねいな作りで深い。焼土が炉底にわずかにみられる。柱穴 P<sub>7</sub>、P<sub>13</sub>、P<sub>15</sub>、P<sub>16</sub> の 4 本主柱穴 遺物 石鍬 2、凹石磨石 2、住居入口部分に平石の列が見られ方形の平石の下に埋甕がある。時期 曽利III式期～IV式期

#### J 30号住（第9図）

検出 K、L-6 グリットにある。H 1号住が上面にある。J 33号住を切る。規模・形状 直径 5.2m のややつぶれた円形プラン。主軸方向は N 5° E 埋土 茶褐色砂質土の単層 床面・壁 床面は地山上に築かれている。全体に硬化面がみられる。壁は切り合い等で崩れて残存状態はあまりよくないが立ち上がりは急角度。周溝は北壁に 3m ほど残る。炉 中央やや奥壁寄り、90×90cm の方形石圓炉でややゆがみ平行四辺形に近い。柱穴 P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub> があるが主柱穴は P<sub>1</sub>、P<sub>4</sub> か？ 遺物 多くの遺物が出土している。石鍬 3、打製石斧 2、凹石磨石 7、滑石製品 3 があり埋甕が東西の壁際に逆位で埋められている。時期 曽利III式期

#### J 33号住（第9図）

検出 K-6 グリットにある。H 1号住の下面にあり、J 30号住に切られる。規模・形状 直径 3.5m の円形と推定される。埋土 茶褐色の単層 床面・壁 床面は地山にあると思われるがはっきりしない。壁も残りが悪いが立ち上がりは急角度 炉 なし 柱穴 検出されない。遺物 打製石斧 1、石棒 1 がある。時期 不明であるが J 30号住より古いので曾利II式期以前か。



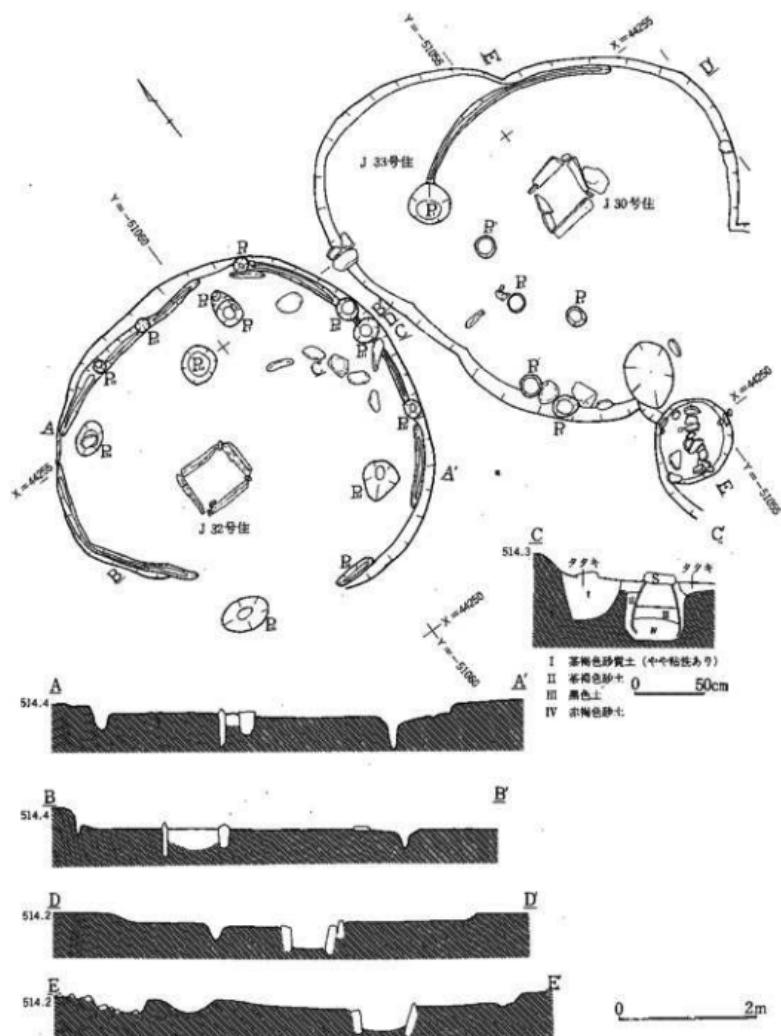
J 32号住出土土器



J 32号住出土土器



J 32号住出土土器



第9図 J 30、32、33号住居址

J  
30号住居址



J  
30号住埋甕出土状况



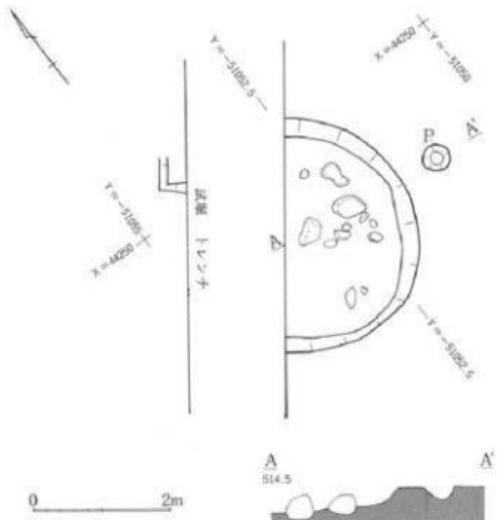
J  
30号住埋甕



J  
30号住出土土器

J 34号住（第10図）

検出 L-6グリットにある。西側半分はトレンチで破壊されている。規模・形状 直径3.4mの円形と推定される。埋土 黒褐色土の単層 床面・壁 床面は地山の土が混じる茶褐色土上にあるが軟弱である。壁は比較的急角度で立ち上がる。炉 検出されない。柱穴 検出されない。遺物 後期初頭の土器片がある。時期 後期初頭

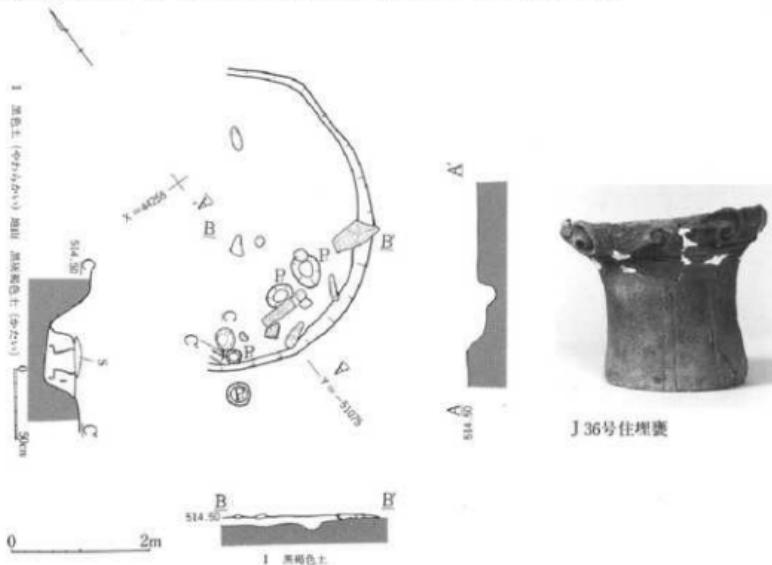


第10図 J 34号住居址



J 36号住（第11図）

検出 J-5グリットにある。西側半分は住宅の下で調査できない。規模・形状 直径4.2mの円形プラン 埋土 茶褐色土の単層。床面・壁 床面は地山を掘り込んでいるが軟弱でよくわからない。壁はなだらかに立ち上がる。炉 検出されない。柱穴 P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>がある。遺物 石棒が覆土から出土している。南西壁際に蓋石のある埋甕がある。時期 曽利III式期



第11図 J 36号住居址



J 36号住居址



J 36号住埋甕出土状況

#### J 2号住（第12図）

検出 A-1、2グリットがある。J 10号住と接し、J 3号住の上面にある。規模・形状 不明 埋土 黒褐色土 床面・壁 床面は判然としない。壁は炉南にわずかに掘り方らしいものが残るが判然としない。炉 85×80cmの方形石圓炉、半分近くが破却されている。焼土はみられない。柱穴 P<sub>18</sub>、P<sub>20</sub>がある。遺物 なし 時期 不明 炉の形態からすれば中期後半

#### J 3号住（第12図）

検出 B-1、2グリットがある。J 2号住の下面にある。規模・形状 直径4mほどの円形プランと推定されるが判然としない。埋土 茶褐色土の單層 床面・壁 床面は地山上と推定されるが硬化面はみられない。壁は不明。炉 40cm四方の方形石圓炉、焼土は炉底にわずかにみられる。柱穴 P<sub>3</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>1</sub>などがある。遺物 炉址周辺の土器片以外は特定できない。時期 曽利Ⅰ式期

#### J 10号住（第12図）

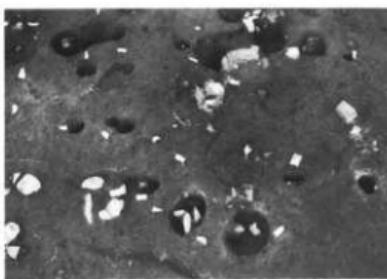
検出 A、B-1グリットがある。J 25号住の上面にあり、J 3号住と接する。規模・形状 直径6mほどの円形もしくは隅丸方形プランと推定される。主軸方向はN120° Eと推定される。埋土 不明 床面・壁 床面はほとんど硬化面は見られず判然としない。壁は南側にわずかに残る。北側には周溝がわずかに残る。炉 125×60cmの方形石圓炉、焼土が炉内にみられる。柱穴 P<sub>27</sub>、P<sub>31</sub>、P<sub>44</sub>が主柱穴と推定される。遺物 炉内の土器以外に特定できるものはない。時期 曽利Ⅲ式期

#### J 25号住（第12図）

検出 A、B-00、1グリットがある。J 10号住の下面にある。J 10号の床面精査中に炉を検出した。規模・形状 直径4mの円形プラン、主軸方向はN45° E 埋土 茶褐色土と J 10号住

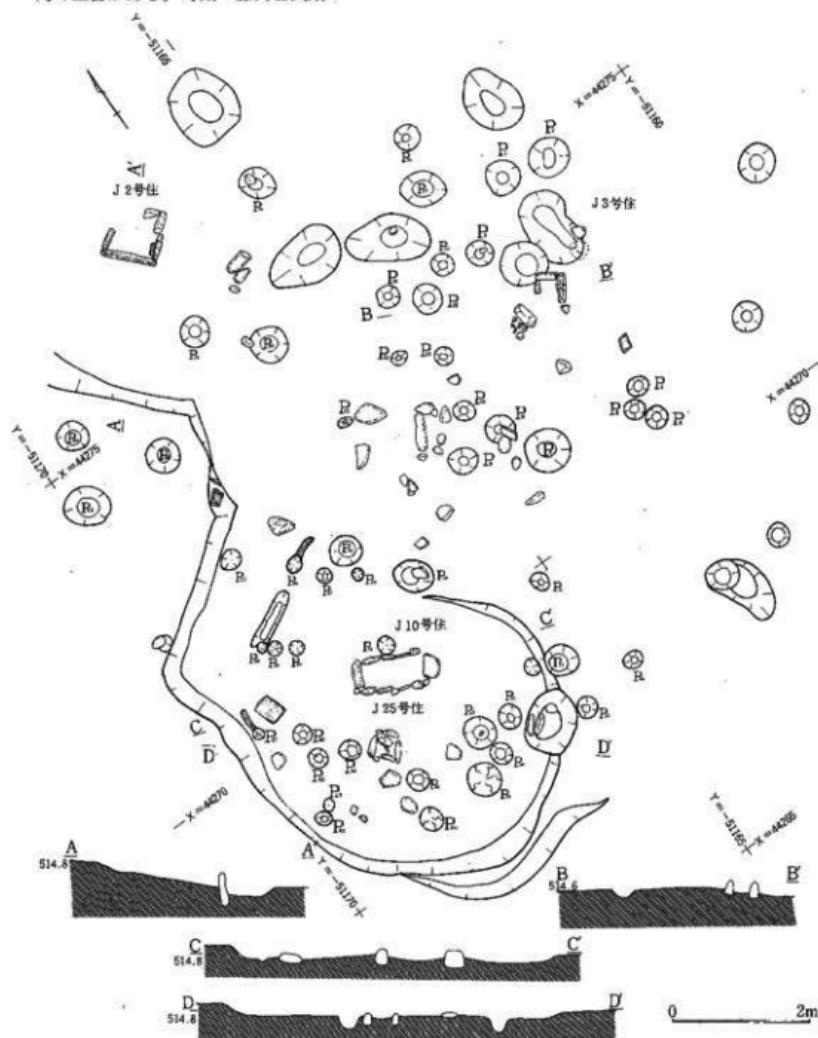


J 2号住居址



J 3号住居址

の床面の2層に分層される。床面・壁 床面は硬化面が全体にみられ良好である。壁は10~23cmが残り立ち上がりはゆるやかである。炉 40cm四方の方形石圓炉で住居址はほぼ中央にある。焼土は炉底にみられる。柱穴 P<sub>40</sub>, P<sub>42</sub>, P<sub>50</sub>などがあるが判然としない。遺物 四石、磨石3、炉内の土器がある。時期 藤内II式期



第12図 J 2, 3, 10, 25号住居址

J  
10.  
25  
号住居址



J 3号住出土土器



J 25号住出土土器

#### J 4号住（第13図）

検出 B-2 グリットにある。土壤検出中に炉及び埋甕が検出され住居址とした。規模・形状不明、炉と埋甕からすると径4~5mか？ 埋土 茶褐色砂質土の単層 床面・壁 床面は軟弱で把えられない。炉 40cm四方の方形石圓炉だが破却が著しい。焼土は検出されない。柱穴 P<sub>1</sub>ほかがあるか不明。遺物 埋甕ほか炉付近から土器片が出土している。時期 曾利V式期。

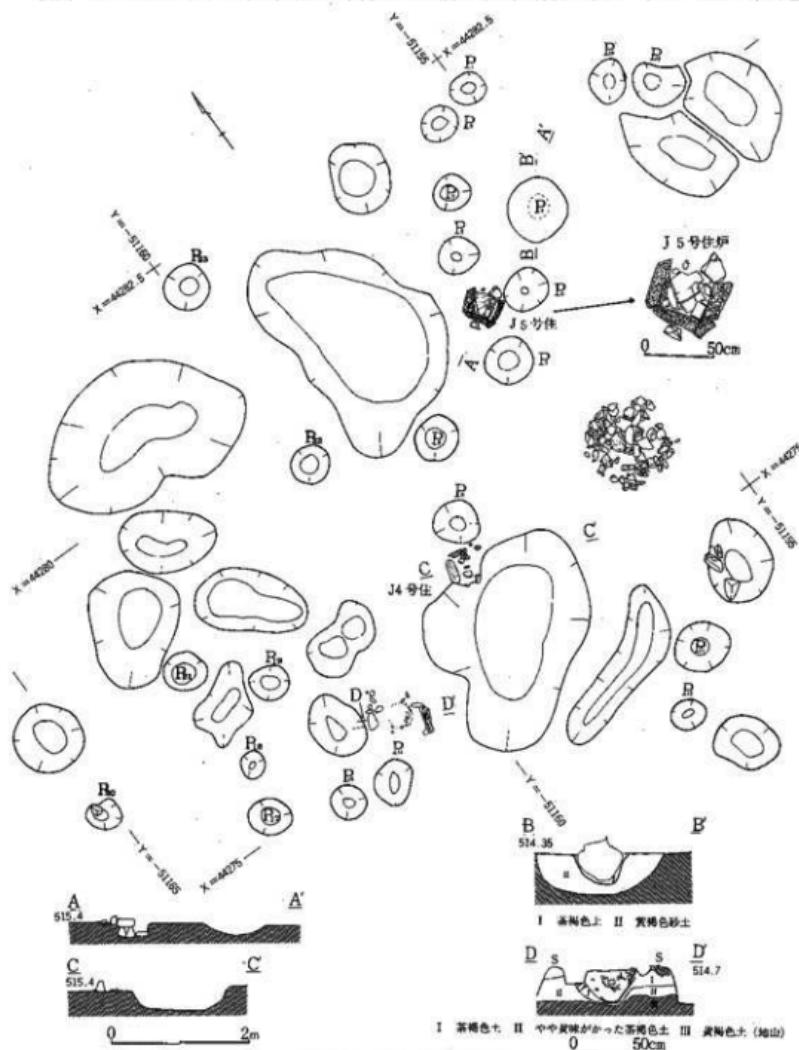
#### J 5号住（第13図）

検出 B-2 グリットにある。J 4号住と接する。規模・形状 不明、主軸方向はN110° Wと推定される。埋土 茶褐色土。床面・壁 床面は軟弱で硬化面はない。炉 60×50cmの方形石圓炉、中には土器を敷く。柱穴 P<sub>1</sub>他があるが判然としない。遺物 炉内から土器片と炉東に埋甕

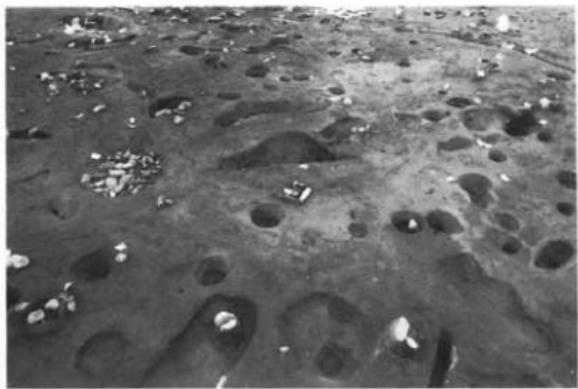
がある。時期 當利IV式期

J 8号住 (第14図)

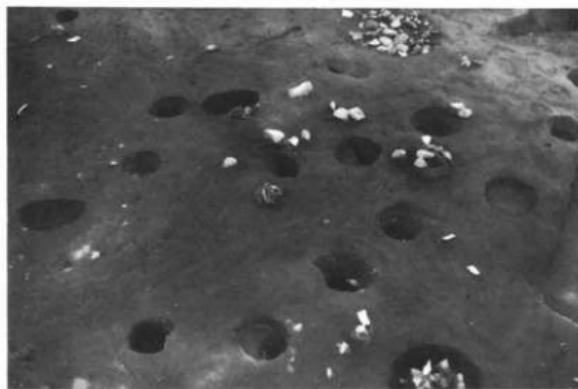
検出 C-3グリットにある。柱穴に閉まれる土壤がある。規模・形状 不明 埋土 茶褐色



第13図 J 4、5号住居址



J 4号住居址



J 5号住居址



J 5号住居炉

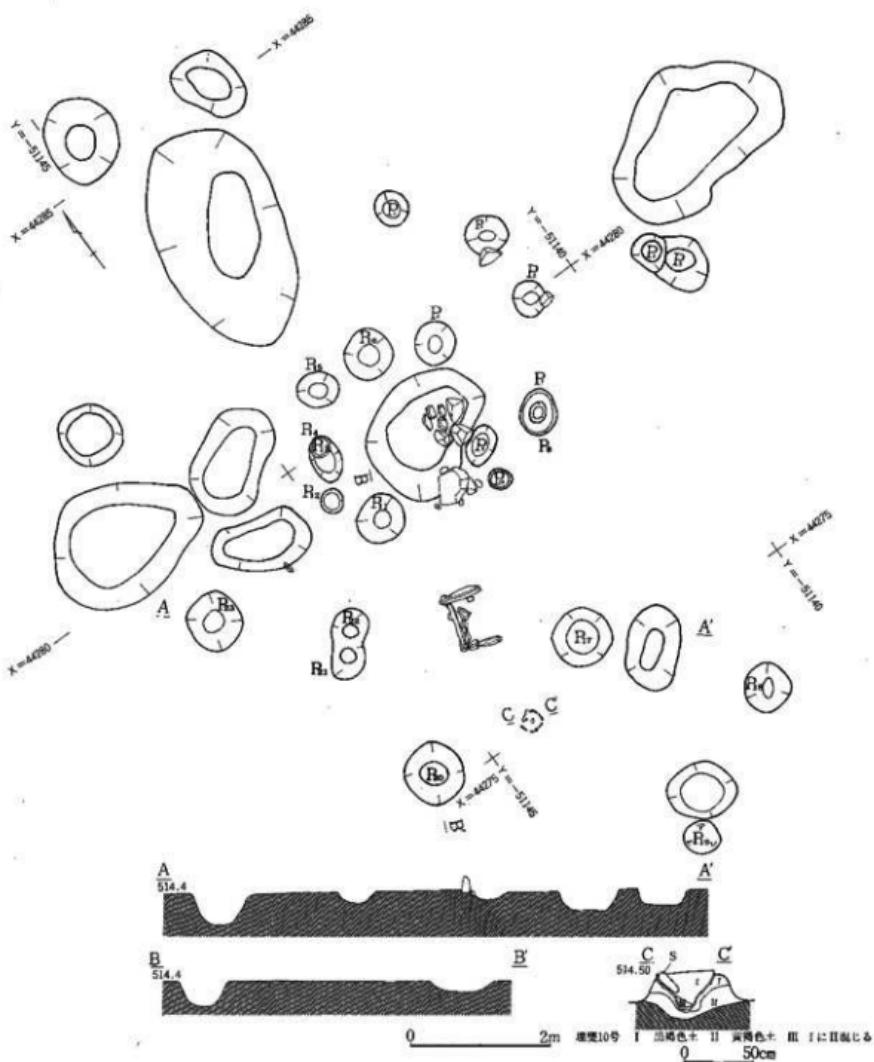


J 4号住埋甕

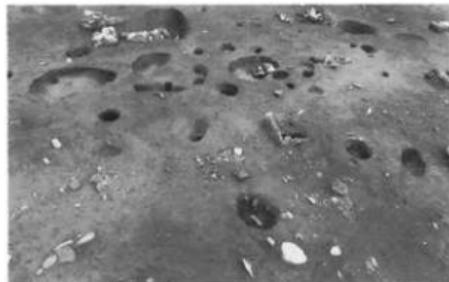


J 5号住埋甕

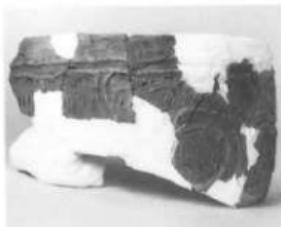
土 床面・壁 検出できなかった。炉 80×60cmの方形石窯炉、焼土はない。柱穴 P<sub>6</sub>、P<sub>10</sub>などがある。遺物 埋甕の他に特定できるものはない。時期 曾利V式期。



第14図 J 8号住居址



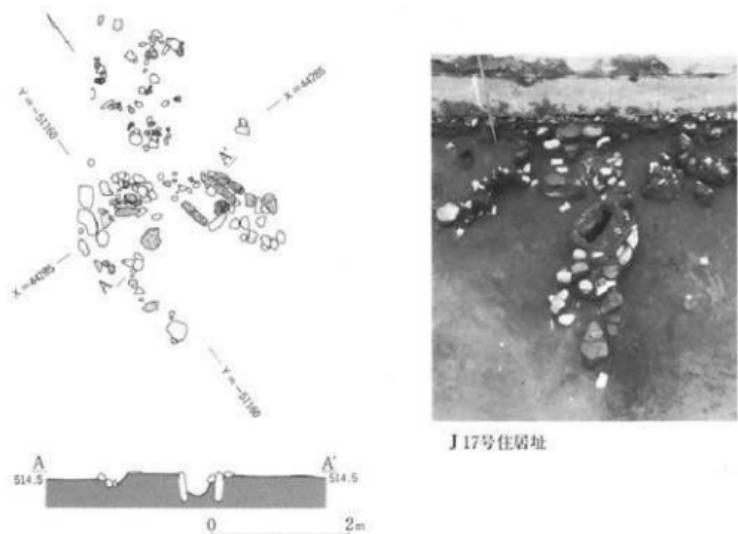
J 8号住居址



J 8号住居内出土土器

J 17号住 (第15図)

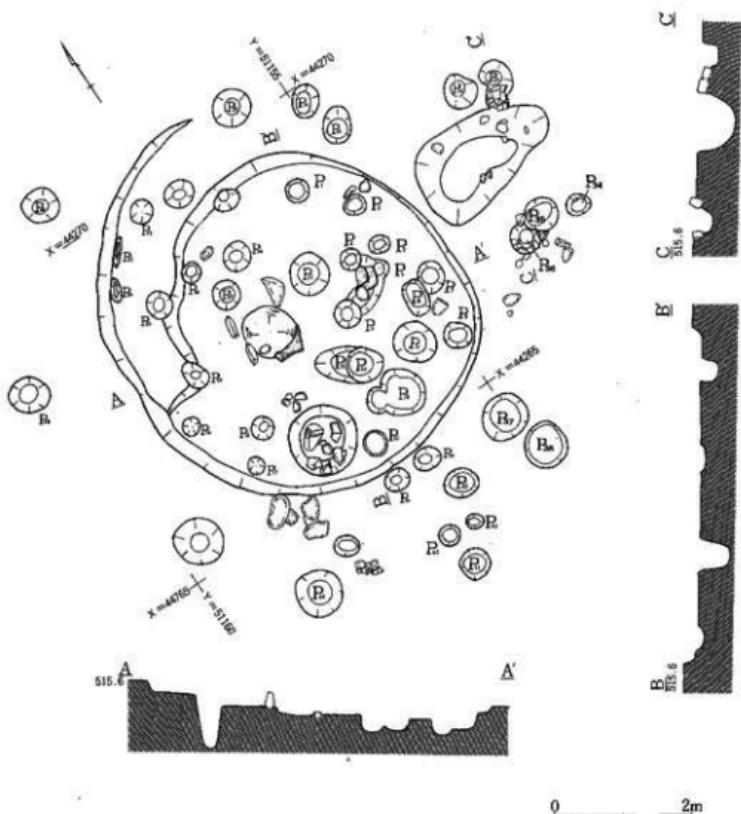
検出 A-2、3 グリットにある。住居の西半分近くが道路下で調査できなかった。道路をはさみ敷石 6号住がある。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 検出できなかった。炉と同レベルに集石がある。炉 60×80cm の方形石開炉、焼土はない。柱穴 検出されない。遺物 炉付近に土器片多数 時期 曾利V式期



第15図 J 17号住居址

J 26号住（第16図）

検出 B、C-1グリットにある。J 28号住を切る。住居内に弥生中期初頭の土壙がある。規模・形状 5.6m×4.5mほどの円形プラン、北壁にはベット状の段差があり、若干周溝が残る。主軸方向はNと推定される。埋土 茶褐色土の单層 床面・壁 床面は地山に堀り込みが築かれる。硬化面が残り良好。炉 70×80cmの方形石圍炉だが破却が著しい。焼土はわずかにみられた。柱穴 P<sub>4</sub>、P<sub>13</sub>、P<sub>19</sub>、P<sub>20</sub>の4本の他に数多いピットがあり建て替えの可能性もある。遺物 覆土及び床面付近から多くの遺物が出ている。打製石斧4、横刃形石器3、石鎌1などがある他土器片が多数。時期 普利V式期～後期初頭



第16図 J 26号住居址



J 26号住居址



J 26号住炉付近出土土器



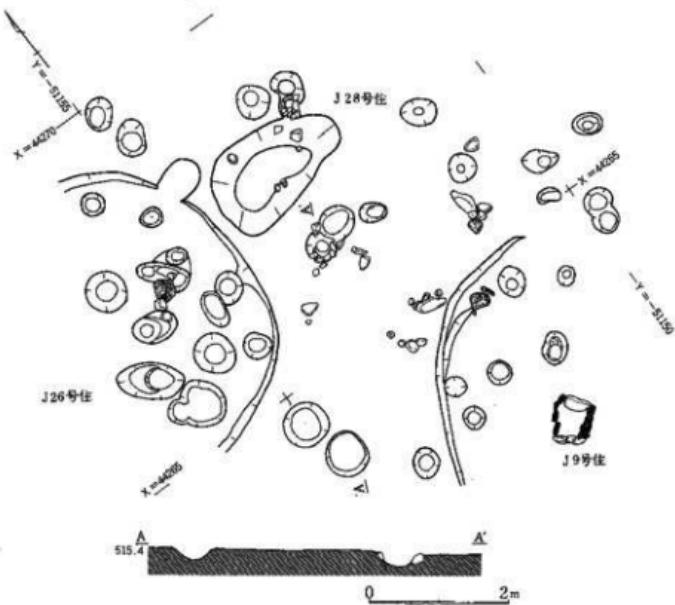
J 28号住埋甕炉



J 28号住埋甕6<sup>1</sup>

#### J 28号住（第17図）

検出 C-1グリットにあり、J 26号住、J 9号住に切られる。規模・形状 不明 埋土 茶褐色土 床面・壁 検出できない。炉 直径40cmほどの埋り込みがある埋甕炉。柱穴 判然としない。遺物 埋甕炉の他に特定できるものはない。時期 中期初頭



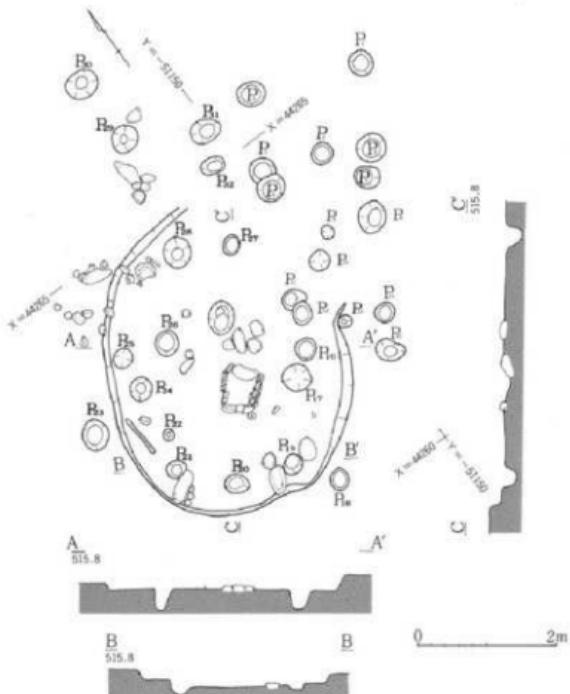
第17図 J 28号住居址

#### J 9号住（第18図）

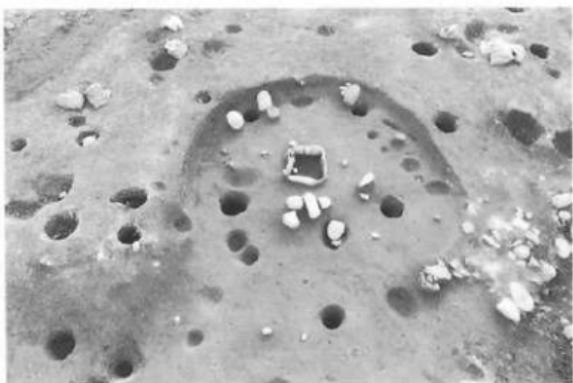
検出 C-1グリットにあり、J 28号住を切る。規模・形状 4.4m×3.6mの楕円形プラン、主軸方向はN135°W 埋土 茶褐色土の半層、床面・壁 床面は硬化面が残り良好。壁は7~26cmと東壁を除きよく残り、急角度で立ち上がる。周溝が西壁にわずかに残る。炉 60×65cmの方形石開炉、炉底に焼土がみられる。柱穴 P<sub>16</sub>、P<sub>19</sub>、P<sub>21</sub>、P<sub>26</sub>、P<sub>27</sub>の5本主柱穴 遺物 床面と覆土から土器が3個体ほどまとまって出土している。時期 曽利II式期

#### J 11号住（第19図）

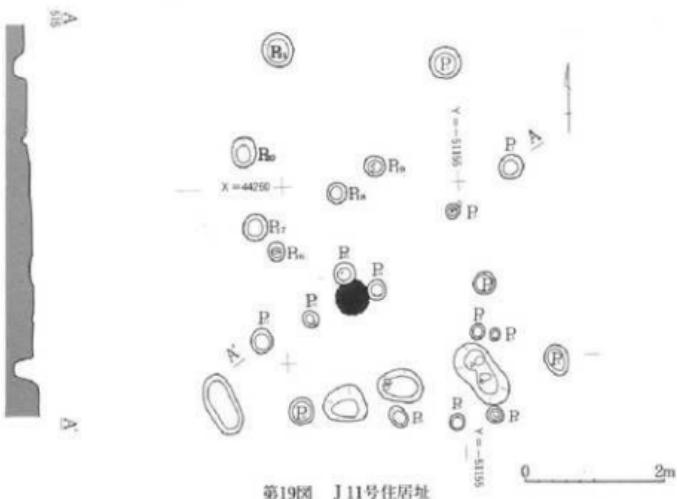
検出 C、D-1、00グリットにある。C-E-01~1グリッドにかけて土器捨て場的様相を示す土器と礫の混じる土器集中区が検出されたが、これらの集石を取り除いたところ J 11号住～J 14号住までの4軒の住居址が並び検出された。規模・形状 不明 径4mほどの円形プランか？ 埋土 不明 床面・壁 炉の周辺がわずかに硬化している。炉 浅い堀込にわずかに焼土



### 第18圖 J 9号住居址



J 9号住居址



第19図 J 11号住居址

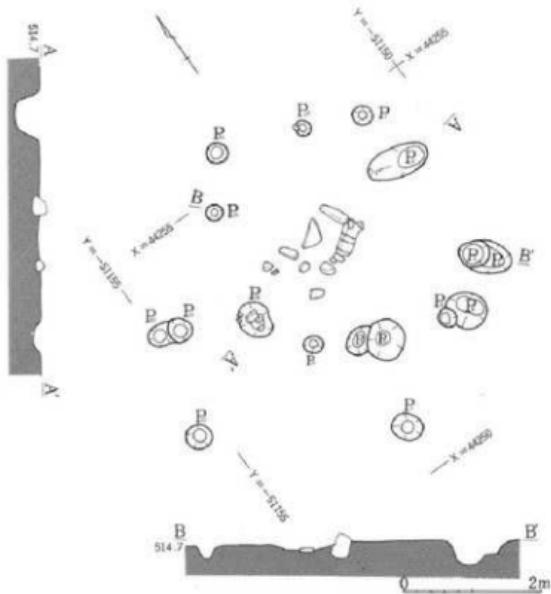


J 11号住居址

がみられる。柱穴 P<sub>3</sub>、P<sub>7</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>17</sub>が主柱穴か？ 遺物 特定できるものはない。時期 不明 中期中葉か？

#### J 12号住 (第20図)

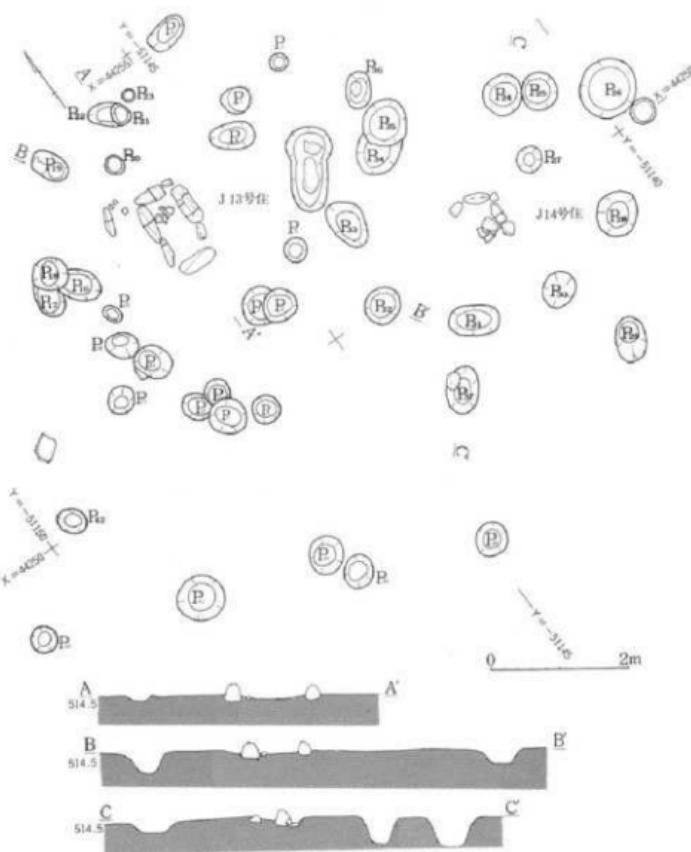
検出 D-00、1グリットにある。規模・形状 径4mほどの円形か？ 埋土 不明 床面・壁 炉を中心に径2~3mの硬化面が残る。炉 70×80cmの方形石圓炉、炉底に焼土残る。柱穴 P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>11</sub>、P<sub>15</sub>、P<sub>17</sub>、P<sub>2</sub>の6本主柱穴と推定される。遺物 炉周辺から2個体ほどの土器が特定できる。時期 曽利II式期



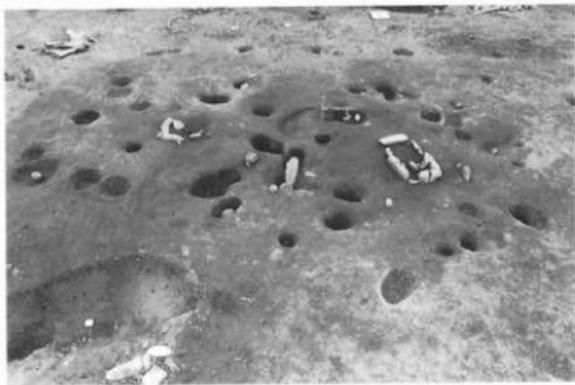
第20図 J 12号住居址



J 12号住居址



第21图 J13、14号住居址



J13、14号住居址

J 13号住（第21図）

検出 D-00、1グリットにある。規模・形状 径4mほどの円形プランか？主軸方向はN 埋土 不明 床面・壁 炉を中心にはり面が残る。炉 80×140cmの大形方形石窯炉、焼土が炉底に若干残る。柱穴 P<sub>3</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>15</sub>、P<sub>19</sub>の4本主柱穴。遺物 特定できるものはない。時期 不明、炉の形態からすれば曾利IIないしIII式期か？

J 14号住（第21図）

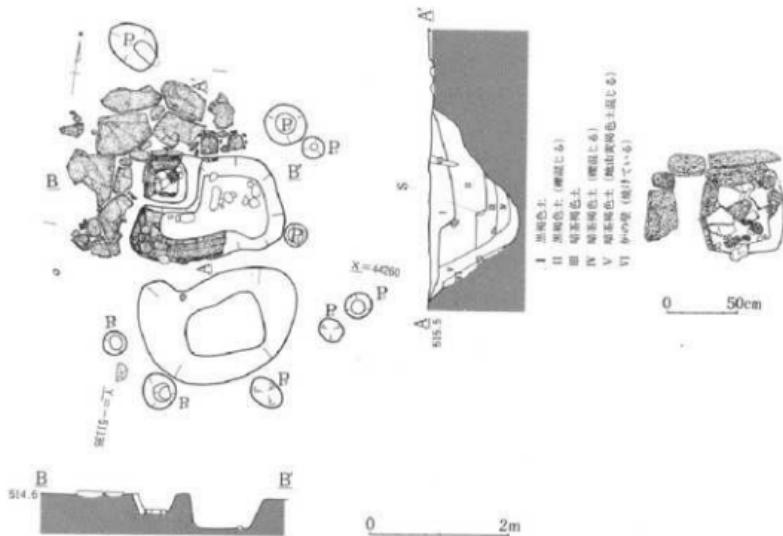
検出 E-1グリットにある。規模・形状 径3mほどの円形か？主軸方向はN115° Eと推定される。埋土 不明 床面・壁 炉の周辺がわずかに硬化している。炉 80×60cmの方形石窯炉、焼土はない。柱穴 P<sub>25</sub>、P<sub>28</sub>、P<sub>31</sub>、P<sub>35</sub>の4本主柱穴か？ 遺物 特定できるものはない。時期 住居付近の土器片はすべて中期後半曾利III式期頃が多くこの時期と推定される。

敷石1号住（第22図）

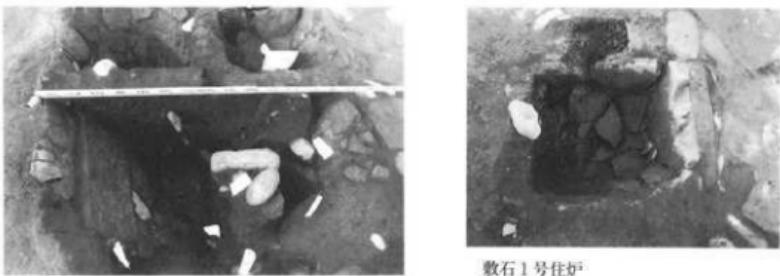
検出 E-2グリットにある。表土削平時に耕土直下に検出された。敷石2号住と接する。規模・形状 260cm四方に炉を中心にはり石がみられる。炉の南と東側は大きな土壙となり、土壙の法面には敷石から続きて板状砂岩が貼られている。貯蔵穴の可能性もあるが大規模でていねいなつくりである。住居の規模は一辺4mくらいにはなると推定されるがプランは不明。埋土 黒褐色か？ 床面・壁 敷石以外の床面は検出されない。炉 60cm四方の方形石窯炉、炉底に土器を敷く、焼土は見られない。柱穴 P<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>などがあるが判然としない。遺物 石錠1、磨石1、炉底の土器がある。時期 曾利V式期



敷石1号住居址



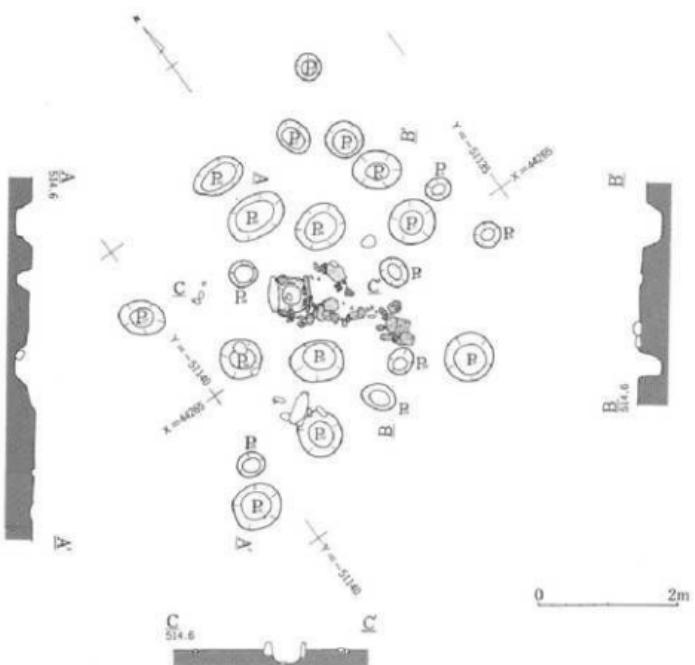
第22図 敷石1号住居址



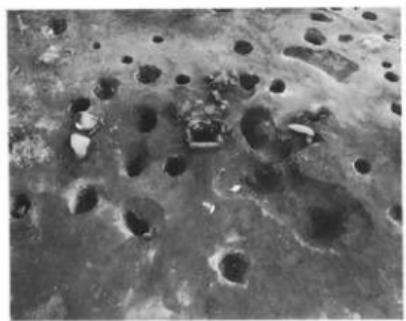
敷石1号住貯蔵穴

### 敷石2号住 (第23図)

検出 D-2グリットにある。敷石1号住と接する。規模・形状 判然としないが、径4mほどのプランか？ 埋土 黒褐色土 床面・壁 炉の東側にわずかに敷石が残る程度で床面ははっきりしない。炉 60cm四方の方形石窯炉だが破壊が激しい。焼土は炉底に残る。柱穴 P<sub>7</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>14</sub>、P<sub>16</sub>、P<sub>18</sub>などが主柱穴と推定される。遺物 凹石磨石2の他土器片がある。時期 中期末曾利V式期



第23図 敷石2号住居址



敷石2号住居址

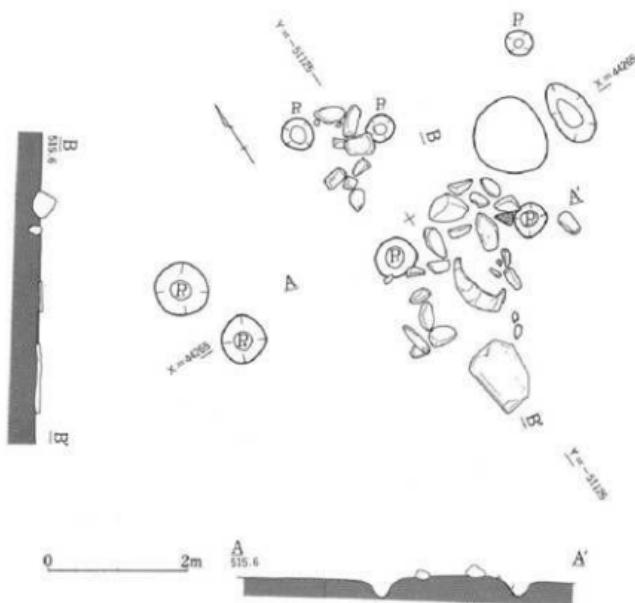


敷石2号住炉

敷石4号住 (第24図)

検出 E、F-3グリットにある。上部にはば円形に集石が見られた。住居廃絶時の儀式の存在が考えられる。中央を土層確認のトレンチに切られる。規模・形状 径5mほどの住居が考えられるが判然としない。埋土 不明 床面・壁 敷石がわずかに残るのみで判然としない。炉 60

cm四方の方形石圍炉だか破壊されている。焼土はない。柱穴 P<sub>1</sub>—P<sub>7</sub>があるが判然としない。遺物 石錐 2 の他、土器片 時期 曾利V式期



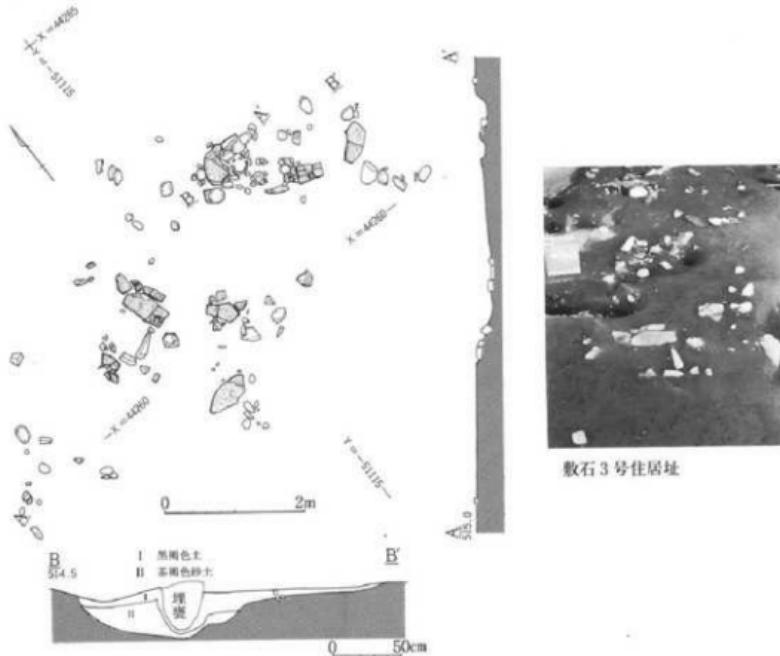
第24図 敷石 4号住居址



敷石 4号住居址

敷石 3 号住（第25図）

検出 F-3 グリットにある。規模・形状 径 5m ほどの円形プランか？主軸方向は N60° E と推定される。埋土 黒褐色砂質土。床面・壁 わずかに敷石が残るのみで床面は判然としない。炉 70×60cm ほどの方形石圓炉、焼土はない。柱穴 不明 遺物 埋甕の他特定できるものはない。時期 曾利V式期



第25図 敷石 3 号住居址



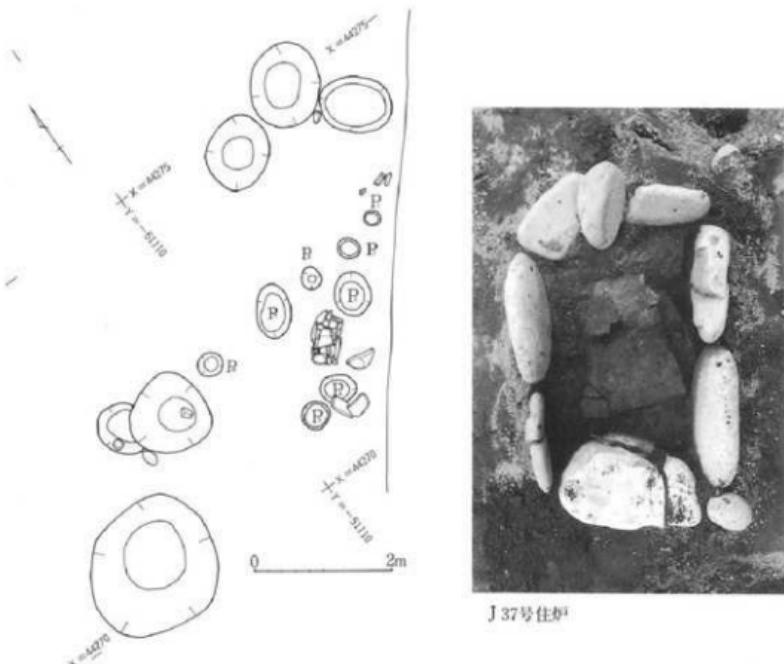
敷石 3 号住埋甕



敷石 3 号住埋甕断面

J 37号住（第26図）

検出 F-4、5グリットにある。炉の東側は調査区外にある。規模・形状 不明 埋土 黒褐色土 床面・壁 床面は黄褐色砂質土上にあるため判然としない。炉 80×40cmの方形石團炉、炉底に土器を敷く。柱穴 P<sub>1</sub>～P<sub>8</sub>がある。遺物 炉内土器の他に特定できる遺物はない。時期 曽利III式期



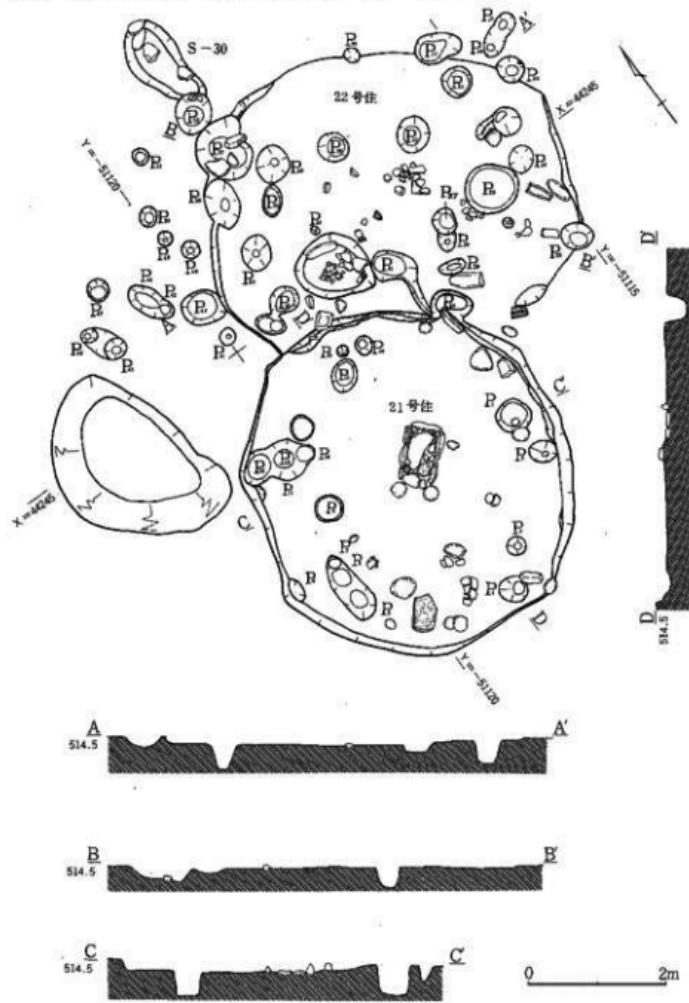
第26図 J 37号住居址

J 21号住（第27図）

検出 G-1グリットにある。J 22号住を切る。規模・形状 直径4.8mの円形プラン、主軸方向はN40°E 埋土 茶褐色砂質土。床面・壁 床面は地山の黄褐色砂質土上に築かれるが、全体に硬化面が見られ良好である。壁は7～10cmと残りはわずかだが急角度で立ち上がる。周溝は東壁から北へ2.5mほど残る。炉 60×100cmの大型方形石團炉、炉底にも全面に石が敷かれ、深さは10.5cmとかなり浅い。焼土はない。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>3</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>9</sub>、P<sub>14</sub>の5本が主柱穴と考えられる。遺物 床面から1個体の土器が出土している。時期 曽利田式期

J 22号住 (第27図)

検出 G-2 グリットにある。J 21号住に切られる。規模・形状 4.5m×5.2mの楕円形プラン。埋土 茶褐色土 床面・壁 床面は地山上に薬かれるが硬化面はなく判然としない。壁はほとんど残っていないが立ち上がりよりは急角度。炉 不明 柱穴 P<sub>21</sub>、P<sub>26</sub>、P<sub>32</sub>、P<sub>37</sub>が主柱穴か？ 遺物 凹石 1、柱穴から台付土器の台部。時期 曾利II式期



第27図 J 21、22号住居址



J 21号住居址



J 22号住居址



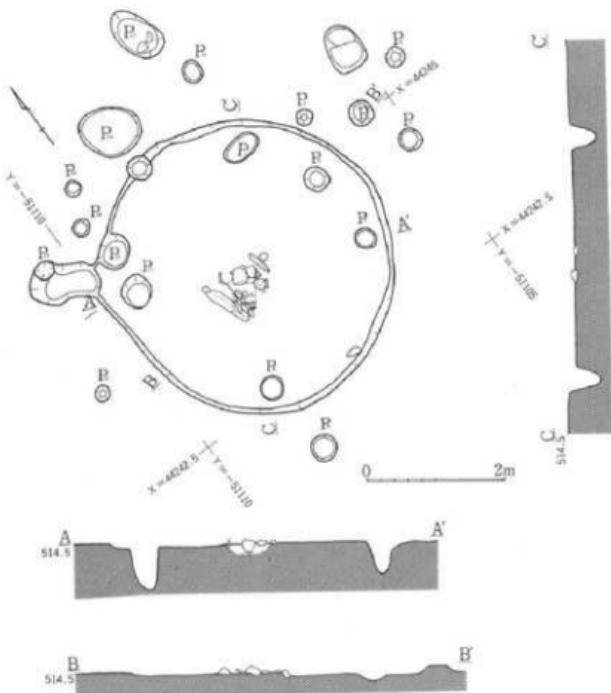
J 21号住出土土器



J 21号住出土土器



J 22号住出土土器



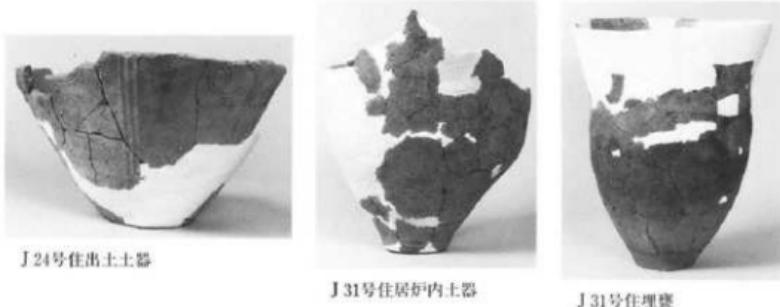
第28図 J 24号住居址



J 24号住居址

J 24号住（第28図）

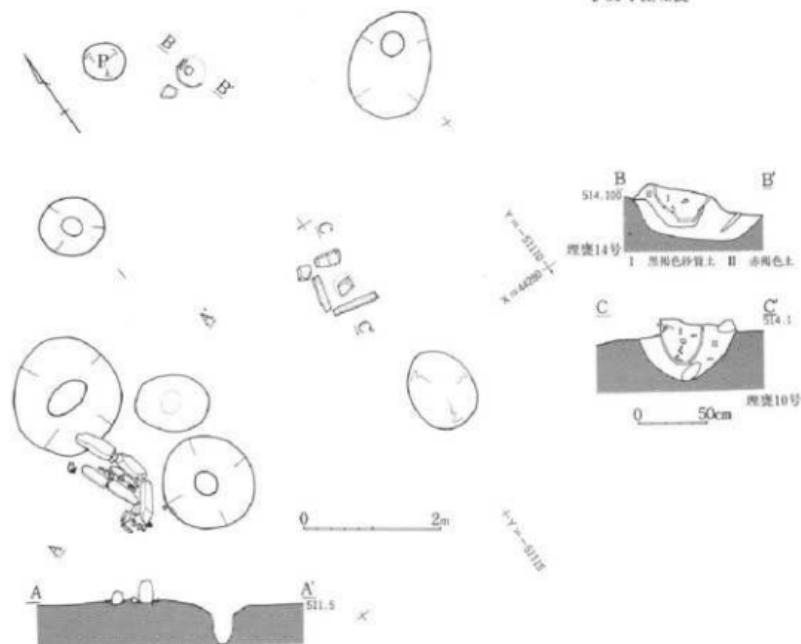
検出 H-2 グリットにある。規模・形状 直径4.2mの円形プラン。主軸方向はN 埋土 茶褐色土の単層 床面・壁 床面は地山を壊り込み築かれ、全体に硬化面がみられ良好。壁は6~25cmと比較的よく残り、立ち上がりは急角度である。炉 80×90cmの方形石圓炉であるが破却されている。焼土が充満しており、炉底には砂岩が敷かれる。49cmと深い。柱穴 P<sub>1</sub>, P<sub>7</sub>, P<sub>8</sub>, P<sub>11</sub> の4本主柱穴。遺物 炉内から土器が出土している。時期 曽利IV式期



J 24号住出土土器

J 31号住居炉内土器

J 31号住埋甕



第29図 J 31号住居址

#### J 31号住（第29図）

検出 E-5 グリットにある。遺構検出時に石圓埋甕がある住居址と考えた。整理段階で西に敷石住居か、柄鏡型住居址の柄の部分と考えられる列石もあり、あるいは別の住居の可能性もあるが詳しくは検討していない。規模・形状 不明 埋甕との距離が3mある。埋土 黒褐色砂質土。床面・壁 不明 炉 90×80cmの方形石圓埋甕、焼土はない。柱穴 不明 遺物 埋甕と埋甕がある。時期 曽利V式期



J 31号住炉

#### J 6号住（第30図）

検出 F-7 グリットにある。表土削平時にJ 7号住、J 58号住とともに炉が検出された。規模・形状 不明、埋甕が南側2mにある。埋土 黒褐色土 床面・壁 不明 炉 70×80cmの方形石圓炉だが破壊が激しい。焼土はない。柱穴 P<sub>3</sub>～P<sub>5</sub>がある。遺物 埋甕がある。時期 曽利IV式期

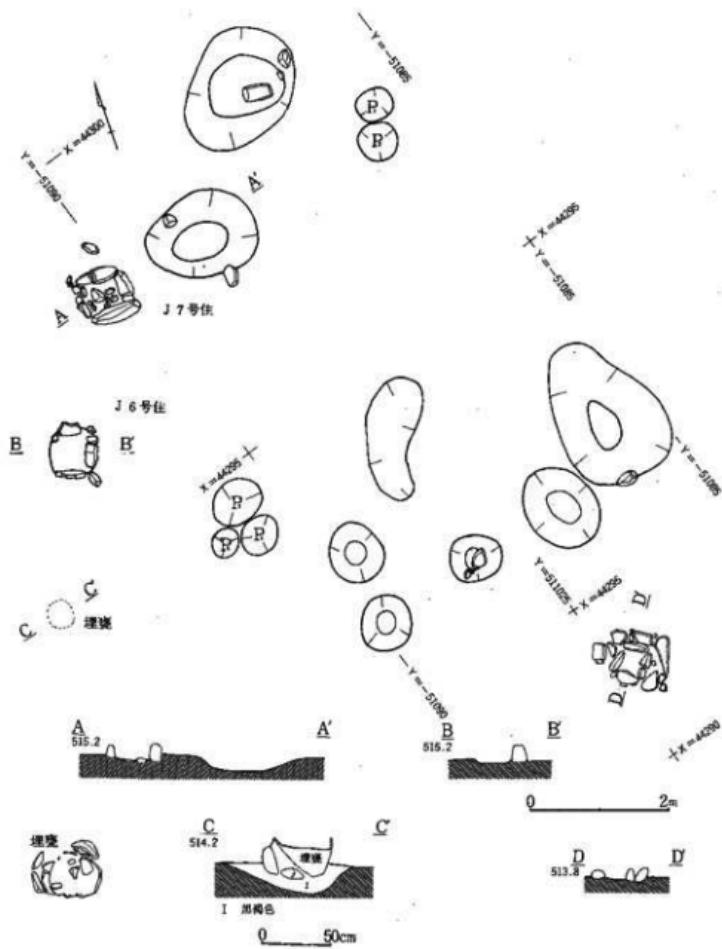
#### J 7号住（第30図）

検出 F-8 グリットにある。J 6号住に接する。規模・形状 不明 埋土 黒褐色砂質土 床面・壁 不明 炉 90×80cmの方形石圓炉、焼土はない。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>がある。遺物 特定されるものはない。時期 判然としないが、炉周辺の土器は曾利IV式期のものであるこの時期と思われる。

#### J 58号住（第30図）

検出 E、F-7 グリットにある。表土削平時に炉が露出したもの。H 7、9号住に切られる。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 不明 炉 120×80cmの二重の方形石圓炉、焼土はな

い。柱穴 不明 遺物 特定できるものはない。時期 炉周辺には中期末～後期の遺物が多く、判然としないが中期末と推定される。



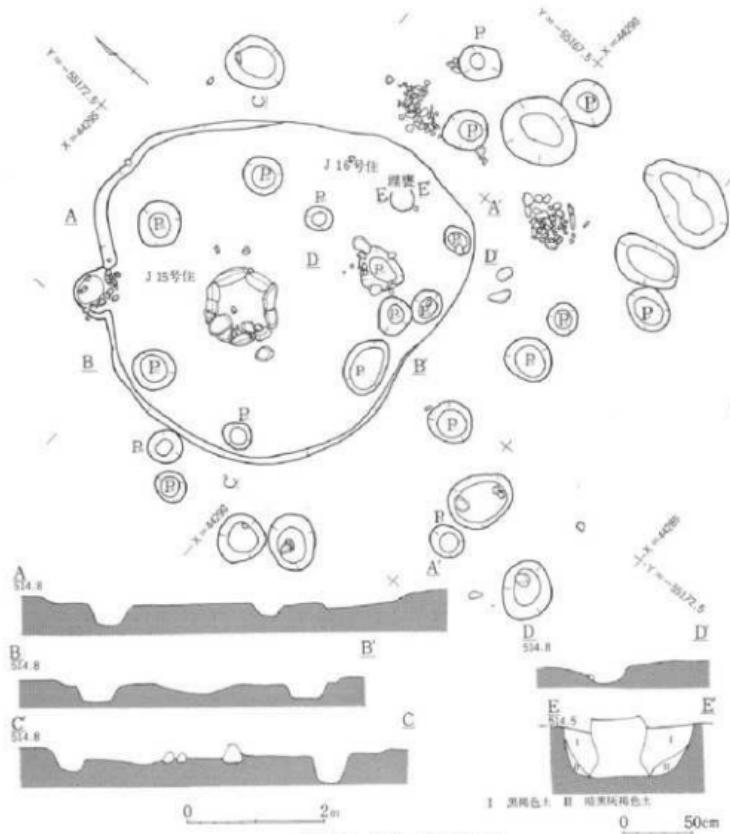
第30圖 J 6、7、58号住居址



J 6、7号住居址



J 6号住埋甕



第31圖 J 15、16号住居址

J 15号住（第31図）

検出 Z-2 グリットにある。J 16号住を切る。規模・形状 直径5mの隅丸方形に近い円形プラン、主軸方向はN70°W 埋土 黒褐色砂質土と茶褐色砂質土の2層に分層される。床面・壁 床面は地山の黄褐色砂質土に染かれるが軟弱で硬化面はみられない。壁はわずかに残り、立ち上がりは急角度。炉 一辺60cmほどの五角形石窯、焼土は見られない。柱穴 P<sub>11</sub>～P<sub>14</sub>, P<sub>18</sub>, P<sub>20</sub>の6本主柱穴。遺物 石鐵1、横刀形石器1、凹石磨石4と埋甕がある。時期 曽利田式期

J 16号住（第31図）

検出 Z-2 グリットにある。J 15号住に切られる。規模・形状 径4mほどの円形プランと推定される。主軸方向は不明。埋土 茶褐色砂質土 床面・壁 残っていない。炉 P<sub>18</sub>か炉であるがJ 15号の柱穴で破壊されている。わずかに炉石が残る。柱穴 P<sub>3</sub>, P<sub>6</sub>, P<sub>15</sub>, P<sub>20</sub>の4本主柱穴。遺物 四石5の他、土器がある。時期 曽利II式期



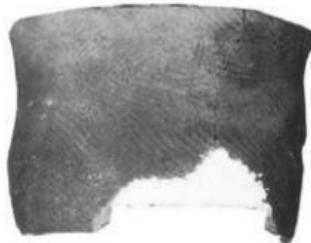
J 15号、16号住居址



J 15号住埋甕



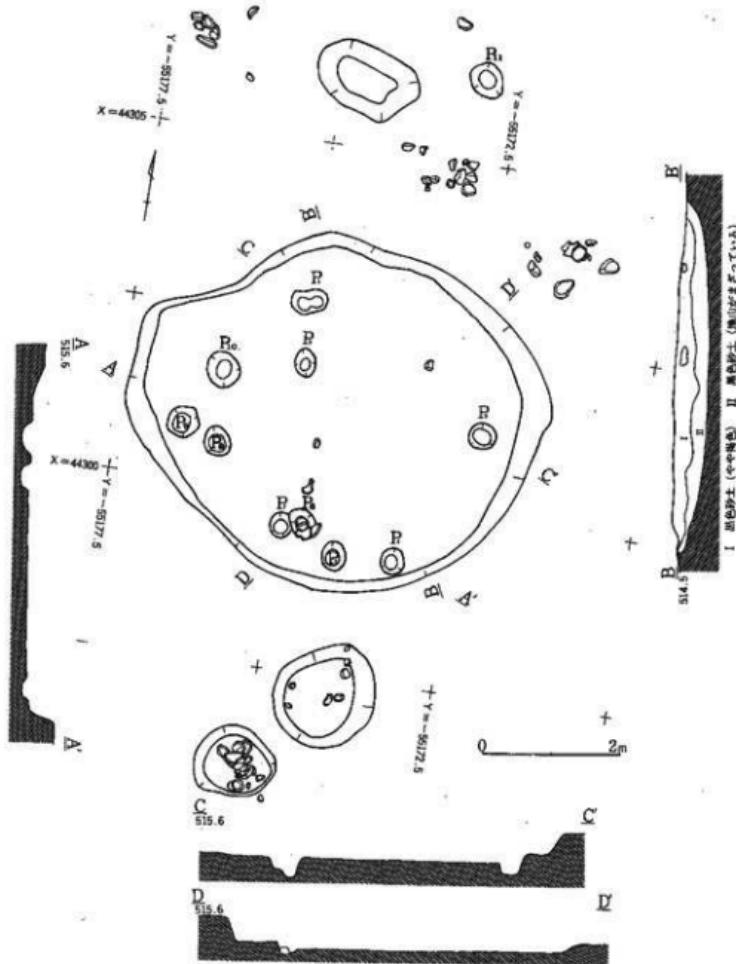
J 59号住居址



J 59号住出土土器

J 59号住（第32図）

検出 Y-3グリットにある。規模・形状 5m×6mの不整円形、主軸方向はN100° E 埋土 茶褐色砂質土が上層にあり、下層は黄褐色砂質土がかなり混じる。床面・壁 床面は地山を堀り込み築かれるが、砂層のため硬化面はない。壁は30cmほどで急角度で立ち上がる。炉 南壁寄りに埋甕があり、埋甕炉と推定されるが焼土は見られない。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>8</sub>の4本主柱穴 遺物 埋甕炉の他土器片が床面から出土している。時期 前期諸磯B式期



第32図 J 59号住居址



第33岡 敷石6、7号住居址

敷石 6 号住（第33図）

検出 A-3 グリットにある。敷石 7 号住に接する。住居址の大部分は道路の下になり調査不可能。J 17号と関係がある可能性もある。規模・形状 不明 埋土 黒褐色砂質土 床面・壁 敷石がわずかに残る程度で判然としない。炉 調査区外にあると推定される。柱穴 検出されない。遺物 敷石面から土器片が出土している。時期 後期前半堀ノ内式期

敷石 7 号住（第33図）

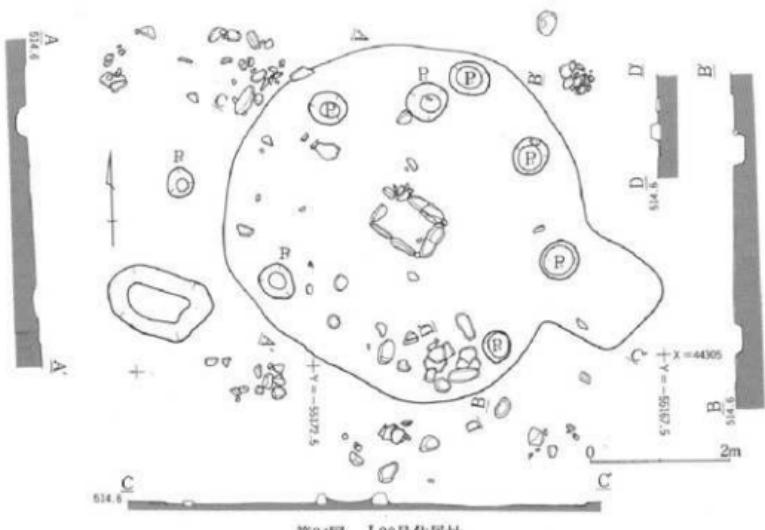
検出 A、Z-3、4 グリットにある。敷石 6 号住に接する。規模・形状 柄鏡形の敷石住居で鏡部分は直径 4m の円形プラン。1.8m×1.4m の柄がつく。柄部は若干高くなる。主軸方向は N100° E 埋土 黒褐色砂質土 床面・壁 板状砂岩を敷き床面としているが、がの西側は搅乱のためか残っていない。炉 60cm×80cm の方形石圓炉、焼土はない。柱穴 P<sub>2</sub>～P<sub>4</sub> が柱穴となる。遺物 打製石斧 1、剥片石器 2 の他床面から土器片が多く出土している。時期 後期前半堀ノ内式期



敷石 6 号住居址



敷石 7 号住居址



第34図 J 20号住居址



J 20号住出土土器

J 20号住出土土器

J 20号住出土土器

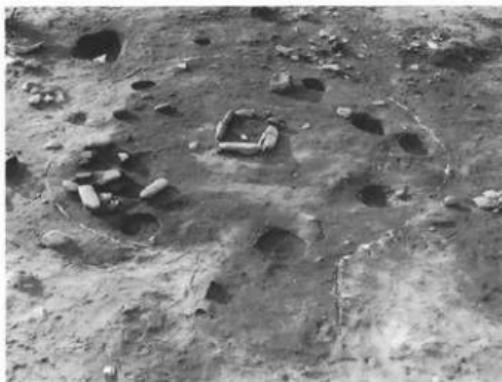
#### J 20号住 (第34図)

検出 Y-3、4グリットにあり、J 19号住と接する。住居址の床面上面には集石があり、中に多くの土器や石器が含まれており、いわゆる吹上バターン的な様相を呈す。集石下の床面上には全体にうっすらと焼土の層がみられ、焼失家屋もしくは住居廃絶時の祭祀を思わせる検出状況であった。規模・形状 柄鍑形の形状を呈す。鏡部分は直径3.8mの円形プラン。柄部は一辺1mほどの方形。埋土 上層に黒褐色土がわずかにみられ、全面に集石がみられ、その下面には焼土

や灰の混じる層が2~3cmの厚さで堆積している。床面・壁 床面は地山の黄褐色砂質土上に築かれるため硬化面はみられない。壁は残っていない。炉 80cm×60cmの方形石圍炉、炉内に焼土がわずか見られる。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>3</sub>~P<sub>5</sub>の6本主柱穴、遺物 上面の集石中に多い。石鏃3、打製石斧5、横刃形石器8、凹石磨石6、石皿2、磨製石斧1、石製円盤1、土器7個体以上がある。時期 曾利II式期



J 20号住上部集石



J 20号住居址

#### J 19号住 (第35図)

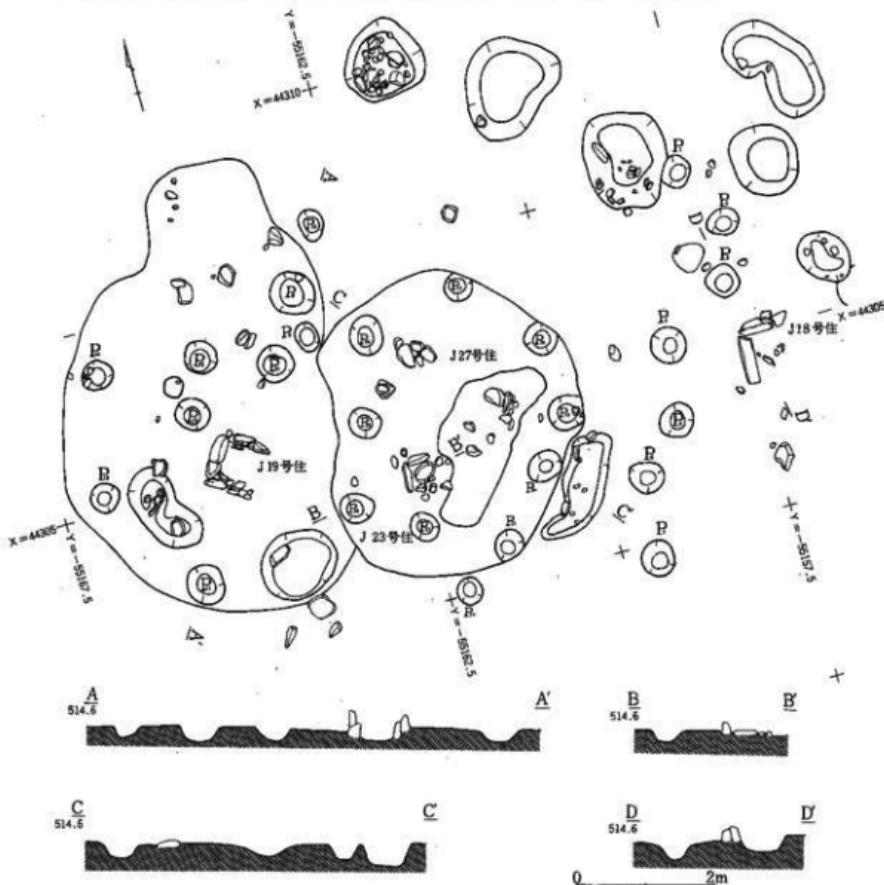
検出 Z-4 グリットにある。J 20号住に接する。J 23号住に切られる。規模・形状 直径3.5mほどの円形もしくは柄鏡形、主軸はN35°Eと思われる。埋土 暗茶褐色土 床面・壁 床面は地山の砂質土層に築かれているため硬化面は残っていない。炉 80cm四方の方形石圍炉、焼土

はない。柱穴 P<sub>8</sub>～P<sub>16</sub>, P<sub>24</sub>～P<sub>26</sub>がある。が判然としない。遺物 炉付近から土器がわずかに出土している。時期 曾利III式期

J 23号住 (第35図)

検出 Z-4 グリットにあり、J 19号住、J 27号住を切る。規模・形状 直径4.5mほどの円形プラン。主軸方向はN 埋土 暗茶褐色土 床面・壁 床面は地山の砂層の上に築かれるため軟弱。炉 50×60cmの方形石圈炉だが破壊が著しい。焼土は見られない。柱穴 P<sub>17</sub>～P<sub>26</sub>がある。

遺物 石錐1、打製石斧1、磨石1の他土器1個体分がある。時期 曾利V式期



第35図 J 18, 19, 23, 27号住居址

J 27号住（第35図）

検出 Z-4 グリットにあり、J 23号住に切られ、J 18号住に切られる。破壊が著しい。規模・形状 径5mほどの円形プランか？ 埋土 暗茶褐色砂質土 床面・壁 不明 炉 わずかに炉石が残るのみで詳細は不明 柱穴 不明 遺物 特定できるものはない。時期 重なり合う4軒の住居の中では最も古く、炉周辺からは新道式土器片が出土しているのでこの時期か？

J 18号住（第35図）

検出 Z-4 グリットにある。J 27号に接する。4軒のうちで最も上面にある。炉のみが残る。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 不明 炉 90cm四方の方形石開炉、焼土はない。柱穴 P<sub>1</sub>～P<sub>7</sub>がある。遺物 打製石斧1などの他特定できるものはない。時期 後期堀ノ内式土器片が炉周辺にみられるのでこの時期か？

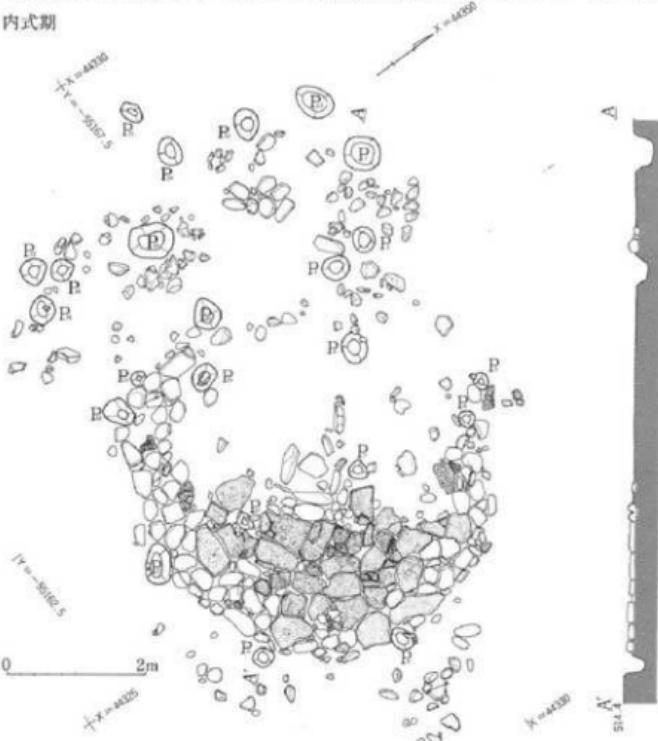


J 18, 19, 23, 27号住居址

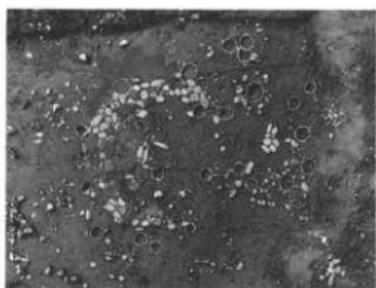
敷石5号住（第36図）

検出 X、Y-6 グリットにある。耕土直下に敷石が検出された。規模・形状 柄鏡形敷石住居址。直径5.8mの円形プランの住居部分に、幅1.6m、長さ1.7mの柄がつく。主軸方向はN140°E 埋土 黒褐色砂質土 床面・壁 当初は全面に敷石があったと推定されるが、炉の西側から柄部にかけては、石の残りはまばらである。炉の東側は、板状砂岩を敷きつめ、すき間には小石をつめて、ていねいなつくりである。炉 住居のはば中央に位置する。80cm四方の方形石開炉であるが破壊が著しい。炉底には若干焼土が残る。柱穴 P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>8</sub>、P<sub>9</sub>、P<sub>11</sub>、P<sub>12</sub>、

P<sub>13</sub>があり住居部分は6本主柱穴で、柄部に2本の柱穴となる。遺物 床面付近から、打製石斧6、横刃形石器1、凹石磨石5、石錐1の他に後期土器片が多量に出土している。時期 後期前半縄文式期



第36図 敷石5号住居址



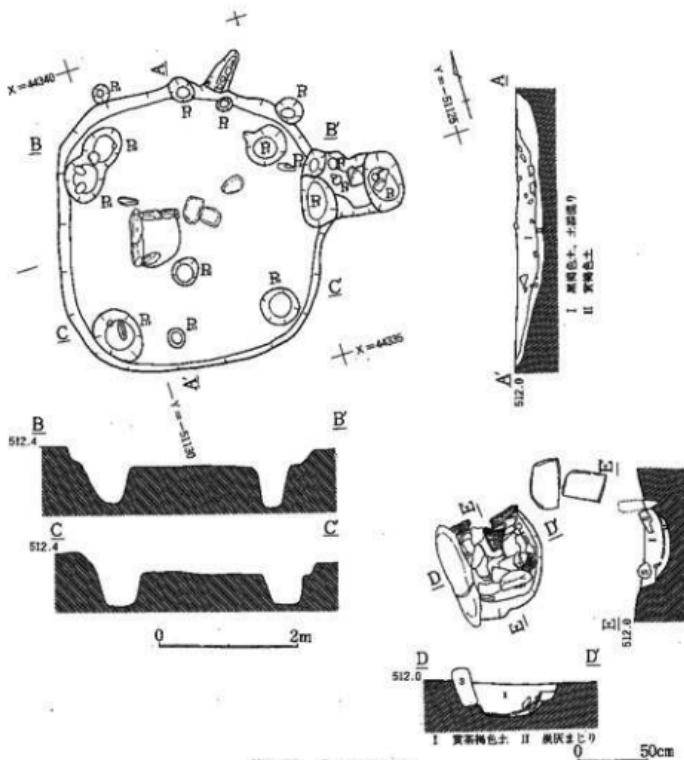
敷石5号住居址



敷石5号住居柄部出土土器

J 44号住（第37図）

検出 第2次調査で、Z、A-8、9グリットで検出された。東壁の一部を土壙に切られる。J 45号住、J 56号住が上部にある。規模・形状 4m四方の隅丸正方形となる。主軸方向はN55°W 埋土 2層に分層され、上層は黒褐色土、下層は床面直上の暗黃褐色粘質土 床面・壁 床面は地山の黄褐色粘土層上に築かれており、全体に硬化面がみられ極めて良好である。壁は地山がやや傾斜するため、南壁12cm、北壁34cmと差があるが、いずれも垂直に近い急な立ち上がりをみせる。炉 中部や西壁（奥壁）寄りに築かれた方形石圓炉で70cm四方の正方形を呈す。石圓いの石の南側と東側が抜かれて、炉紐の東側に置かれている。炉内は深鉢の半分ほどが底一杯に敷かれており、土器敷の下に炭、灰混じりの土、その下が2~3cmの焼土層となる。柱穴 4本 主柱穴、P<sub>4</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>13</sub>、P<sub>15</sub>が該当する。柱穴はいずれも深く堀り込まれ、下に礫が入るものがある。遺物 P<sub>14</sub>より⑤が横倒しで、P<sub>10</sub>の脇には④が逆位直立で出土したほか、覆土中から、打製石斧2、横刃形石器2、凹石磨石3が出土している。時期 中期後葉曾利II式期



第37図 J 44号住址



J 44号住居址



J 44号住炉



J 44号住炉内土器



④ J 44号住床面出土土器



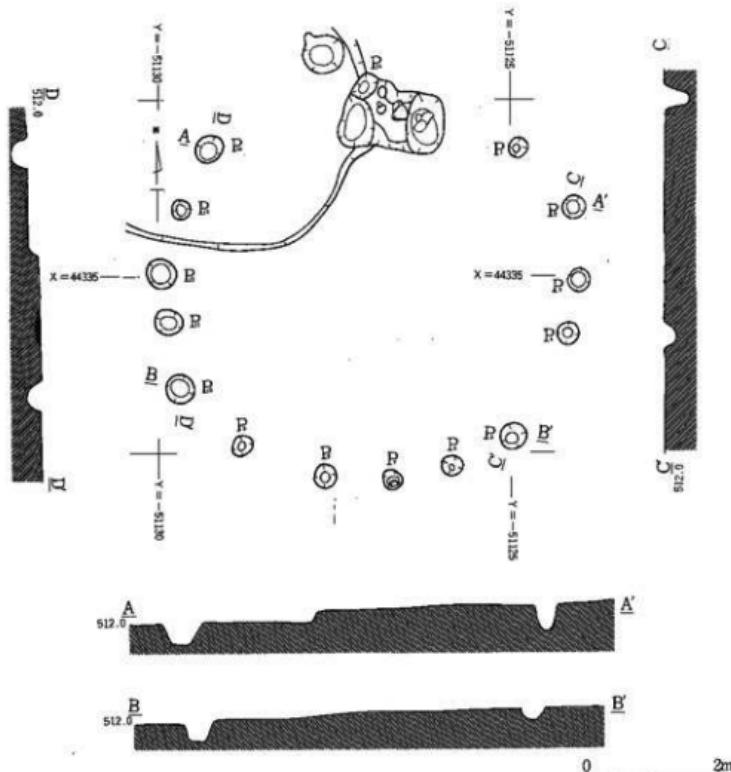
J 44号住P14土器出土状况



⑤ J 44号住P14出土土器

J 56号住（第38図）

検出 A-8、9グリットにある。J 44号住検出中に、住居址中にピットがあり、さらに住居址外に円形に並んだため円形柱穴列としたが、整理段階になり住居址と考え J 56号住とした。規模・形状 直径 6 m の円形に柱穴が並ぶため、径 6 m の円形プランと思われる。埋土 柱穴列を検出した地山より 20 cm ほど上面に一面の集石が見られた。この集石の下面に床面があると思われる。J 44号住東壁の土壠の上面には大きな砂岩の祭壇状の遺構があり焼土もみられた。床面・壁 不明 炉 上面の集石中に若干焼土がみられた。炉に伴うものと思われる。柱穴 円形に 14ヶ所の柱穴が並ぶ。遺物 集石中には非常に多くの中期の土器片が出土しているが、後葉各期にわたる土器、石器が出土している。時期 床面がつかめないため不明であるが J 44号住の上面にあることから中期後葉曾利III式期以降



第38図 J 56号住居址



第39図 A-8、9 グリット集石



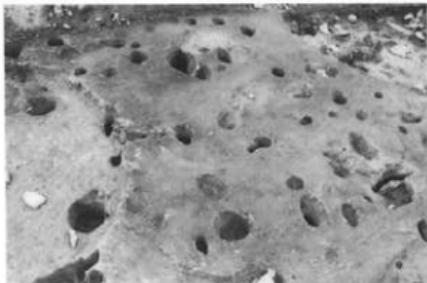
A-8, 9 グリット集石

J 45号住（第40図）

検出 A、Z-9 グリットにある。遺構検出時に焼土が見つかり、周間に柱穴らしいピットもあり住居址と判断した。J 44号住、41号住の上に貼床しているものと思われる。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 床面は炉を中心にわずかに硬化面らしきものが残る。炉 地床炉と考えられ、わずかに2~3cmの堀り込みがある。柱穴 ピットは8本あるが柱穴は不明 遺物 加曾利EIV式の土器片が床面から出土している。時期 曾利IVないしV期

J 39号住（第40図）

検出 Z、A-9 グリットにある。北壁を土塙に切られる。東側半分は住宅の下となり調査できなかった。規模・形状 直径4mの円形プランと推定される。主軸方向はN15°Wと推定される。埋土 3層に大別できる。埋土は概ね自然堆積を示している。最も上面に堀り込みがあり、若干の焼土らしいものがあったが、住居址としては把握できなかった。床面・壁 床面は地山の黄褐色粘質土上に築かれ、良好な硬化面をもつ。壁は23~40cmと堀り込みは深く立ち上がりは急角度である。炉 中央の奥壁寄りにある。80×90cmの方形の石圓炉、板状砂岩を使用し間に小礫をつめている。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>6</sub>が柱穴と思われる。遺物 覆土中から多くの遺物が出土している。石鎌10、スクレイバー3、打製石斧4、石錐3、凹石・磨石2などがある。時期 炉から出土した土器片から、曾利IV式期



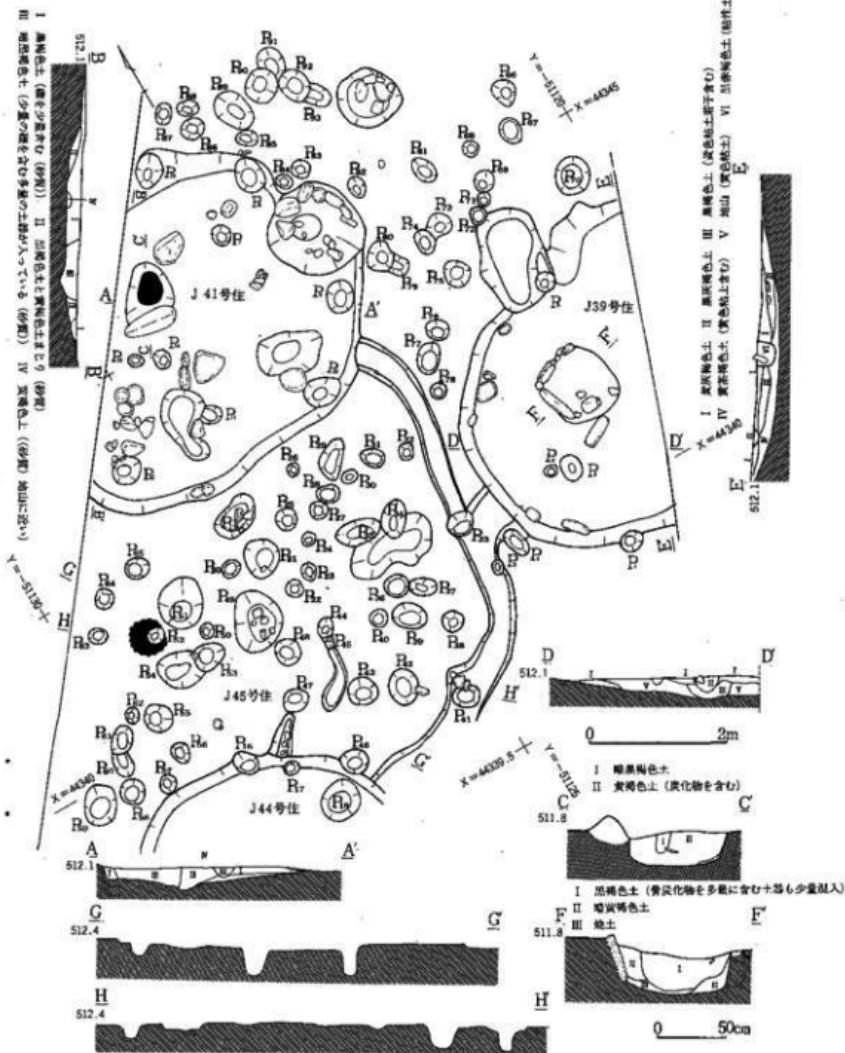
J 45号住居址



J 45号住出土土器



J 39号住居址



第40図 J 39、41、45号住居址

#### J 41号住（第40図）

検出 A-9グリットにある。東壁を配石を伴う土壙が切る。規模・形状 直径4.8mほどの円形プランと推定される。主軸方向はN40°Eと推定される。埋土 住居の廃絶後の堆積は1層であるが、後に土壙の堀り込みがある。床面・壁 床面は地山堀り込んで築かれている。凹凸が多く、部分的に敷石が見られる。壁は5~40cmと残存状況が異なる。炉 ほぼ中央にある。75×70cmの方形石圓炉であるが、三方の石が抜かれている。炉床に焼土と集石が見られる。柱穴 P<sub>8</sub>、P<sub>9</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>16</sub>が主柱穴と考えられる。6本柱が建て替えの可能性もある。遺物 石錐2、打製石斧2、四石磨石10、石皿2、石錐3、石棒1などの石器のほか、土器片多数。時期 中期中葉藤内II式期の土器片と曾利IV式期の遺物があることから2軒の可能性もある。



J 41号住居址



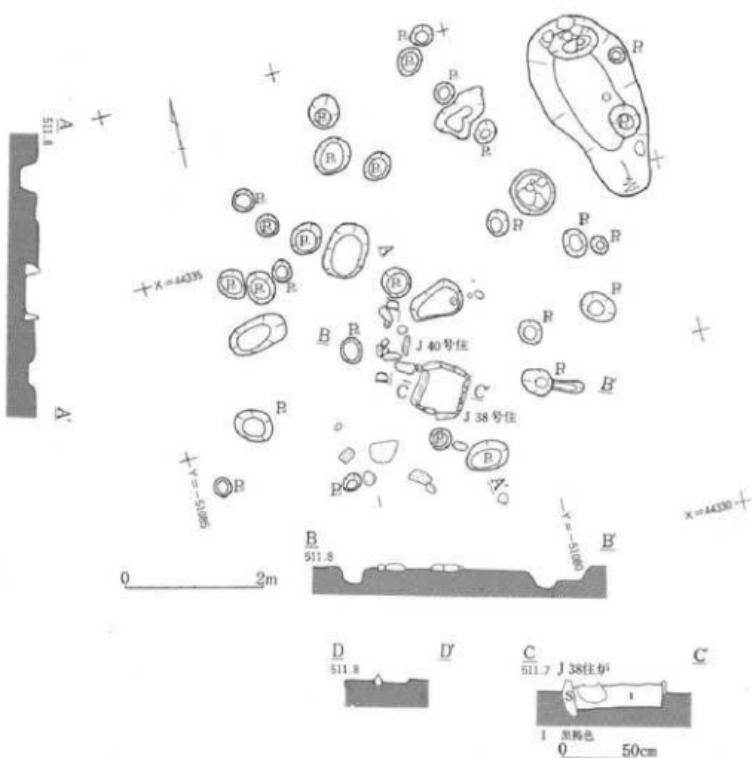
J 41号住出土土器

#### J 38号住（第41図）

検出 E-11グリットにある。下層にJ 40号住があり、敷石9号住と接する。規模・形状 プラン、規模ともに不明。径5mくらいの円形か？ 埋土 耕土直下に炉を検出したため不明 床面・壁 床面は茶褐色土上に築かれれる。炉の周辺にわずかに硬化面が残る。壁は不明。炉 60×70cmの方形石圓炉で、焼土が炉底にわずかに残る。柱穴 P<sub>8</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>14</sub>、P<sub>19</sub>と推定するが不明。遺物 炉内から土器片が検出され、床面に磨石、作業台らしい砂岩 時期 曾利III式期

#### J 40号住（第41図）

検出 E-11グリットにある。上面にJ 38号住がある。敷石9号住と接する。J 38号住の床面を堀り下げたところ炉が検出された。規模・形状 不明 埋土 J 38号住床面下5cmほどで床面か？覆土は暗褐色土。床面・壁 黄褐色砂質土上にある。軟弱で硬化面はみられない。炉 位置は不明。正方形の石圓炉 柱穴 P<sub>8</sub>、P<sub>11</sub>、P<sub>14</sub>、P<sub>20</sub>が主柱穴と推定される。遺物 ピットから磨製石斧 時期 床面上の土器から曾利II式期か



第41图 J 38、40号住居址



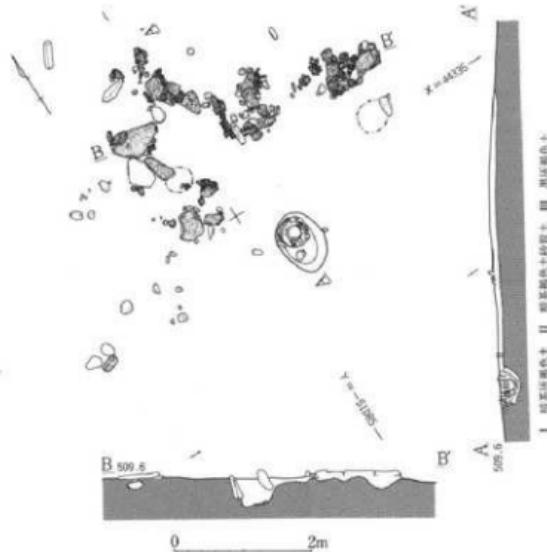
J 38号住、40号住居址



J 38号住、炉内土器

敷石 9号住（第42図）

検出 E-11グリットにある。下面にJ47号住、J55号住がある。J38、J40号住に接する。  
 規模・形状 耕作による破壊が著しくわずかに敷石が残るのみで不明。主軸方向はN35°Eと推定される。埋土 敷石面まで耕土。床面・壁 ところどころに敷石が残るのみ 炉 方形石圓炉  
 だが破壊が著しい。柱穴 敷石面では検出されない。遺物 敷石面で2重の埋甕を検出、打製石斧1がある。時期 埋甕から曾利田式期



第42図 敷石 9号住居址



敷石 9号住居址



敷石 9号住居址



敷石 9 号住埋甕出土状況



敷石 9 号住埋甕（外）



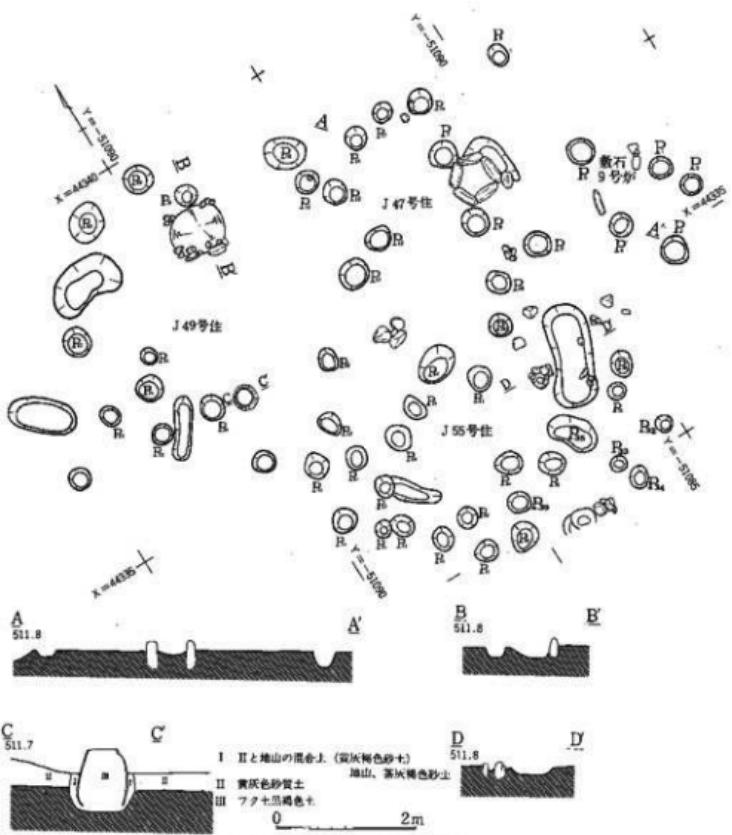
敷石 9 号住埋甕（内）



敷石 9 号住炉内出土土器



敷石 9 号住敷石に残る打底



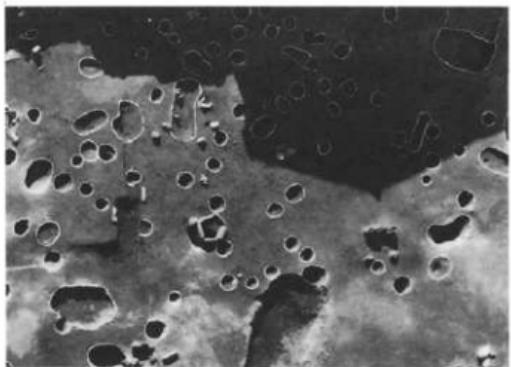
第43図 J 47、49、55号住居址

#### J 47号住 (第43図)

検出 D-11グリットにある。敷石9号住の下面にあり、J 49号住と接する。規模・形状 不明 埋土 黒褐色土砂質土 床面・壁 床面は地山上と思われるが軟弱で硬化面はない。炉 1 迂が30cm前後の五角形石囲炉、焼土は検出されない。柱穴 P<sub>6</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>16</sub>が主柱穴と推定される。遺物 床面上に土器片がわずかにある。床面・壁 曽利II式期

#### J 55号住 (第43図)

検出 D-11グリットにある。上面に敷石9号住があり、J 47号住に切られる。規模・形状 不明 埋土 茶褐色土がわずかにみられた。床面・壁 床面は地山上に築かれているが軟弱で硬化面はみられない。炉 20×25cmの方形石囲炉で焼土は検出されない。柱穴 P<sub>10</sub>、P<sub>30</sub>、P<sub>36</sub>、P<sub>44</sub>



J 38、40、47、49、55号住居址



J 49号住埋甕

と推定される。遺物 なし、土器片も時期のわかるものはない。時 不明、炉の形状を考えると中期中葉?

#### J 49号住 (第43図)

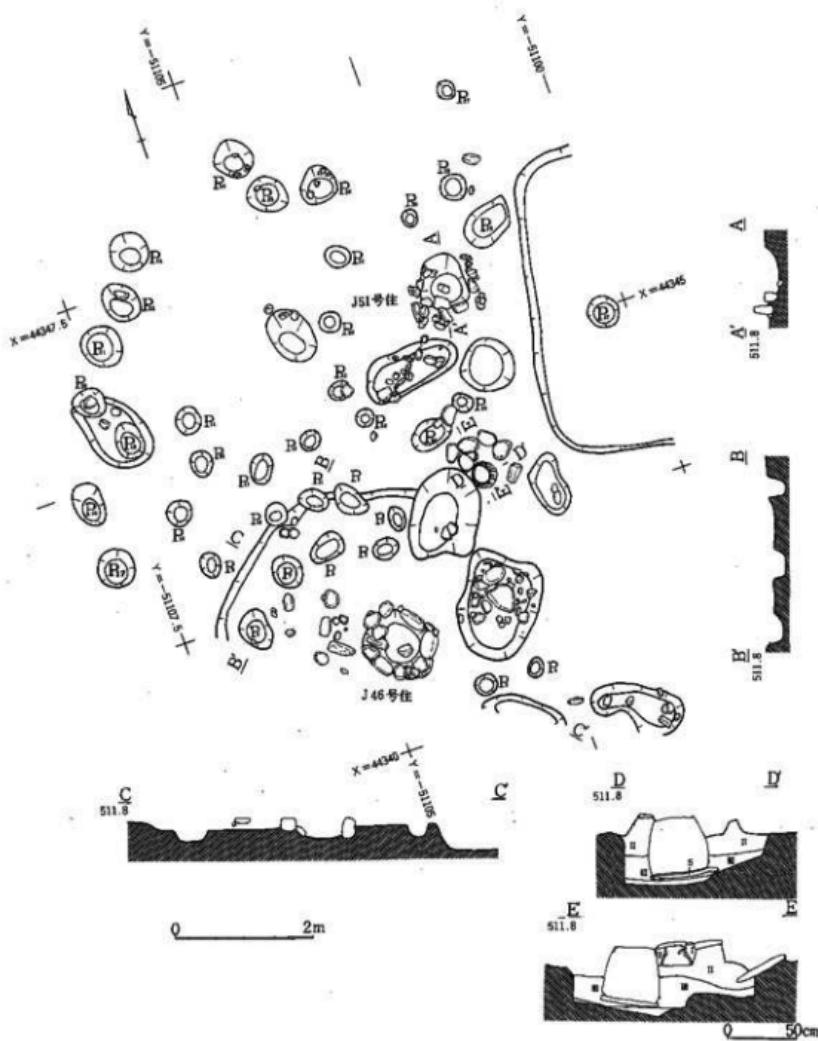
検出 D-11グリットにある。J 47号住と切り合う。規模・形状 不明だが、直径5mくらいの円形もしくは隅丸方形と推定される。主軸方向はN35°Eと推定される。埋土 黒褐色土がわずかにみられた。床面・壁 床面は残っていない。炉 70cm四方の方形石圓炉だが、炉石は一辺が残るのみ。柱穴 P<sub>14</sub>、P<sub>33</sub>、P<sub>23</sub>、P<sub>25</sub>が柱穴と推定される。遺物 埋甕が炉の南にある。時期 埋甕から曾利IV式期

#### J 46号住 (第44図)

検出 B、C-10グリットにある。J 51号住を切る。南半分は住宅の下で調査できない。規模・形状 直径5mくらいの円形と推定されるが北壁部分は一段高くなり平石が並び柄鏡形となると思われる。埋土 黒褐色土がみられた。床面・壁 床面は地山上と思われるが軟弱である。炉の周辺に敷石がみられる。炉 位置はほぼ中央と思われる。80~75cmの大型石圓炉で方形。炉石は整然とし、かなり火を受けている。柱穴 P<sub>3</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>6</sub>を主柱穴と考える。遺物 張出部の敷石下に埋甕大小2 時期 曾利III式期

#### J 51号住 (第44図)

検出 B-11グリットにある。H10号住に東側の大部分を切られ、南側はJ 46号に切られる。耕作による破壊が著しい。規模・形状 径4~5mほどの円形か? 埋土 不明 床面・壁 床面は残っていない。炉 80cm四方の方形石圓炉と思われるが破壊が著しい。柱穴 P<sub>25</sub>、P<sub>26</sub>、P<sub>33</sub>、P<sub>35</sub>と推定される。遺物 土器片が炉の周辺から出土している。時期 曾利II式~曾利III式期



I 暗褐色土 II 黄褐色砂土 III 明黄褐色砂土 (地山にIIの砂土混入)

第44図 J 46、51号住居址



J 46号住居址



J 46号住埋甕



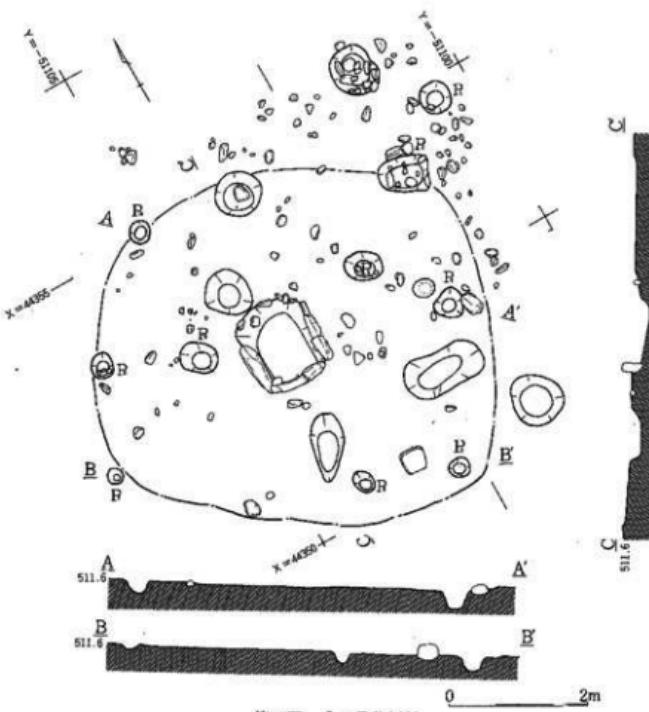
J 46号住埋甕出土状况



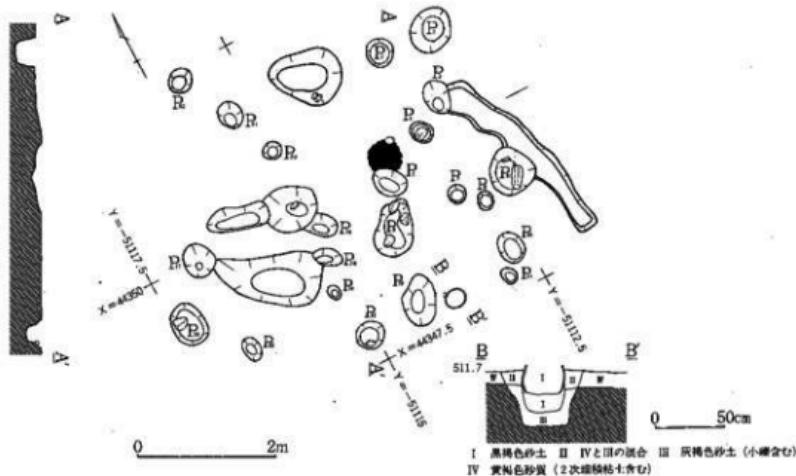
J 46号住埋甕



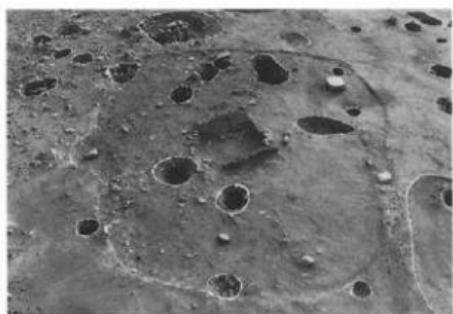
J 51号住居址



第45図 J 43号住居址



第46図 J 48号住居址



J 43号住居址



J 43号住埋甕



J 48号住居址

J 43号住（第45図）

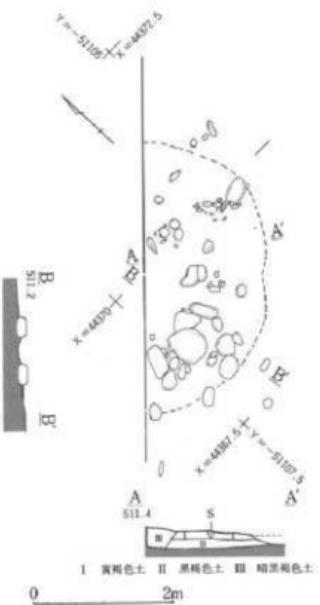
検出 B-11グリットにある。耕土直下のため破壊が激しい。規模・形状 不明だが、5m四方ほどの隅丸方形と推定される。主軸方向はNは推定される。埋土 不明 床面・壁 残っていない。炉 110×105cmの大型方形石圍炉。焼土は残っていない。柱穴 P<sub>4</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>9</sub>を主柱穴と考える。遺物 四石、打製石斧、埋甕が東壁方向にあり、南壁近くに作業台らしい平石あり。時期 曽利田式期



J 48号住埋甕出土状況

J 48号住（第46図）

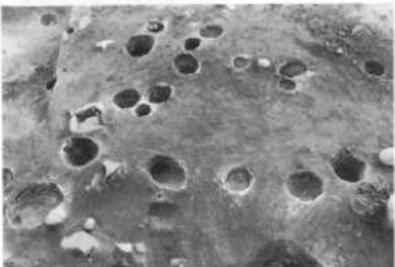
検出 A-10グリットにある。表土削平時に埋甕が検出され、付近に焼土がみられたため住居址とした。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 残っていない。炉 破壊が激しく焼けた砂岩と焼土がわずかに残る。柱穴 P<sub>2</sub>、P<sub>10</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>21</sub>と推定される。遺物 埋甕が炉から南へ2mほどのところにある。時期 曽利III式期



第47図 数石10号住居址



数石10号住埋甕出土状況



J 42号住居址



J 50号住炉址



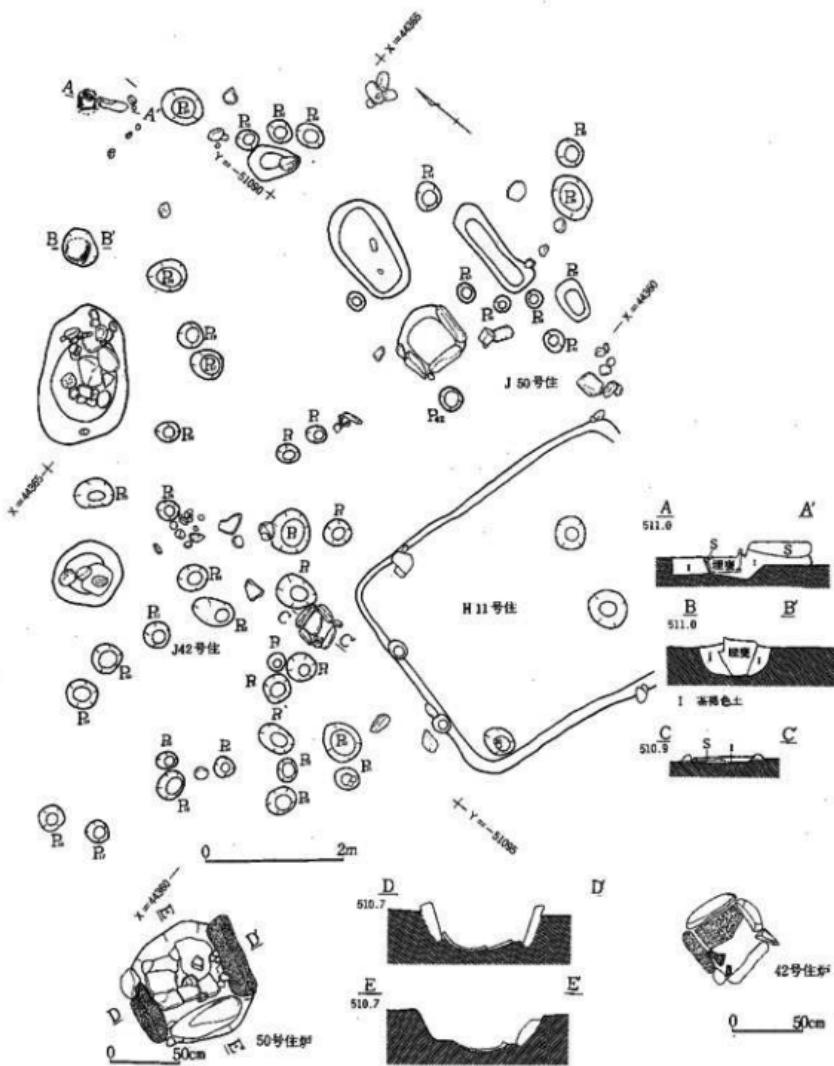
J 50号住炉内土器

#### 数石10号住（第47図）

検出 A、Z-12グリットにある。ほとんどは調査区域外にある。規模・形状 不明、4mほどの円形か？ 埋土 耕土直下で不明 床面・壁 直径4mほどの円形に平石の敷石と床面がところどころに残る。炉 調査区外にあると思われる。柱穴 検出されない。遺物 埋甕がある。

時期 埋甕は無文であるが、後期前半と思われる。

#### J 42号住（第48図）



第48図 J 42、50号住居址

検出 B-12、13グリットにある。H11号住居址に切られる。J50号住と接する。規模・形状不明 埋土 黒褐色砂質土。床面・壁 床面は軟弱で硬化面はみられない。炉 50cm×40cmの方形石囲炉、内部は半分ほど石を敷く、ごく浅い炉である。焼土はみられない。柱穴 P<sub>4</sub>、P<sub>9</sub>、P<sub>22</sub>が主柱穴か？ 遺物 床面近くから土器片多く出る。時期 後期前半堀ノ内式土器片が床面から出ていることから後期初頭～後期前半

#### J50号住（第48図）

検出 B、C-13グリットにある。H11号住に南側を切られる。J42号住と接する。規模・形状 不明 埋土 茶褐色土の単層。床面・壁 床面は軟弱で残っていない。壁は検出できなかつた。炉 80cm四方の方形石囲炉で内側に土器を敷いてある。焼土は見られないが、土器の下はかなり硬化している。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>14</sub>、P<sub>20</sub>、P<sub>41</sub>がある。遺物 炉内の土器の他に目ぼしいものはない。時期 曾利IV式期

#### J52号住（第49図）

検出 J-14グリットにある。調査区域の最も北に位置する。北側は調査できなかつた。規模・形状 不明だが径3～4mほどの円形か？ 埋土 暗黒褐色土の単層 床面・壁 床は地山の砂礫層上にあるため残っていない。炉 平たい小砾を多用したほぼ円形の直径50cmほどの石囲炉、焼土は見られず、炉内は真黒な土が入っていた。柱穴 P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>がある。遺物 炉周辺に後期堀ノ内式土器片が散乱していた。時期 後期前半堀ノ内式期

#### J57号住（第50図）

検出 O-13グリットにある。平安時代掘立建物址と切りあう。規模・形状 不明 埋土 茶褐色土 床面・壁 残っていない。炉 埋甕炉と思われるが石も残るので石囲埋甕炉か？ 柱穴 P<sub>2</sub>、P<sub>6</sub>、P<sub>8</sub>がある。遺物 埋甕炉の土器がある。時期 中期末

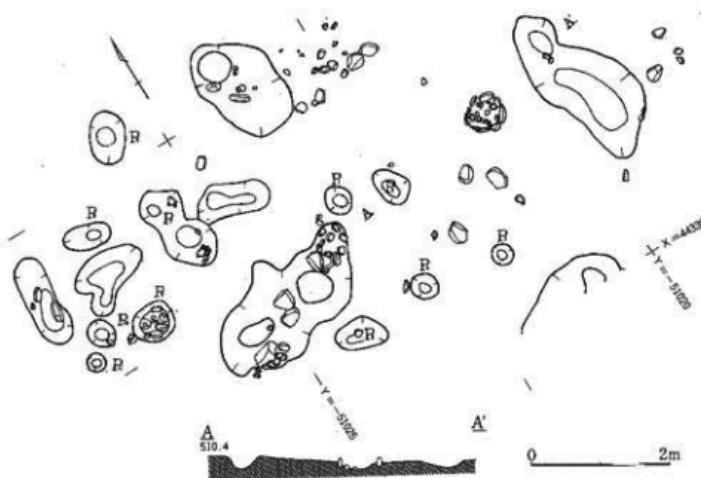
#### J53号住（第51図）

検出 Q-13グリットにある。表土削平中に石囲炉を検出したため住居址とした。規模・形状 不明 埋土 不明 床面・壁 不明 炉 50×60cmの方形石囲炉で内側に土器を一面に敷く。土器の下に粘土を貼り、固めている。柱穴 なし 遺物 炉内の土器 時期 曾利III式期

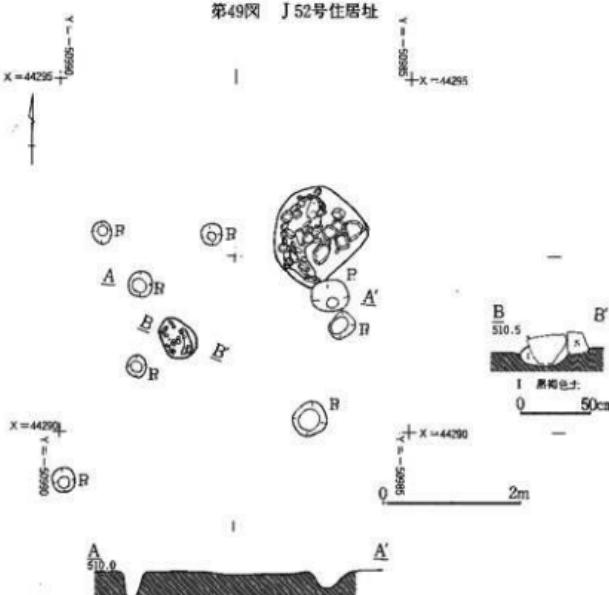
#### J54号住（第51図）

検出 Q-12、13グリットにある。表土削平中に石囲炉を検出し、住居址とする。規模・形状 不明 埋土 黒褐色土 床面・壁 残っていない。炉 45cm四方の方形石囲炉で中に埋甕入る。炉は50cm四方の土壙を堀り、底に砂岩を敷き、上に土器を入れ周囲を石で囲うていねいなつくりで

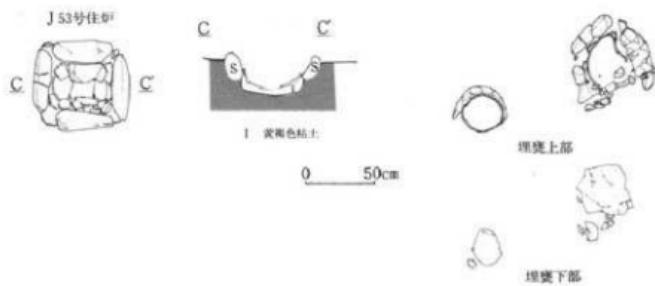
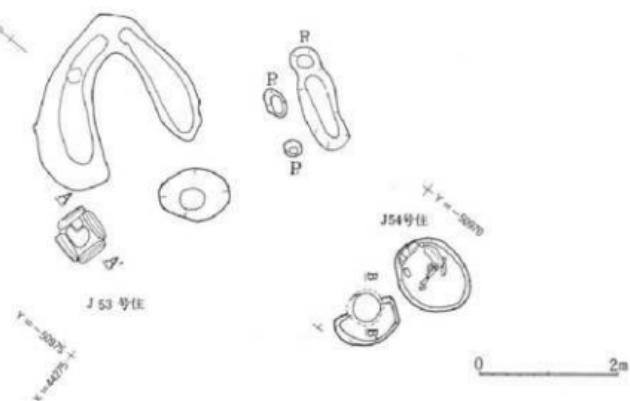
ある石は小礫を用いている。柱穴 検出されない。遺物 炉内土器及び蓋石のついた埋甕が東西にある。時期 曾利IV式期



第49図 J 52号住居址



第50図 J 57号住居址



第51圖 J 53、54號住居址



53号住炉址



J 54号住炉址



J 54号住埋甕出土状况



J 54号住埋甕



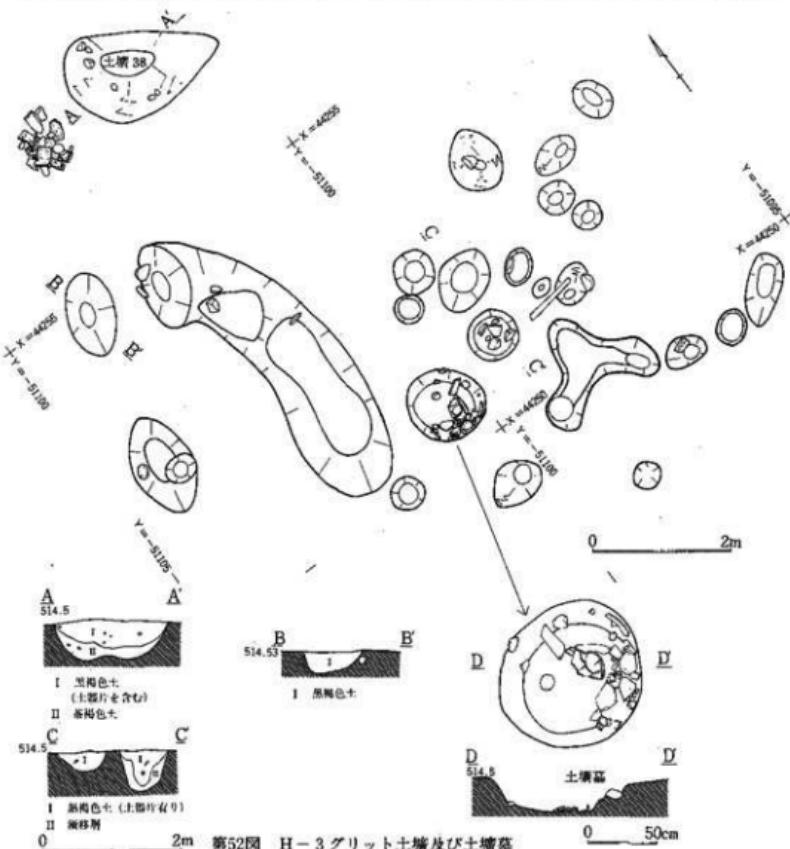
J 54号住埋甕

(2) 土 壤 (第52図～第60図)

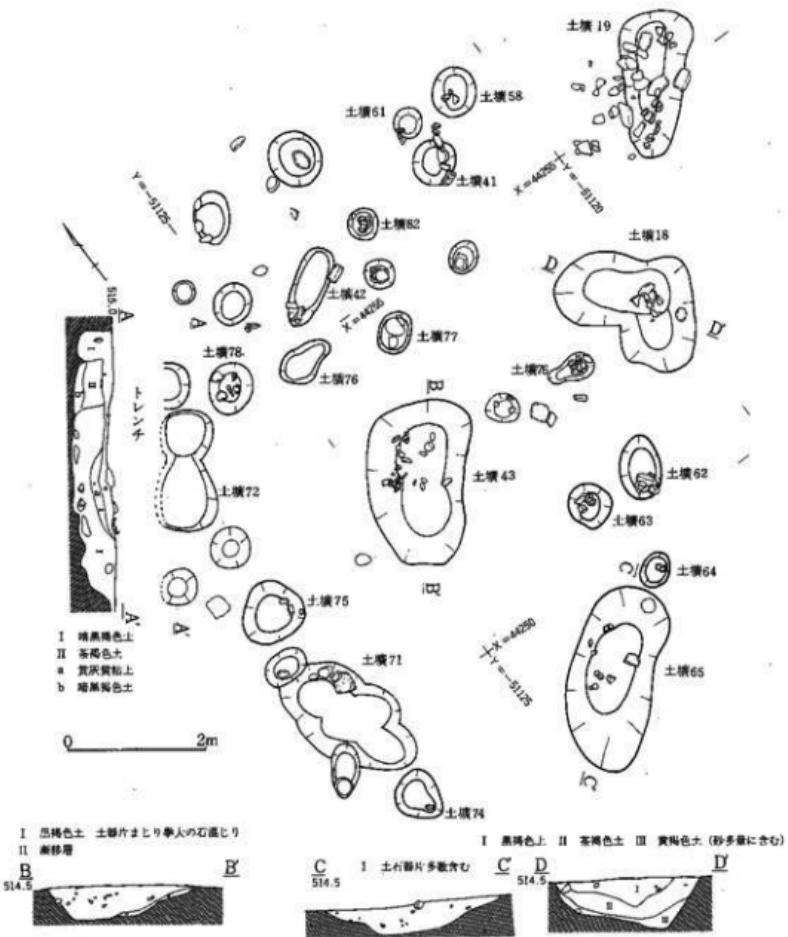
調査区の全域から非常に多くの土壌が検出されているが、未だ未整理で報告できる状況にないが、一部整理のできた、F～H～1～3グリットの土壌群と、特徴的な遺物の出土した土壌の一部を掲載する。

第52図～56図はF～H～1～3グリットの土壌群で、土壌15のように、底と中層に土器敷のある明らかに土壌墓の要素を持つ後期堀ノ内期の土壌や、土壌57のような石敷きの土壌などある。時期的には中期後半～後期前半が多い。後期の土器が出土する土壌は、明らかに土壌墓と考えられる状況を示している。

第60図は長さ110cmの大石棒が出土した土壌である。石棒は土壌の中に倒れ込むように頭部を下



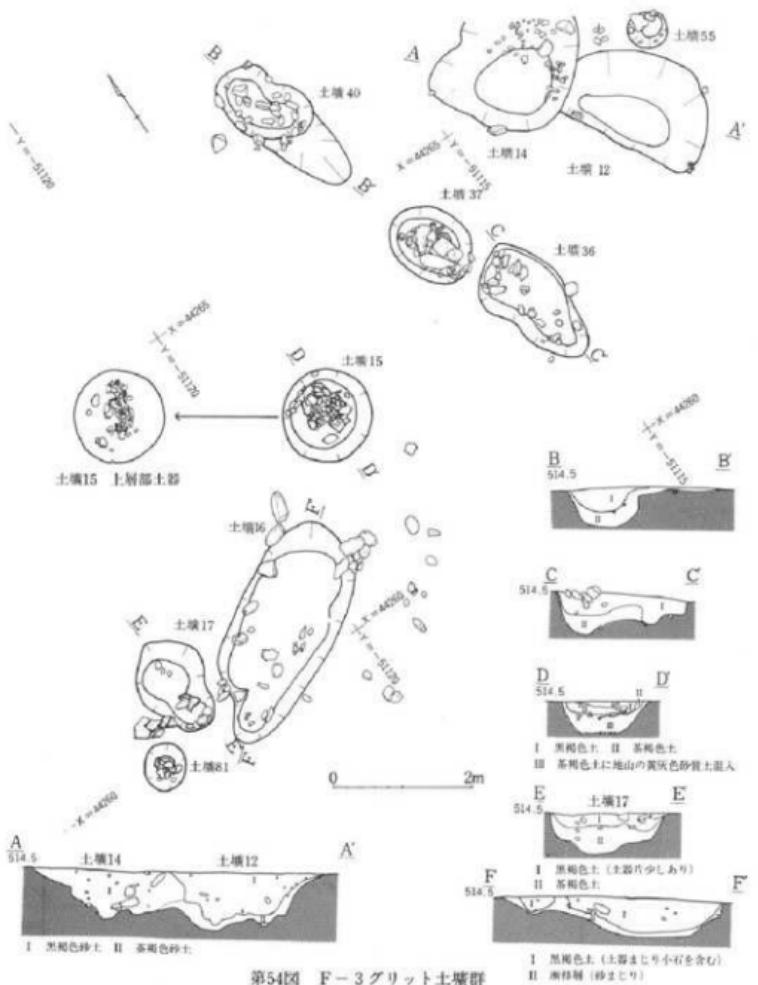
第52図 H-3グリット土壌及び土壌墓



第53図 F-1、2グリット土壙群

にして出土しており、基部は土壙の上へ出て倒立した状態であり、おそらく、土壙の端に立てられ石で固定されたものが、土壙の中へ倒れたものと推定される。この土壙のある場所は、住居址が全く存在しない場所であり、祭祀場的な場所であったと思われる。

第59図は人骨の出土した土壙で、M-13グリットにある。人骨は頭を磁北方向に向けて埋葬されており、年代は鑑定していないが中世以降のものと推定される。



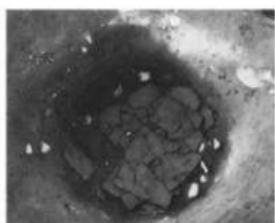
第54図 F-3 グリット土塚群



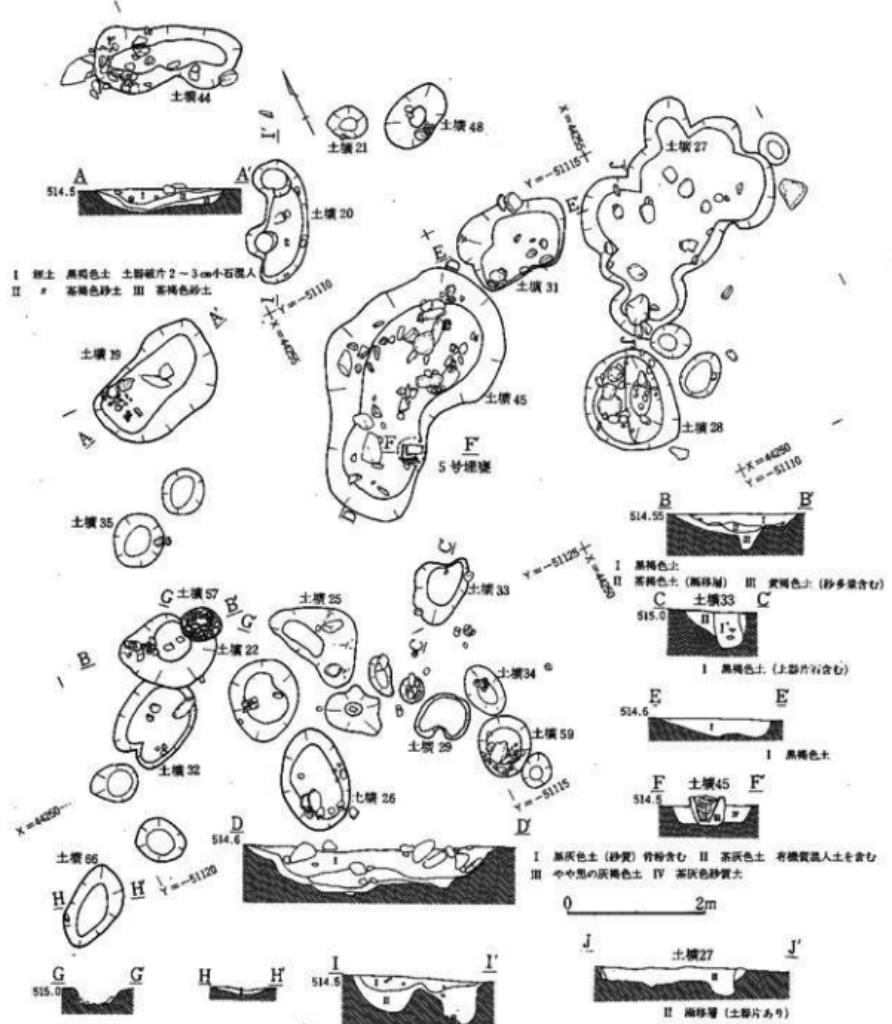
土壤-15上層出土土器



土壤-15下層出土土器



土壤-15下層出土状況



第55図 G-2、3グリット土壤群



第56図 G-3、4 土壌群



H—3 グリット土壤 (I) 第52図 出土土器



土壤44出土土器



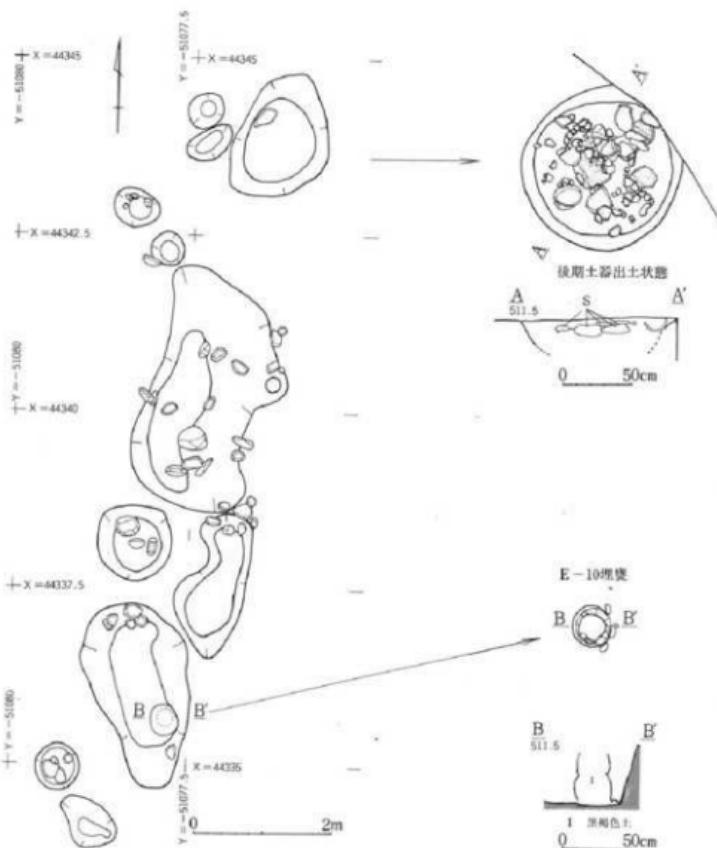
土壤22出土土器



土壤34出土土器



土壤45出土土器



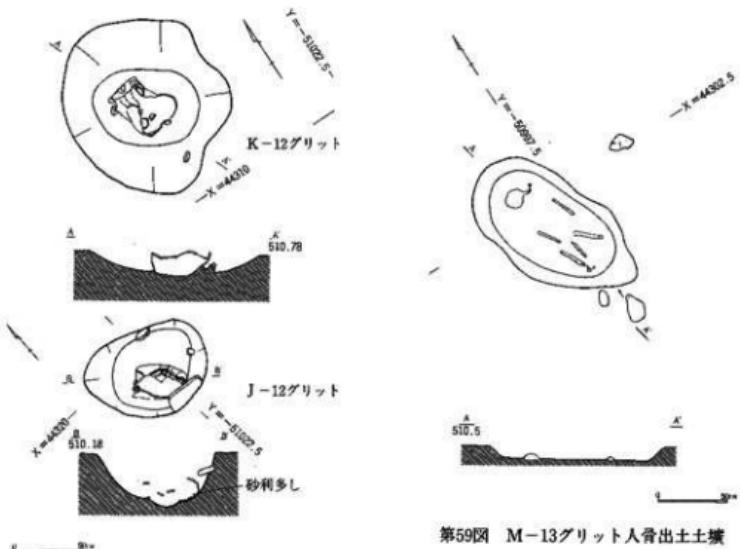
第57図 E-11、12土壤群



E-11グリット埋甌出土状況

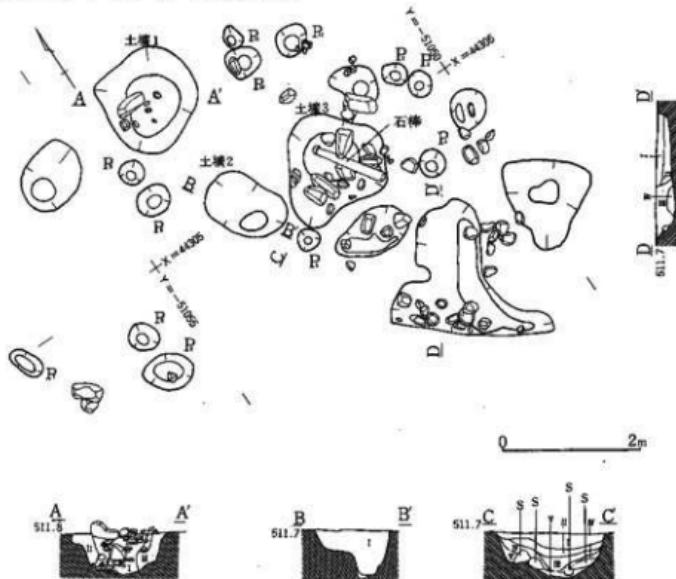


E-12グリット土壤出土土器



第59図 M-13グリット人骨出土土壤

第58図 K、J-12グリット土器出土土壤



第60図 I-10グリット土壌群



石棒出土状況



石棒出土状況



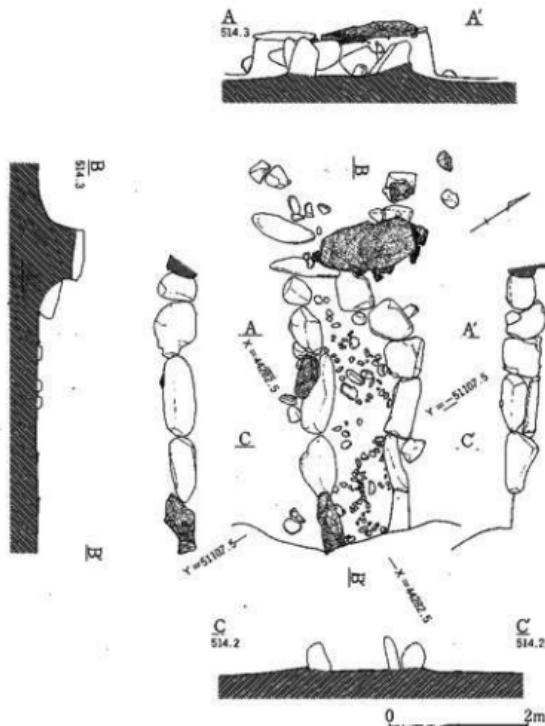
石棒頭部



M-13グリット入骨出土状況

(3) 配石遺構 (第61図～第65図)

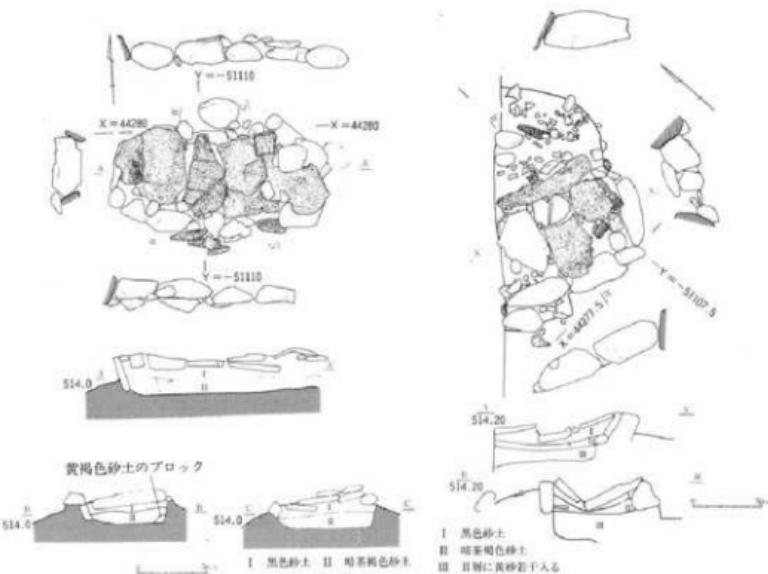
第1次調査の節、5000m<sup>2</sup>にわたって配石、集石遺構が検出された。一応集石、配石を現場で、単位ごとに番号を付して、下部の土壠との関係をえようと試みたが、未だ整理を完了していないため、本報告書には全貌を掲載できない。ここで報告するものは、石棺墓とも呼ぶべき形態を整えたものののみである。これらの遺構については、遺物が出土していないため時期は判断できないが、石棺墓の形態は縄文期のものと考えられる。しかし、本遺跡での出土状況から言えれば、集石や配石の最も上面にあり、残存状態も良好であることから、本遺跡での弥生再葬墓の上部配石だけが良好な状態であることを考慮すると弥生時代初期のものである可能性も否定できない。



第61図 第12号石棺墓



12号石棺墓



第62図 第36号石棺墓

第63図 F-5 グリット石棺墓



12号石棺墓



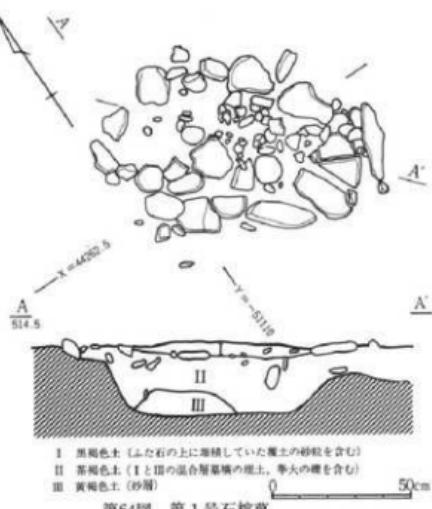
36号石棺墓



F-5 グリット石棺墓掘り上り



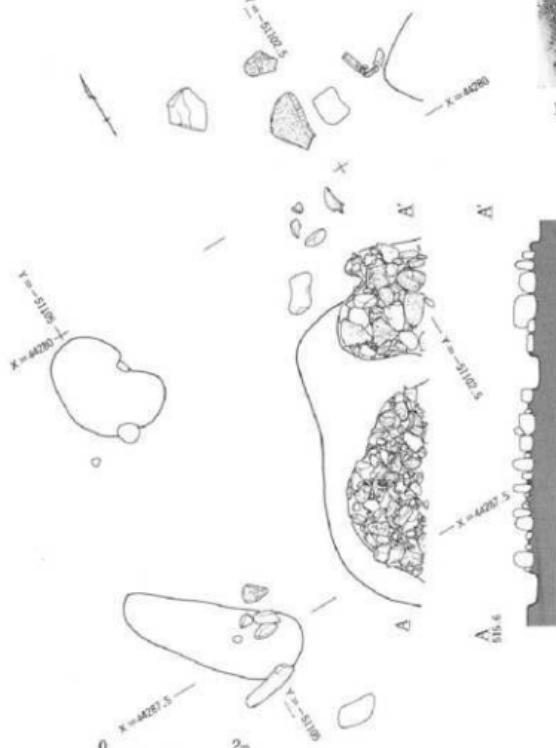
F-5 グリット石棺墓検出状況



第64図 第1号石棺墓



1号石棺墓



第65図 F-5 グリット集石土壤



F-5 グリット集石土壤

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

本遺跡では今まで弥生時代の遺物については全くその存在を知られておらず、多彩な既出資料にも痕跡を止めていない。

今回の調査では、耕土を除去した後、遺構検出作業を行ったが、約5000m<sup>2</sup>にもわたる集石、配石の中で、最も上層にしかも形の整った配石群が検出された。当初は多量に出土する縄文中期後半～後期中葉の土器の時期の配石墓群であると考えた。というのも、第1次調査時は、ちょうど長野道に伴う北村遺跡の人骨を伴うほとんど同時期の配石墓や土塙墓が注目されていた時であり、少々短絡的であったにせよ先入観を持たざるを得ない状況であった。

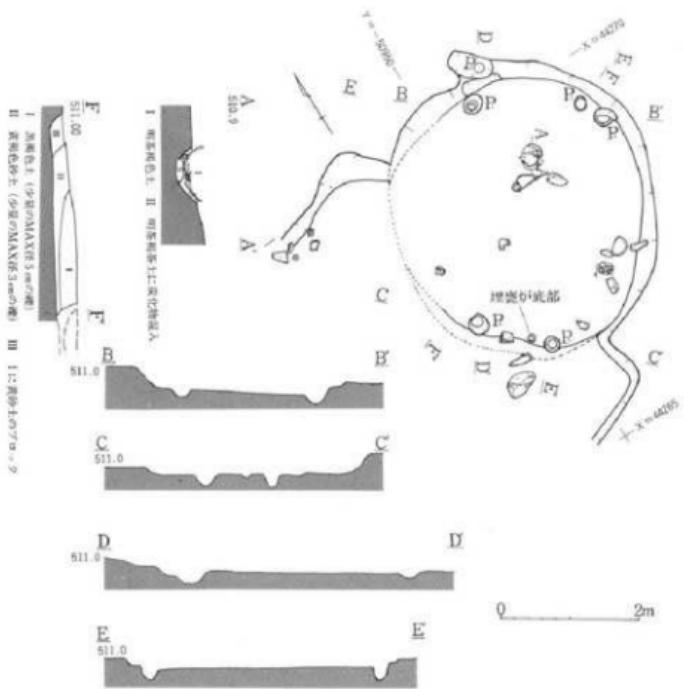
その後の検出作業で弥生中期初頭の水神平式系の条痕土器のほぼ完形品が顔をのぞかせ再葬墓の存在が明らかになった。精査の結果当初に検出された形の整った配石の下層に土塙がありここの中から壺形土器の完形品に近いものが出土したため、この配石は弥生中期初頭の再葬墓であることが判明した。県内の発掘例では松本市針塚遺跡や下伊那林里遺跡が知られているが、上部遺構の存在は明らかでなくその意味からも貴重な資料といえよう。

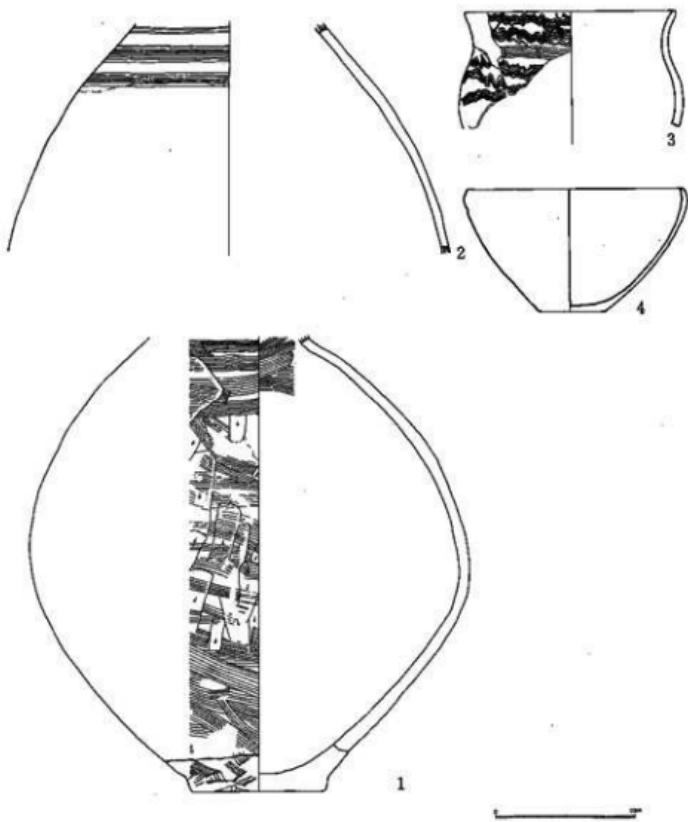
本遺跡ではこの他にも、高さ10cmほどの小形の壺が出土した規指大の砂利を敷いた砾床墓と考えられる施設などが検出された。また、遺物整理中にもテンバコ500以上もの量の土器の中から同時期の土器片などがみつかっていることから報告するもの以外に何らかの遺構の存在が予想される。なお同時期の住居址は全く検出されなかった。遺跡の最も東側に後期の住居址が1軒検出されているのみである。

#### (I) 住居址

##### Y1号住居（第66図）

検出 S-13、14グリットにあり、H13号住査時にH13号住の北東に張り出しのように見つかり、出土した土器から弥生時代の住居としY1号住とした。規模・形状 3.8m×4mの楕円形のプラン、主軸は炉の位置からN30°Eと考えられる。埋土 3層に分層されるが堆積は自然堆積である。床面・壁 床はほぼ平坦で良好である。壁は西側をH13号住に切られているが25~30cmと深くゆるやかに立ち上がる。炉 中央やや北東寄りにあり、径45cmの円形の堀り込みに壺を埋甕炉として使用している。柱穴 6ヶ所のピットを確認したが、P<sub>1</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>6</sub>の4本を主柱穴と考えるが、P<sub>2</sub>、P<sub>3</sub>を使っての建て替えの可能性もある。遺物の出土状況 埋甕炉のほか、住居址のへりに沿って土器が出土している。なお埋甕炉の底部が南側の壁ぎわから出土している。遺物 埋甕炉の壺(1)赤色塗彩壺(2)赤色塗彩鉢(4)小形壺(3)などが出土している。時期 弥生後期





第67圖 Y1号住居址出土土器



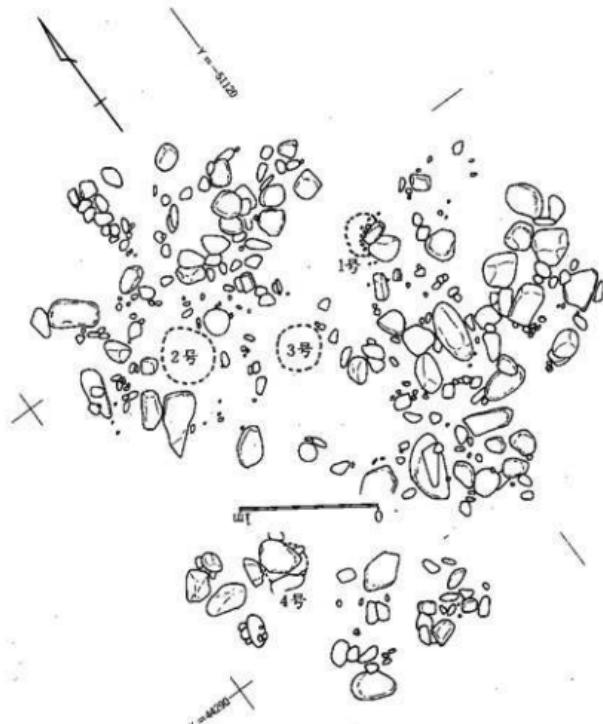
第1次調査、集石、配石全体写真

## (2) 墓 壤

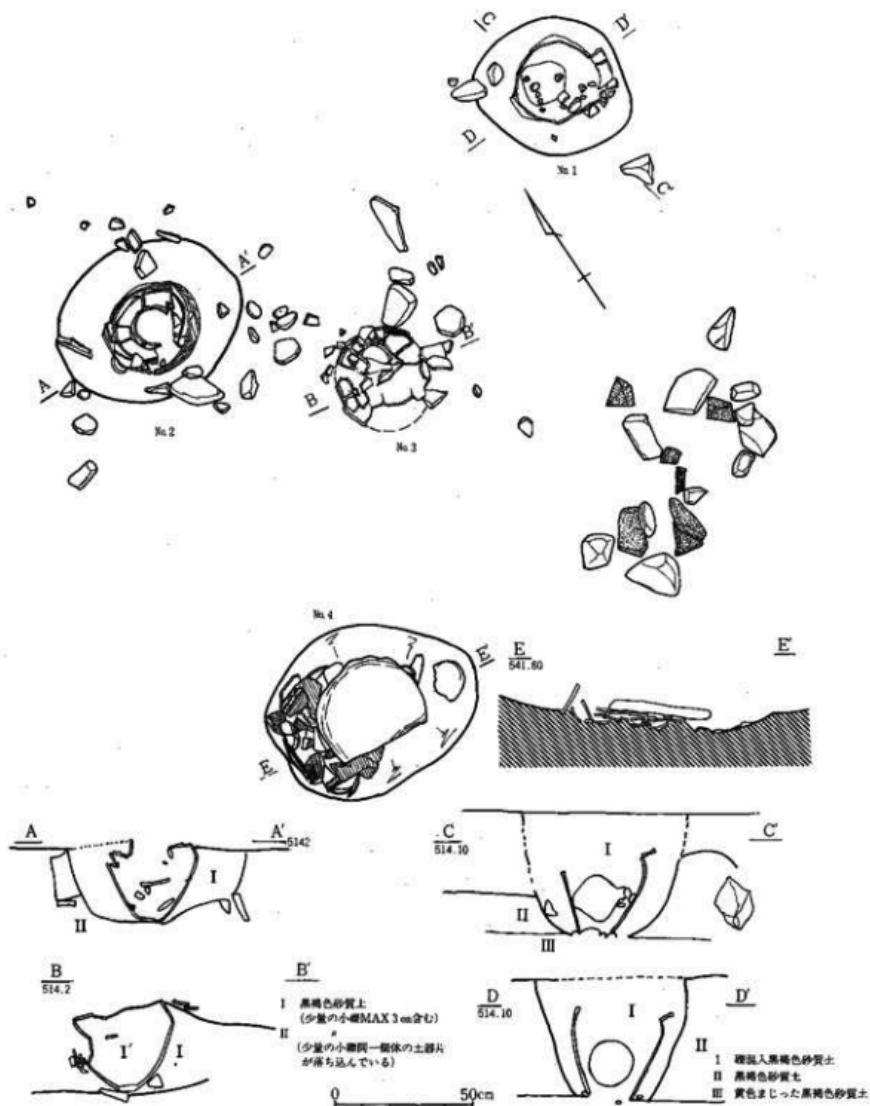
本遺跡からは、上部に配石を伴う4群16基の土器棺再葬墓と、同時期の配石墓、礫床墓と思われる遺構が検出されている。

再葬墓はA～D群の4群に大別される。A群には、壺の中に壺を埋葬したA1号をはじめ4基、B群は、水神平系の壺の周囲を板状砂岩で囲った埋葬形態をとるもの1基と遺構として明確に把握されなかったが2個体ほどの土器が出土している。C群からは、上面に配石を持ち、下層に壺を1～4個体埋葬する再葬墓7基と配石の下層が土壤のみで土器を持たないもの2基の計9基が検出されたほか、遺構として把握できなかったが、この時期の土器1個体が出土している。D群はA～C群とは50mほど離れた地点にあり第2次調査で検出された遺構で4基の土壤からなる。うち一基は遠賀川系統の壺を硬砂岩の剥片で囲んでいる。

以下順次所見を述べるが、最初にも述べたように縄文時代の配石遺構として考えたため、十分な観測に欠けていたため不明な点も多いことをおことわりしておきたい。



第68図 再葬墓A群上部配石



第69図 再葬墓A群土器出土状況

A群（第67、68図）

第1次調査の集石群中のD-5グリットにあり、表土削平中に上部を削られ、土器も口縁部を欠くものが多い。

1号墓 A群の中で最も北に位置し、埋土に親指ほどの砂利を使用しており、後述するC群の上面配石に似た配石を伴う可能性が強いが、表土削平時にすでに土器の口縁部付近まで削られたため確証はない。下部の土壤は円形に近い楕円形で直径約50cmを計る。土壤中には口縁部をかなり欠くもほぼ完形の甕が底を抜いた形で正位に埋められ、甕の中には小型の壺形土器が横位で納められていた。甕の胴部には直径3cmほどの穴があけられ、埋土の小礫と思われる小石があたかも栓をするように穴を塞いでいた。人骨及び副葬品はない。（5）は器高34cm、最大径35cmで暗褐色から黄褐色を呈す壺形土器で口縁部は外反し口唇部に刻み目をつけている。口縁から頸部は無文でヘラナデが施され、頸部から底部までは幅1.5cmほどの原体で細密条痕が施されている。裏面は頸部までがヘラナデでその下は粗いヘラケズリが見られる。表裏ともに二次焼成のため赤く色が変わりもろくなっている裏面には一部剥落が見られる。胴部上半部にはスス状の炭化物の付着が表裏に著しい。表裏には径2~3mmの植物の種子と思われる脱落痕が多く見られる。

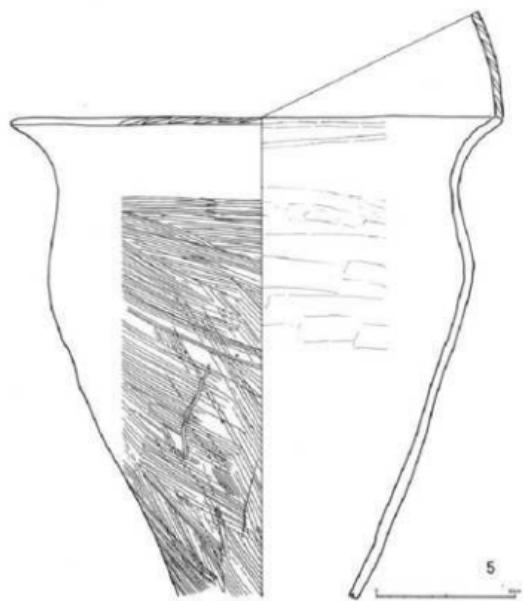
6は器高19cm、胴部の最大径17cm底径9cmを計る。胎土には1~3mmくらいの長石か石英の砂粒が多く混じり、色調は茶褐色を呈し焼成は良好である。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口縁部から頸部はユビナデで、胴上部は斜めのヘラケズリと横のナデと、ヘラミガキ、胴下部は縦のヘラケズリとナデが施されている。表面には甕と同様に植物の種子の脱落痕が見られる。



再発墓A群（左より1号、3号、2号墓）



A群1号墓土器半截状态



A群1号墓土器内半截状态



A群1号墓土器内出土土器  
出土状况

第70图 A群1号墓出土土器



A群1号墓土器内出土土器(5)

A群1号墓土器(6)

2号墓 A群中最も西に位置する。土器は表土削平時に口縁部を削られたらしく欠くがほぼ完形の壺である。土壤は70cm×55cmの楕円形の掘り方を持ち、埋土は黒褐色の砂質土に若干の小礫を含む。7は推測器高45cm、胴部最大幅33cm底径8cmを測る。色調は白っぽい黄褐色～黒褐色を帯び、内面は茶褐色～黒色を呈している。胎土はやや多く砂粒が含まれ、焼成は良好である。表面には、1号墓の土器と同様に植物種子の脱落痕が残る。口縁部にはおそらく突帶が施されるとお思われるが欠損している。頭部は幅の狭い原体による横位の条痕を施し肩部に押圧突帶をつけヘラによる割目をつけている。突帶と頭部の間には沈線による大ぶりな波状文のややくずれた山形文様を施す。肩部以下は横位～斜位の羽状条痕が施され、胴下部では継位の条痕が加わる。



A群2号墓土器出土状況

A群2号墓出土土器(7)肩部に押圧突  
帶が見られるが文様ははっきりしない



A群2号墓土器半蔵状態  
胴部以下はほとんどぶれ  
ていない。左の砂岩や右の  
礫は土器を正位に固定する  
ために埋葬時につめられたもの  
と考えられる。

3号墓 2号墓のすぐ東南にあり、4基の中間に当る。土壙の堀り方は判然としなかつたが、群中の他の墓壙と同様に円形か梢円形を呈すると思われる。土器は2個体あるが、いずれの土器も土圧により肩部より上がつぶれており、あわせて表土削平時に上面を若干削られているため関係ははっきりしない。調査時の所見では、(8)の土器の口縁部を(9)の土器が閉むように検出されており、合わせ口の可能性もあるようと思えたが、復元してみると頭部～底部まで約1/3の破片が存在しており合わせ口の可能性は薄いと思われるが判然としない。(8)の底には黒曜石の剝片が3片ていねいに並べてあった。(8)は肩部が著しく張った壺で、現高44cm、深さ径35cm、底径10cmを測る。口縁部と頭部～胴上部の約1/3を欠く。色調は赤褐色～黄褐色を呈し、胎土はやや砂質、焼成は部分的にはかなり甘く表面がボロボロとし条痕文の判然としない部分もみられる。器形は肩部が張った壺形土器で口縁部は外反する。頭部には横位の条痕文、肩部から下は斜位～縦位の幅2～3mmの条痕文が施される。底部は綱代底となる。(9)は現高40cm、最大径25cm、底径8cmを測る。色調は白っぽい黄褐色、胎土には2～3mm程度の長石か石英の砂粒をかなり含む。焼成は良好である。破片の半分以上が失われているため詳細は判然としないが、肩の張りがあまりなく、張りもかなり下がった形の壺形土器である。頭部は横位の条痕文、肩部以下は幅2cm程の原体で3～4m程の太い条痕を斜位に施している。底部は無文で中央からやや凹む。

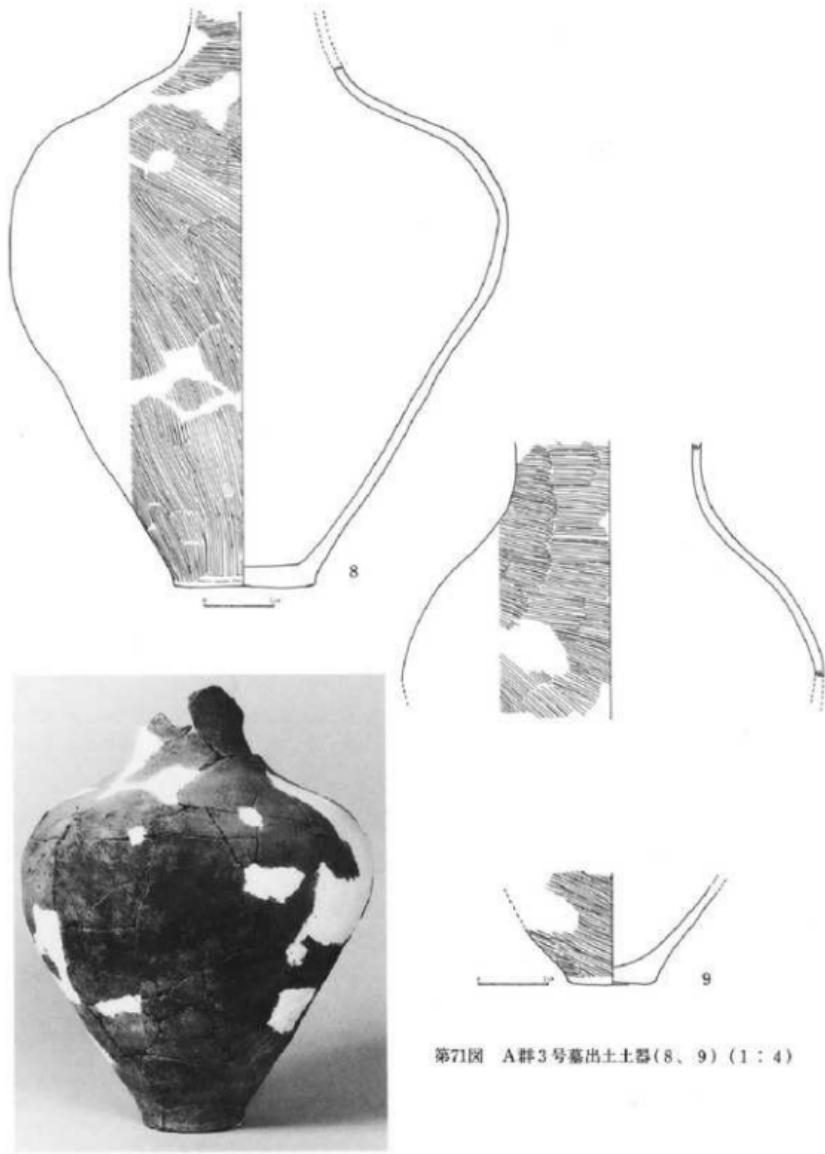
4号墓 2号墓の南1.5mと4基の最も南に位置する。1～3号の調査を終了し、地山上での遺構検出中に75cm×60cmのやや不整の梢円形の浅い土壙中に径40cm程の大きな板状砂岩に押しつぶされるように土器が発見された。他の3基よりは40～50cmほど下層となる。土器は土圧のために正位直立したものが、そのまま押しつぶされた形で出土している。土器を取り上げた土壙の下面には親指ほどの小蝶が敷ききつめられていた。(10)は色調が黄灰色～黒褐色を呈し、口縁部を欠くが器高40cm、最大径36cm、底径8cmを測る壺である。胎土には2～3mmの砂粒を含み、焼成は良好である。器形はナデ肩風にやや肩部の張りが下がる。口縁部欠くが、おそらく外反し突帯が付くものと思われる。頭部には太い横位の条痕文が施され、肩部には3条の波状文が付され、その下は再び5～6条の横位の条痕文となる。胴部は縦位の太い羽状条痕が施され、胴下部はやや粗く更に太い斜位条痕となる。底部は無文で中央が凹む。



A群3号墓土器出土状況

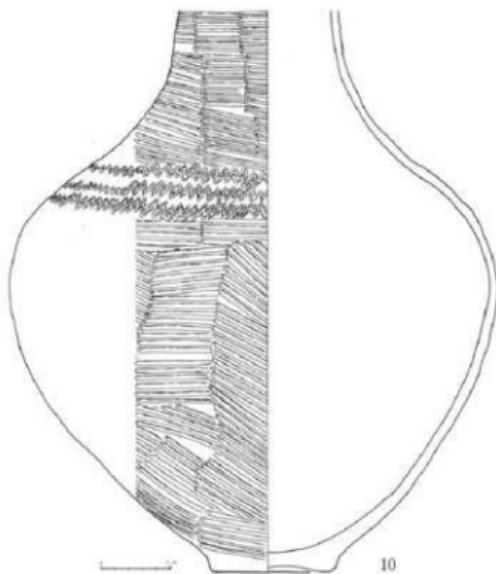


A群3号墓土器内黒曜石剝片出土状況



第71図 A群3号墓出土土器(8、9)(1:4)

A群3号墓土器(8)(黒曜石剝片出土)



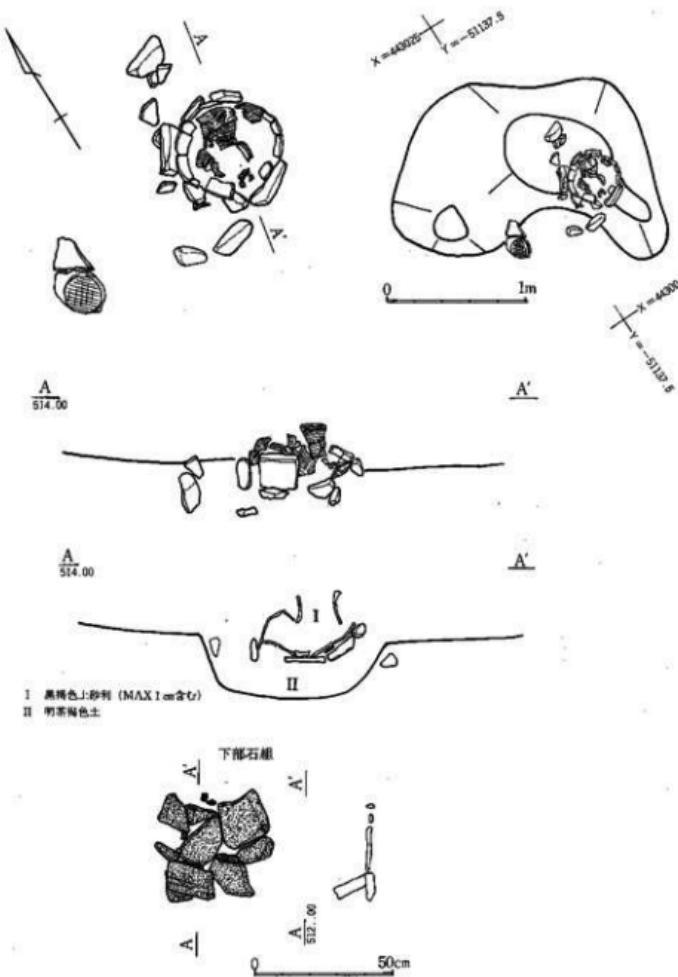
第72図 A群4号墓出土土器(10) (1 : 4)



A群3号墓土器(9)



A群4号墓土器(10)



第73図 B群土器出土状況

B群 (第73図)

B-5グリッドにあり、造構検出作業中に、水神平系土器の口縁部が姿を表したことから検出至った造構で、上部造構は不明である。土器を堀りすすめるうち肩部以下を板状砂岩で囲っていることが明らかになった。土器は土圧のために押しつぶされていたが、石囲いから頭部より上を取出している。石囲いも土器の押しつぶされた影響かやや外に開いている。残存状態からすると土

器の胴部から下を石囲いする施設であったように思われる。遺構の位置は土質が砂利層であり土壤の検出はむずかしく、しかも下部に縄文のものと思われる土壤もあり判然としなかったが、断面図の所見から径60~70cmの円形か椭円形を呈すものと思われる。石囲いの施設は土壤の底から15cmほど上につくられている。(11)は、東海地方からの移入品の可能性のある水神平式系の壺の完形品で、器高43cm、器厚は6mm、最大径23.5cm、底径14.5cmを測る。色調は淡黄褐色を呈し、胎土に2mmまでの砂粒を多く含み、焼成はややあまい。口縁部は指オサエの突帯を付け、頭部には横位の条痕文、肩部には2条の波状文、その下に3条の横位条痕を施し、胴部は上部を縱位の羽状条痕文、下部にはやや太い斜位条痕文を付す。底部は凹む。

この土器以外に付近から2~3個の土器が出土しているが、整理段階での発見であり、遺構は不明であるが、壺(12)、及び甕(13)であり、B群も2~3基の墓群の可能性もある。



B群再葬墓



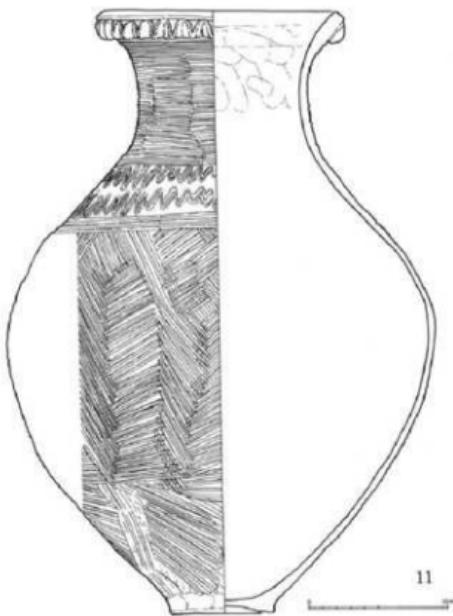
B群再葬墓土器出土状況



B群再葬墓下部石組み遺構



B群再葬墓土器出土状況



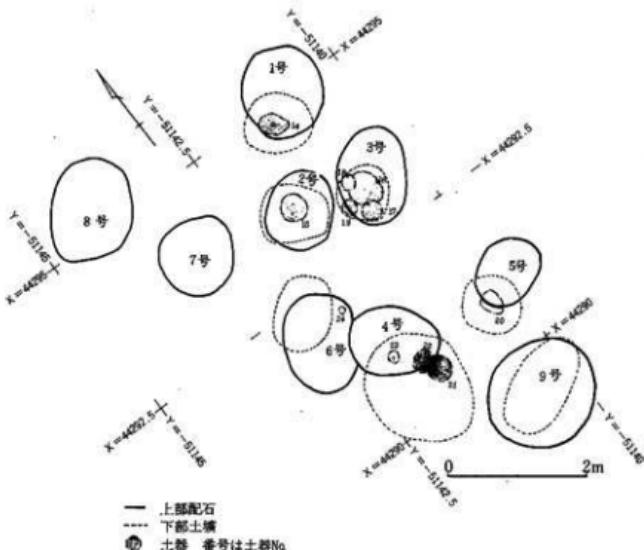
第74図 B群出土土器(11) (1:4)



B群再葬墓土器(11)



B群再葬墓土器(13)

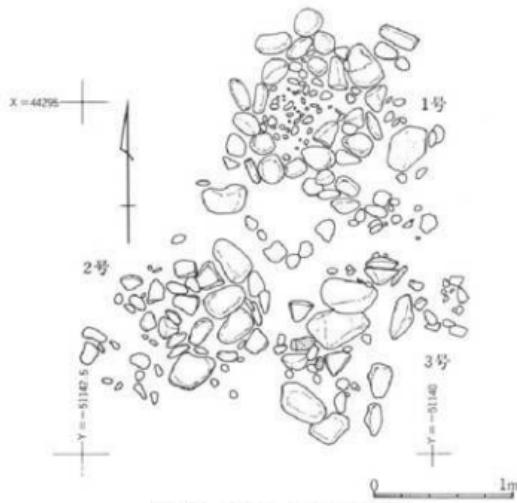


第75図 C群模式図

#### C群（第75図）

集石部分の中央、B、C-4グリットにあり、今回発見の再葬墓群中でこの群だけが上部の配石を検出することができた。また9基と4群中最も数が多く、すぐ東側には砾床墓らしい遺構もあり墓群の中心と思われる。9基のうち土器の出土が見られるもの7基（うち7号は出土状況不明、6号は小形土器で副葬品的要素が強い。）2基は土器を持たない配石墓とすべきものである。10基のうち、4号と6号は、上部配石か一部切り合が、下部土壙では切り合い関係になく関係は明確でない。なお5号基付近から上面配石の高さで(27)の土器が出土しているが、遺構との関係はわからない。

1号墓 C群中最も北に位置する。上部配石は径120×135cmの楕円に近い円形に30~15cmの砾を二重に配し、中に親指~こぶし程度の小砾をつめる。配石の面では土壙は検出できなかったが、配石から南へややずれ下層で地山に40×50cmの楕円形に浅い不整形の堀り方が見え、中に(14)の土器が横倒しの状態でつぶされて出土した。(14)は頸部から上を欠くが肩部から底部にかけて胴部が直線的にすぼまる壺で、器高34.5cm、幅29cm、器厚5mmを測る。色調は白っぽい茶褐色を呈し胴部から底部にかけてかなり黒変が見られる。胎土には1~2mmほどの砂粒が目立つ。焼成はややあくまで裏面は剥落が著しい。肩部には横位の条痕文の上に縦位の太い条痕文が交互に施され、胴部は横位~斜位の条痕文となる。底部近くにはヘラケズリ痕が残り、底は網代底で凹む。



第76図 C群1～3号墓上部配石

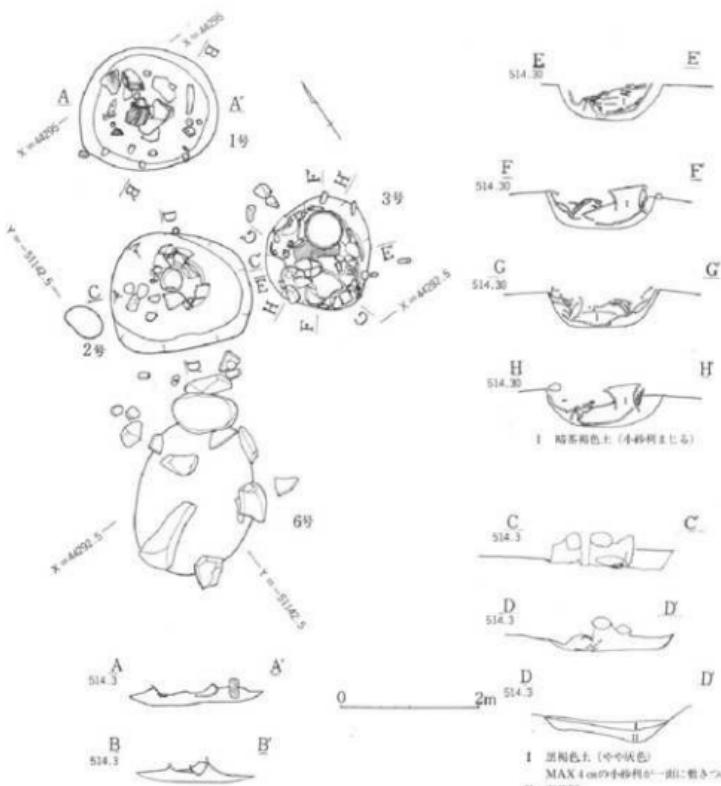


左C群1号墓上部配石

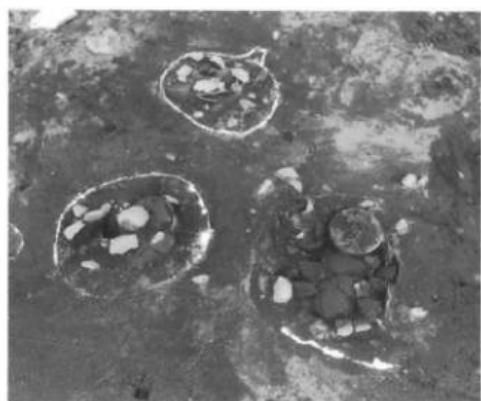
下左C群2号墓上部配石

下右C群3号墓上部配石





第77図 C群1～3号墓出土状況



C群1号～3号 墓出土状況 (中央奥1号、手前左2号、手前右3号)

**2号墓** 1号の南に隣接している。上部配石は30~50cmの大き目の礫とやや小ぶりな礫で110cm×100cmの不整な楕円に配石している。1号と同様堀り方は上面では確認できない。下層の土壙はほぼ配石の直下にみられ100×70cmの隅九方形に近い楕円形を呈す。土壙内には頸部から上を欠く壺形土器が正位、直立のまま押しつぶされて出土した。土壙の底部には2層にわたって砂利層がつくられており、上層は4cmほどの小砂利が5cm~10cm敷かれ、下層は10~15cmの厚さで上層より大き目の15cm前後の礫が敷いてあった。上層の表面には黒曜石の大小様々な剥片が11片敷かれていた。15は肩の張った壺で、現高34.5cm、最大径35.4cm、底径10cmを測る。色調は、赤褐色~黄褐色を呈し胴部に若干の黒変が見られる。胎土は1~2mmの微細な砂粒混じる。肩部はLRの繩文を施し、磨消の後、半截竹管による3条の沈線を施している。胴部は太めの横位から斜位の条痕が底部までつけられ、外面に接合痕が残る。底は網代底。

**3号墓** 2号墓の東側に隣接し、140cm×100cmの長円形に、30~50cmほどの礫を並べてあるが、プランはあまり明確ではない。下部の土壙は、配石中央より若干ずれて径80cmの不整円形の堀り方を持ち、中に大形壺2、小形壺2の4個体が正位直立のまま押しつぶされた形で出土している。土壙には当初検出時に西側に小さい張出しが見られたが、堀り上げの段階では確認できなかった。(16)は器高70cm、口径25cm、最大径48cm、底径8cmの大型の壺で、口縁部にヘラで刻目を入れた突帯文を、口唇部に大ぶりな押引文を施している。頸部は横位の条痕をめぐらし、肩部から胴部にかけては6本のT字文、胴下部には横位の条痕文を施している。底部近くはヘラケズリによる整形が行われている。胎土は白色微砂粒を含み、色調は淡茶褐色を呈し、焼成は良好である。(17)は現高45cm、最大径36cm、底径8cmの大型の壺で、色調は褐色~黒灰色を呈する。胎土は微小砂粒を多量に含む。焼成は良好である。頭部から上を欠き、肩部には補修孔がある。肩部には沈線で区画した磨消繩文が施され、磨消部分は赤色塗彩がされている。胴部以下は上部をヘラによる横位のナデ、下部は斜位のヘラケズリを行っている。底部は木葉痕と思われるが磨滅している。(18)は、器高30cm、口径10cm、最大径23cm、底径8cmを測る小型の壺で、色調は赤褐色~青灰色を呈する。胎土は砂質で微小白色砂粒を多量に含んでおり、焼成はあまくもろいため表面はザラついている。口縁部は指頭押圧により著しく外反し、口唇部にヘラによる刻目を施している。頸部は粗い横位の条痕文が付され、肩部は稚拙な4条の波条文を巡らしている。胴部は横位~斜位の粗い条痕が施されている。底部は木葉痕と思われるが磨滅が著しい。(19)は、器高31cm、口径14cm、最大径22cm、底径7cmを測る小形の壺で、頸部はすばまらず太い。色調は淡赤褐色~灰色を呈し、胎土は砂質で微小砂粒を多く含み、焼成はあまくもろい。(18)の土器と胎土、焼成、色調ともによく似る。口縁部は外反し、口唇部には刻目が施される。頭部から胴下部までは、幅1.4cmの板材による条痕文が付されるが、下部は間隔がひらき乱雑となる。底部近くはヘラナデが施されている。底部は木葉痕。